佐久市埋蔵文化財調査報告書 第11集

赤座垣外遺跡

AKA ZA GAI TO

長野県佐久市岩村田赤座垣外遺跡報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第11集

赤座垣外遺跡

AKA ZA GAI TO

長野県佐久市岩村田赤座垣外遺跡報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

例　　言

1　本書は、市道２－83号線（緊急地方道整備事業）に伴う栗毛坂遺跡群赤座垣外遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査委託者　　佐久市建設部土木課　　調査受託者　　佐久市教育委員会

3　発掘調査対象地の地番および面積

赤座垣外遺跡（ＩＫＡ）　　長野県佐久市大字岩村田字赤座垣外3621－４他、4,749㎡

4　調査期間

（発掘調査）　　平成２年９月１日～平成２年11月27日

（整理作業）　　平成３年１月８日～平成３年３月29日

（　〃　）　　平成３年10月１日～平成４年３月27日

5　事務局および調査団の構成

（事務局）　佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教　育　長　　大井季夫　　教育次長　　小池八郎、奥原秀雄

開発公社事務局長　佐々木正泰　　課長兼所長　　相沢幸男、上原正秀

管　理　係　　桜井牧子（係長）、東城公人、田島清巳、関口美咲（臨時）

埋蔵文化財係　　相沢幸男（係長兼務）、草間芳行（係長）、高村博文、林幸彦、三石宗一、須藤隆司、小山岳夫、小林真寿、羽毛田卓也、翠川泰弘、助川朋広

（調査団）

団　　長　　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副　団　長　　白倉盛雄（佐久考古学会副会長）　藤沢平治（佐久市文化財審議委員）

調査担当者　　林幸彦（佐久市教員委員会）　　調査主任　　佐々木宗昭

調査員・調査補助員　　堺益子、浅沼ノブ江、遠藤しづか、金森治代、香山優子、小林よしみ、並木ことみ、橋詰信子、羽毛田香里、星野良子、渡辺久美子

協　力　者　　堀籠因、甘利亘、磯貝はな、白井おくに、柏原松枝、小林永一、小林和義、星野重一、丸山澄、柳沢時枝

6　編集・執筆は佐々木が、遺物・遺構の復元・実測・トレスは調査員・調査補助員が行った。

7　本調査に関するすべての資料は、佐久市教員委員会の責任下に保管されている。

また、報告書作成にあたり、下記の各氏より多大なご指導・ご助言を賜った。

臼田武正、島田恵子、堤　隆、福島邦男、由井茂也

凡　　例

1　本書では、遺構の名称について次の略号で表示した。

Ｈ→竪穴住居址　Ｆ→掘立柱建物址　Ｄ→土坑　Ｍ→溝状遺構

2　挿図の縮尺

竪穴住居址＝１：80、カマド＝１：40、掘立柱建物址＝１：80、土坑＝１：80

その他については、各遺構に示した。

3　写真図版の縮尺

土器・石器１／４、石鏃１／１

4　出土遺物の一覧表は、－は不明、（　）は推定値、〈　〉は現存値とした。単位はcm、法量は口径、底径、器高の順に記載した。

5　遺物胎土・土層の色調は『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

6　挿図中におけるスクリーントーンは、以下のものを表す。

カマド・火床・焼土＝網点（太）　　土器断面・須恵器断面＝網点（細）

土器内外面黒色処理＝網点（太）

目　　次

例　　言
凡　　例
目　　次
挿図目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　第１節　発掘調査に至る動機……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と周辺遺跡
　第１節　赤座垣外遺跡と周辺遺跡の分布……2
第Ⅲ章　発掘調査の概要
　第１節　基本層序……3
　第２節　調査された遺構……3
第Ⅳ章　調査の記録
　第１節　竪穴住居址……4
　第２節　掘立柱建物址……8
　第３節　土坑……9
　第４節　溝状遺構……11
第Ⅴ章　調査のまとめ……12
挿図……14
遺構土層説明一覧……39
遺物観察表……42
写真図版

挿　　図　　目　　次

第１図　赤座垣外遺跡位置図……1
第２図　周辺遺跡分布図……2
第３図　赤座垣外遺跡基本層序……3
第４図　Ｈ１号住居址実測図……14
第５図　Ｈ１号住居址出土土器実測図……15
第６図　Ｈ２号住居址実測図……16
第７図　Ｈ２号住居址出土土器実測図……16
第８図　Ｈ３号住居址実測図……16
第９図　Ｈ３号住居址出土土器実測図（１）…16
第10図　Ｈ３号住居址出土土器実測図（２）…17
第11図　Ｈ４号住居址実測図……17
第12図　Ｈ４号住居址出土土器実測図（１）…17
第13図　Ｈ４号住居址出土石器実測図……17
第14図　Ｈ４号住居址出土土器実測図（２）…18

第15図　Ｈ５号住居址実測図……18
第16図　Ｈ５号住居址出土土器実測図……18
第17図　Ｈ６号住居址実測図……19
第18図　Ｈ６号住居址出土土器実測図……19
第19図　Ｈ７号住居址実測図……19
第20図　Ｈ７号住居址出土土器実測図……20
第21図　Ｈ７号住居址出土石器実測図……20
第22図　Ｈ８号住居址実測図……20
第23図　Ｈ８号住居址出土土器実測図……20
第24図　Ｈ９号住居址実測図……21
第25図　H10号住居址出土石器実測図……21
第26図　H10号住居址実測図……21
第27図　H10号住居址出土土器実測図（１）…21
第28図　H10号住居址カマド実測図……22
第29図　H10号住居址出土土器実測図（２）…22
第30図　H10号住居址出土土器実測図（３）…23
第31図　H11号住居址実測図……23
第32図　H11号住居址カマド実測図……23
第33図　H11号住居址出土土器実測図……23
第34図　H12号住居址実測図……24
第35図　H12号住居址カマド実測図……24
第36図　H12号住居址出土土器実測図……25
第37図　H13号住居址実測図……25
第38図　H13号住居址カマド実測図……25
第39図　H13号住居址旧カマド実測図……25
第40図　H13号住居址出土土器実測図……26
第41図　H14号住居址実測図……26
第42図　H15号住居址実測図……26
第43図　H15号住居址出土土器実測図……26
第44図　H16号住居址実測図……27
第45図　H16号住居址出土土器実測図……27
第46図　H16号住居址出土石器実測図……27
第47図　H17号Ａ住居址実測図……27
第48図　H17号Ｂ住居址実測図……28
第49図　H17号Ｂ住居址出土土器実測図……28
第50図　H17号Ｂ住居址カマド実測図……28
第51図　H18号住居址実測図……29
第52図　H18号住居址出土土器実測図……29
第53図　Ｆ４号・Ｆ５号掘立柱建物址実測図…29
第54図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図……30
第55図　Ｆ３号掘立柱建物址実測図……30
第56図　Ｆ２号掘立柱建物址実測図……30
第57図　Ｄ１号土坑実測図……31
第58図　Ｄ２号土坑実測図……31
第59図　Ｄ３号土坑実測図……31
第60図　Ｄ１号土坑出土土器実測図……31
第61図　Ｄ４号土坑実測図……31
第62図　Ｄ５号土坑実測図……31
第63図　Ｄ６号土坑実測図……31
第64図　Ｄ５号土坑出土石器実測図……31
第65図　Ｄ６号土坑出土土器実測図（１）……31
第66図　Ｄ６号土坑出土土器実測図（２）……32
第67図　Ｄ７号土坑実測図……32
第68図　Ｄ７号土坑出土土器実測図……32
第69図　Ｄ８号土坑実測図……32
第70図　Ｄ８号土坑出土土器実測図……32
第71図　Ｄ９号土坑実測図……32
第72図　D10号土坑実測図……33
第73図　D11号・D12号土坑実測図……33
第74図　D13号土坑実測図……33
第75図　D14号土坑実測図……33
第76図　Ｍ１号溝状遺構実測図……33
第77図　Ｍ２号溝状遺構実測図……34
第78図　Ｍ３号・Ｍ４号溝状遺構実測図……34
第79図　Ｍ５号溝状遺構実測図……35
第80図　Ｍ６号溝状遺構出土土器実測図……35
第81図　Ｍ６号・Ｍ７号溝状遺構実測図……35
第82図　Ｍ８号・Ｍ９号溝状遺構実測図……36
第83図　M10号溝状遺構実測図……36
第84図　M12号溝状遺構実測図……36
第85図　M11号溝状遺構出土石器実測図……36
第86図　M11号溝状遺構実測図……37
第87図　M13号溝状遺構実測図……37
第88図　トレンチ・グリッド出土遺物実測図…38

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

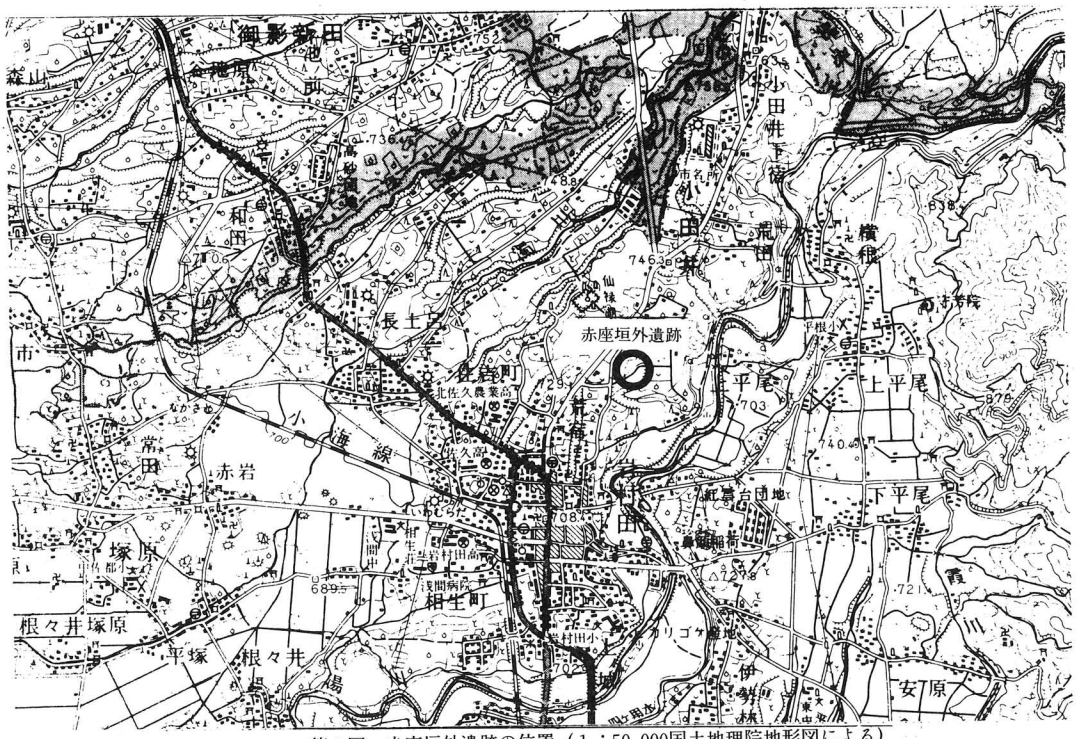
第１節　発掘調査に至る動機

赤座垣外遺跡は、佐久市の北部の栗毛坂遺跡群南西部にあり、標高735ｍ内外を測る。

付近の六供後遺跡、芝間遺跡、柳田遺跡、上久保田向遺跡、曽根新城遺跡等が佐久市教育委員会佐久埋蔵文化財調査センターにより発掘調査され、縄文・古墳・奈良・平安時代の遺構が検出されて、縄文時代早期をはじめとして多くの土器や石器等が出土した。

また、長野県埋蔵文化財センターが上信越高速道路建設に伴い栗毛坂遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを発掘調査し縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代・中世の遺構が検出され、遺物が出土している。

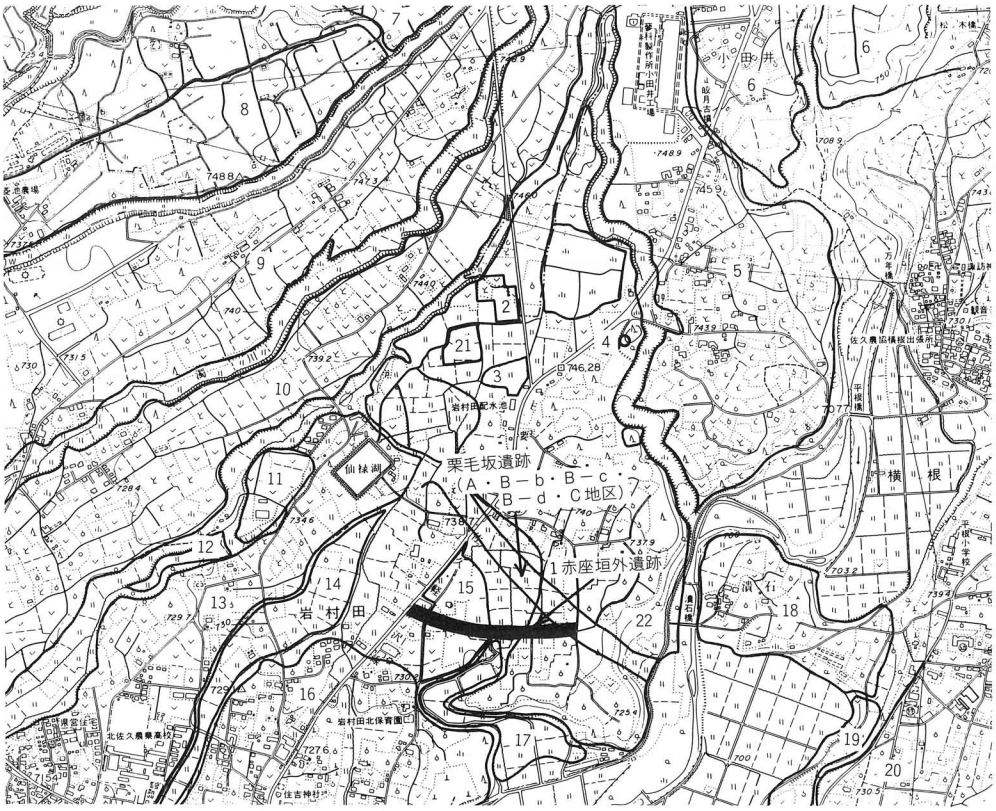
この度、佐久市土木課により市道２－83号線の道路改良が行われることになり、遺跡の記録保存が必要となった。市土木課から埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センターが依頼を受け緊急発掘調査を実施するはこびとなった。



第１図　赤座垣外遺跡の位置（１：50,000国土地理院地形図による）

第Ⅱ章　遺跡の位置と周辺遺跡

第１節　赤座垣外遺跡と周辺遺跡の分布



第２図　周辺遺跡分布図（１：20,000）

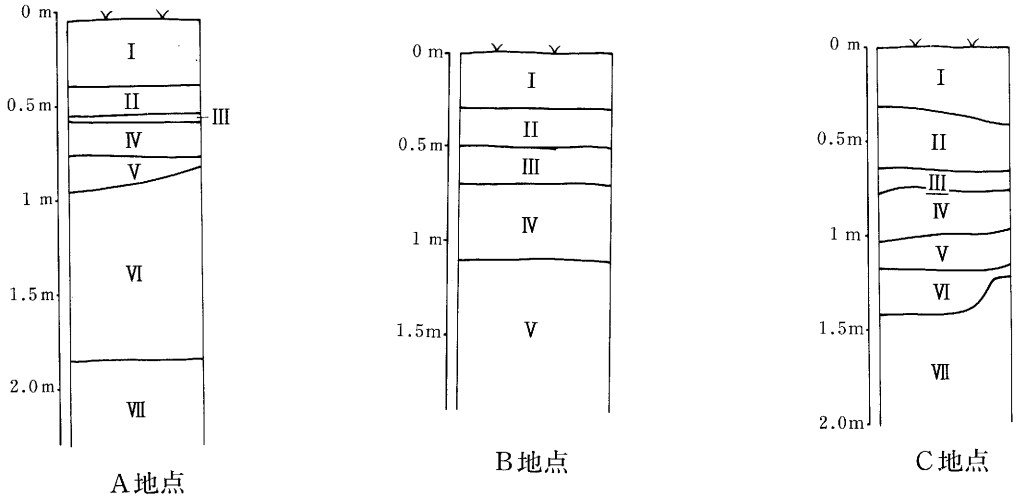
第１表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	立地	時代 縄	弥	古	奈	平	中
1	赤座垣外遺跡	岩村田字赤座垣外				○	○	○	○
2	上曽根遺跡	岩村田字上曽根	台地			○	○	○	
3	中曽根遺跡	岩村田字中曽根	〃						
4	鵜縄澤端一里塚	岩村田字鵜縄澤端	〃						
5	跡坂遺跡群	小田井字皎月他	〃		○	○	○	○	
6	中金井遺跡群	小田井字西浦他	段丘		○	○	○	○	○
7	曽根城遺跡	小田井字曽根城	台地	○	○	○	○	○	
8	周防畑遺跡群	長土呂字周防畑他	〃	○	○	○	○	○	
9	芝宮遺跡群	長土呂字北上中原他	〃	○	○	○	○	○	
10	長土呂遺跡群	聖石　他	〃		○	○	○	○	○
11	曽根新城跡	岩村田字下穴虫	台地						○

No.	遺跡名	所在地	立地	時代 縄	弥	古	奈	平	中
12	新城遺跡	岩村田字新成	低地		○	○	○	○	
13	枇杷坂遺跡群	岩村田字枇杷坂	台地		○	○	○	○	
14	中久保田遺跡	岩村田字中久保田	〃		○	○	○	○	
15	西赤座遺跡	岩村田字西赤座他	〃		○	○	○	○	
16	岩村田遺跡群	岩村田字六供後他	〃		○	○	○	○	○
17	上岩子遺跡	岩村田字上岩子他						○	
18	潰石遺跡	上平尾字潰石・中川原	低地		○	○	○	○	○
19	腰巻遺跡	下平尾字腰巻・高内	台地		○	○	○	○	
20	西大久保遺跡群	上平尾字西大久保他	段丘	○	○	○	○	○	
21	西曽根遺跡	岩村田字西曽根	台地						
22	芝間遺跡	岩村田字東芝間				○		○	○

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　基本層序



第３図　赤座垣外遺跡基本層序

付図に示した調査区の三ケ所（A、B、C地点）において土層観察を行った。その結果A地点での層序Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層、並びに、B地点でのⅡ・Ⅲ層はいずれも過去における河川の氾濫を示すものであった。しかし、A地点で確認された河川層（Ⅱ～Ⅳ層）は、当地点で検出された中世城跡に伴うと考えられる「堀」の上部層であることが認められ、中世以後の河川層であることが看取された。一方B地点で確認された河川層（Ⅱ・Ⅲ層）は、H１号住居址に切られていることから平安時代以前の河川層であることが認められた。

第２節　調査された遺構

検出された遺構は、竪穴住居址19棟、掘立柱建物址５棟、土坑14基、溝状遺構13基であった。

19棟の竪穴住居址を時代別にみると、古墳時代後期が４棟、奈良時代３棟、平安時代10棟、時期不明が２棟であり、古墳時代～平安時代に展開された遺跡であることが判明した。

掘立柱建物址は、５棟が検出された。しかし、いずれも正確な時期決定はなし得なかった。

土坑は14基が検出され、D８号・D９号土坑は、粘土の採掘坑とおもわれる。また、D６号・D７号土坑は、第Ⅴ章でもふれてあるように「畜獣埋葬」の形態をしめしている。

溝状遺構は13基が検出され、古墳時代後期～中世とおもわれる溝が検出された。このうちのM13号溝状遺構は、大井城跡に関する堀と考えられようか。

第Ⅳ章　調査の記録

第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第４・５図）

形状　グリッドお－６・７より検出された。住居址の南西コーナーは、排水溝により、中央部付近は果樹木に破壊されている。東西辺5.1m、南北辺4.5mの隅丸方形を呈する。

面積　22.4㎡　　**方位**　Ｎ－12°－Ｗ

床面　貼り床状で堅い。特にカマド周辺部は堅緻である。東側床面には焼土の残痕が認められた。ピットは５個確認され、内P_4は入口部施設によるものと思われる。確認面からの壁高は25～40cmを測る。カマドは北壁中央に設置される。残存状況は希薄であった。

遺物　主にカマド周辺より須恵器坏・壺・土師器坏・甕類が出土した。

本址の所産期は出土遺物より平安時代と思われる。

Ｈ２号住居址（第６・７図）

形状　グリッドか－10より検出された。住居址の南壁は耕作により削平されている。東西辺3.1m、南北辺3.7mの隅丸長方形を呈する。

面積　10.3㎡　**方位**　Ｎ－13°－Ｗ

床面　比較的軟弱であった。ピットは４個確認され、確認面からの壁高は約10cmを測る。カマドは東壁の南端部に設置される。残存状況は希薄であった。当部周辺にはカマド構築材と思われる軽石、安山岩の石が散在する。

遺物　土師器坏・甕・須恵器甕が出土した。

本址の所産期は出土遺物より平安時代であろう。

Ｈ３号住居址（第８・９・10図）

形状　グリッドか－11より検出された。本址の壁部残存は住居の北隅のみで、他は耕作等により削平されている。床面の残存形状から東西辺約3.2m、南北辺約2.8mの隅丸方形と推察される。　**面積**　8.9㎡　**方位**　Ｎ－22°－Ｗ　**床面**　貼り床状で比較的軟弱である。ピットは７個確認された。確認面からの壁高は北隅のみが計測でき約10cmである。カマドの残存状態は極めて希薄である。北壁中央部に煙道と思われる張り出し、焼土の残存などからカマドは当部に設置されたことが考えられる。　**遺物**　出土遺物は、土師器坏・高台付坏・甕等が出土した。

本址の所産期は出土遺物より平安時代である。

Ｈ４号住居址（第11・12・13・14図）

形状　グリッドき－12・13より検出された。住居址の大半は耕作等により削平され、北壁及び西壁の一部が残存する。規模等面積、方位は不明である。　**床面**　残存する床面は、比較的堅く貼り床状であった。ピットは３個確認された。壁高は６～14cmを測る。カマドは北壁中央に設置される。残存状況は希薄であった。　**遺物**　カマド内、その周辺より土師器坏・甕・須恵器坏等が出土した。

本址の所産期は出土遺物より平安時代であ

る。

Ｈ５号住居址（第15・16図）

形状　グリッドき－13より検出され、Ｈ４号・Ｈ６号住居址と重複関係にある。本址の東壁部は排水溝及びＨ６号址に破壊され、西南コーナーはＨ４号址に破壊されている。規模等面積、方位は不明。　**床面**　貼り床状で軟弱。ピットは確認されなかった。残存壁高は15～25cmを測る。カマドの位置等は不明。

遺物　床面より土師器坏・甕が出土した。

本址の所産期は、出土遺物・Ｈ４号址との重複関係より古墳時代後期である。

Ｈ６号住居址（第17・18図）

形状　グリッドき－13より検出された。Ｈ５号址と重複関係にあり、本址はＨ５号址の東側一部を破壊し、本址の西側は排水溝により破壊されている。東西辺約3.5ｍ、南北辺約3.0ｍの隅丸長方形を呈する。　**面積**　13.5㎡　**方位**　Ｎ－19°－Ｅ　**床面**　比較的軟弱であったが、北東コーナー付近は堅いことが認められた。ピットは検出されない。確認面からの壁高は８～23cmを測る。カマドは検出されなかった。　**遺物**　床面より土師器坏・甕・覆土中より須恵器坏が出土した。

本址の所産期は出土遺物より古墳時代後期である。

Ｈ７号住居址（第19・20図）

形状　グリッドか－13より検出された。本址の南東部はＨ８・Ｄ５号址に破壊され、更に暗渠排水が南北に横断する。又、住居址の北壁部は調査区域外である。規模等面積、方位は不明である。　**床面**　貼り床状で軟弱。ピットは７個確認され、P_1・P_2は礎石を有する。壁高は、０～16cmを測る。カマドの位置等は不明である。　**遺物**　床面より須恵器の坏、S_2礎石の直下より磨製石斧、覆土中より須恵器長頸壺・突帯付四耳壺・土師器坏・甕が出土した。

本址の所産期は出土遺物より平安時代である。

Ｈ８号住居址（第21・22・23図）

形状　グリッドか・き－13より検出された。本址はＤ５号址と重複し、住居址の東側部は破壊されている。東西辺3.05ｍ、南北辺3.5ｍの隅丸長方形を呈する。　**面積**　8.4㎡　**方位**　Ｎ－14°－Ｗ　**床面**　貼り床状で軟弱。ピットは３個確認された。壁高は０～約10cmであった。カマドの位置等は不明である。

遺物　床面の直上部より土師器坏、覆土中より土師器甕、須恵器坏が出土した。

本址の所産期は出土遺物・Ｄ５号土坑との重複関係から平安時代であろう。

Ｈ９号住居址（第24図）

形状　グリッドき－14より検出された。住居址の大半は耕作による削平、暗渠排水、更にはＤ７号土坑により破壊されている。規模等面積、方位は不明である。　**床面**　軟弱であった。ピットは１個確認された。壁高は０～23cmであった。カマドの位置等は不明である。　**遺物**　図示できた遺物はなく、覆土中より土師器甕片が出土した。本址の所産期は判明でき得る遺物等がなく判然としないが、Ｄ７号土坑（平安時代）に破壊される点より平安時代以前の住居址であろう。

H10号住居址（第25・26・27・28・29・30図）

形状　グリッドか・き－14より検出された。本址はH11号・D８号土坑と重複し、南隅は暗渠排水に破壊される。H11号住居址の西側部を破壊しているが、D８号址との関係は判然としなかった。東西辺3.2m、南北辺3.6mの隅丸長方形を呈する。　**面積**　11.7㎡

方位　N－30°－W　**床面**　貼り床状で比較的堅い。ピットは東壁面の直下に５個、西壁面の直下に６個いずれも径20cm前後の小規模のものが配列される。又、東西の壁面中央直下には、約60×20×５cmを測る壁溝状の掘り込みが認められ、南壁の直下に入口部の施設と思われる掘り込みが確認された。確認面からの壁高は11～50cmを測る。カマドは北壁中央に設置される。　**遺物**　火床部より須恵器甕・土師器甕、住居址床面より須恵器甕・高台付坏・土師器甕等が出土した。

本址の所産期は出土遺物・H11号住居址との重複関係から平安時代である。

H11号住居址（第31・32・33図）

形状　グリッドか・き－14・15より検出された。本址はH10号住居址と重複し、西側を破壊される。南側は暗渠排水が横断し、北側は調査区域外である。規模等面積、方位は不明である。　**床面**　比較的軟弱であったが、カマド周辺は堅い。ピットは４個確認された。壁高は７～30cmで、東壁直下に周溝が認められる。カマドは北壁中央に設置される。

遺物　土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。

本址の所産期は、出土遺物・H10号住居址との重複関係より古墳時代後期である。

H12号住居址（第34・35・36図）

形状　グリッドか・き－15より検出された。本址はD９・13号土坑に破壊され、カマド付近を暗渠排水が横断する。又、耕作等により著しく削平されているが、床面は希薄ながら残存する。東西辺5.2m、南北辺5.1mの隅丸正方形を呈するものと推測される。

面積　24.0㎡　　**方位**　N－30°－W

床面　比較的軟弱である。ピットは５個確認された。確認面からの壁高は０～35cmであった。カマドは北壁中央に設置される。

遺物　須恵器甕・坏、土師器甕が出土した。

本址の所産期は出土遺物より奈良時代である。

H13号住居址（第37・38・39・40図）

形状　グリッドき－15より検出された。本址の南壁一部はD11・12号土坑に破壊される。東西辺3.85m、南北辺3.65mの隅丸方形を呈する。　**面積**　13.5㎡　**方位**　N－18°－W

床面　貼り床状で堅緻。ピットは５個確認され、P_5は貯蔵穴と思われる。壁高は０～16cmを測る。カマドは北壁・東壁の各中央部に設置されていた。東壁カマドは若干の焼土が認められたが、袖部等の残存は認められなかった。　**遺物**　主にカマド内、その周辺より須恵器坏が４点（内２点完形）、土師器の甕・坏が出土した。

本址は出土遺物より平安時代である。

H14号住居址（第41図）

形状　グリッドき－16より検出された。住居址の北隅の一部の調査で他は調査区域外である。本址内をM５号溝が横断する。規模等面

積、方位は不明である。　**床面**　軟らかい。ピットは１個確認された。確認面からの壁高は12～18cmである。壁面の直下には壁溝が認められる。カマドはＭ５号溝により破壊されているが、北壁の中央部に若干の残存が認められる。　**遺物**　土師器甕、須恵器坏の小破片が出土した。所産期は平安時代と思われる。

Ｈ15号住居址（第42・43図）

形状　グリッドき・く－16より検出された。住居址の北側の一部の調査で、外は調査区域外となる。本址はＨ16号住居址と重複している。規模等面積、方位は不明。　**床面**　軟弱。ピットは確認できなかった。壁高は３～８cmであった。カマドの位置等は不明である。

遺物　覆土中より須恵器坏・甕、土師器甕が出土したが小破片であり、時期決定はできなかった。

Ｈ16号住居址（第44・45・46図）

形状　グリッドき・く－16・17より検出された。住居址の北側の調査で、外は調査区域外となる。本址はＨ15号住居址と重複する。規模等面積、方位は不明。　**床面**　軟弱。ピットは16個確認された。壁高は12～24cmを測る。東壁面直下の一部に壁溝が認められた。カマドは北壁中央に設置される。残存状態は極めて希薄である。　**遺物**　床面の直上より土師器坏・甕・台石状の石が出土した。時期決定は、いずれも小破片でありでき得なかった。

Ｈ17号Ｂ住居址（第48・49・50図）

形状　グリッドき・く－21・22より検出された。住居址の南側は耕作等で削平され、又、Ｍ３・４号溝が切って横断している。本址はＨ17号Ａ住居址の建替住居址（増築）であることが認められた。東西辺4.2m、南北辺4.9mの隅丸長方形を呈する。　**面積**　18.7㎡　**方位**　Ｎ－２°－Ｗ　**床面**　貼り床状で堅緻である。本床をはぎ住居址の掘り方面を観察した結果、Ｈ17号Ａ住居址（奈良時代初頭）の床面、及び壁が確認された。このため本住居址をＨ17号Ｂ住居址と名命した。ピットは４個確認された。壁高は０～16cmを測る。カマドは北壁中央に設置される。本址の床面下には「Ｙ字状」を呈する溝が床面を掘り抜き、東北コーナーより南西コーナーを切って配されている。当部分の床面は堅く、叩き絞め状である。住居址との共判関係は認められたが性格等は判然としなかった。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

本址の所産期は出土遺物より奈良時代であろう。

Ｈ17号Ａ住居址（第47図）

形状　グリッドき・く－21・22より確認された。Ｈ17号Ｂ住居址の建替え以前の住居址と思われる。東西辺3.7m、南北辺4.6mの隅丸長方形を呈し、Ｈ17号Ｂ住居址より一廻り小規模となる。　**面積**　16.2㎡　　**方位**　Ｎ　**床面**　貼り床状で堅緻である。ピットは５個確認された。壁高は０～８cmである。カマドの位置等は明瞭ではないが、北壁中央部に設置されたものと推測される。　**遺物**　土師器甕底部等の小破片が数点出土した。図示できる遺物はない。本址の所産期は出土した遺物・Ｈ17号Ｂ住居址との関係から奈良時代初頭と考えられる。

H18号住居址（第51・52図）

形状　グリッドき－22より検出された。住居址の南側一部の調査である。外は調査区域外となる。規模等面積、方位は不明。

床面　貼り床状で堅緻である。ピットは２個確認され、南壁部のピットは入口施設に伴うものと推測される。壁高は９～20cmを測る。カマドの位置等は不明である。　**遺物**　東側の床面より須恵器甕・坏・土師器甕・坏が出土した。図示できた遺物はなかった。本址の所産期は、出土した遺物片より奈良時代～平安時代であることが考えられる。

第２節　掘立柱建物址

Ｆ１号掘立柱建物址（第54図）

形態・規模　グリッドお・か－７より検出された。本址の北寄りにＨ１号住居址が、南寄りにはＭ１号溝が隣接する。他遺構との重複関係は排水溝によりＰ$_6$が破壊される。規模は桁行2.8m・梁間2.4m、形態は桁行２間・梁間１間の長方形である。　**方位**　Ｎ－77°－Ｅを指す。　**柱穴**　円形を基調とし、直径50～70cm、深さ45～72cmである。大半のピット底面は平坦であるが、柱部分の底面は若干くぼむ。　**遺物**　遺物は出土せず本址の帰属時期は不明である。しかし、隣接するＨ１号住居址に伴うことを推察すると平安時代であることが考えられる。

Ｆ２号掘立柱建物址（第56図）

形態・規模　グリッドえ・お－６より検出された。本址の南寄りにはＨ１号住居址が隣接する。他遺構との重複関係は、Ｄ１号土坑がＰ$_1$を、Ｄ２号土坑がＰ$_4$・Ｐ$_5$を破壊する。規模・形態は梁間が３間で5.4mを測る。北側が不明であるが、長方形と思われる。

方位　Ｎ－85°－Ｅを指す。　**柱穴**　円形・隅丸長方形を基調とし直径64～117cm、深さ48～60cmであった。大半のピット底面は平坦であるが、柱部分の底面は若干くぼむ。

遺物　遺物は出土せず本址の帰属時期は不明であるが、Ｄ１号址との切合関係から平安時代以前と判明した。

Ｆ３号掘立柱建物址（第55図）

形態・規模　グリッドき－17より検出された。本址の東にはＦ４号掘立柱建物址が隣接し、西寄りにはＤ14号土坑が位置する。規模は桁行3.5m・梁間2.6m形態は桁行２間・梁間２間で長方形を呈している。　**方位**　Ｎ－68°－Ｅを指す。　**柱穴**　円形を基調とし、直径25～45cm、深さ17～30cmである。ピットの底面は平坦を呈するものが多い。本址の帰属時期は出土遺物等がなく不明である。

Ｆ４号掘立柱建物址（第53図）

形態・規模　グリッドき－17・18より検出された。本址の北側は調査区域外となる。西にＦ３号掘立柱立物址が隣接する。検出されたピットより、形態は梁間２間で3.8mを測る。北側が不明であるが、長方形を呈すると思われる。　**方位**　Ｎ－18°－Ｗ　**柱穴**　円形を基調とし、直径30～60cm、深さ15～50cmである。ピット底面は平坦を呈するものが多い。本址の帰属時期は出土遺物等がなく不明である。

Ｆ５号掘立柱建物址（第53図）

グリッドき－17・18より検出され、Ｆ４号掘立柱建物址と同位置に認められた。規模は桁行3.8m・梁間4.4m、形態は桁行１間・梁間１間で方形を呈している。　柱穴　円形を基調とし、直径35～50cm、深さ35～40cmである。本址の帰属時期は出土遺物等がなく不明。

第３節　土　坑

Ｄ１号土坑（第57・60図）

グリッドえ－６より検出された。本址はＦ２号址と重複関係にあり、Ｆ２号址とP_1を破壊している。　形態　やや歪んだ隅丸方形を呈し長径126cm、短径110cmで、深さ125cmを測る。断面形状は逆台形で底部面は平坦をなす。　遺物　底部面より図示された須恵器坏がほぼ完形で出土した。本址の帰属時期は出土遺物より平安時代である。

Ｄ２号土坑（第58図）

グリッドお－６より検出され、Ｈ１号住居址が南に隣接する。本址はＦ２号と重複関係にあり、P_4・P_5を破壊する。　形態　隅丸長方形を呈し、長径135cm、短径70cmで、深さ100cmを測る。断面形状は確認面下70cmの所で平坦な第１段を形成し、更に30cmの深さで第２段を形成している。　遺物　先述した第２段の底面より安山岩の石が確認されたが性格等は不明瞭である。本址の帰属時期は出土遺物がなく不明。しかし、Ｄ１号土坑とＦ２号掘立柱建物址との重複関係から平安時代以後と推察した。

Ｄ３号土坑（第59図）

グリッドお－７から検出された。本址はＨ１号住居址に破壊されている。　形態　楕円形を呈すると思われる。深さ約45cmで、底部面より約５cm浮いて炭化材が検出されたが性格等は不明瞭であった。　遺物　出土遺物がなく本址の帰属時期は不明であるが、Ｈ１号住居址との関係より推し、平安時代以後であろう。

Ｄ４号土坑（第61図）

グリッドき－12より検出された。本址はＨ４号住居址と重複し、床面一部を破壊する。

形態　楕円形を呈し、長径120cm、短径90cmで、深さ45cmを測る。断面形状は逆台形で底面は平坦をなす。　遺物　出土遺物がなく本址の帰属時期は不明だが、Ｈ４号住居址との切り合関係から平安時代以後であろう。

Ｄ５号土坑（第62・64図）

グリッドか－13から検出された。本址はＨ７・Ｈ８号住居址と重複し、Ｈ８号址を切り、Ｈ８号址はＨ７号址を切っている。

形態　隅丸長方形を呈し、長径210cm、短径150cmで深さ20～30cmを測る。断面形状は逆台形で、底面は平坦である。遺物　出土遺物がなく帰属時期は不明。しかし、上記の切り合関係より中世と推測する。

Ｄ６号土坑（第63・65・66図）

グリッドき－14から検出された。本址は暗渠排水に一部破壊される。　形態　円形を呈すると推され、長径3.0m、短径2.5mと推測される。深さは85cmを測る。断面形状はすり鉢状で、確認面下60cmで第１段を形成し、更に約20cmの深さで第２段を形成する。覆土は人為埋土である。　遺物　第２段が形成される

底面より、須恵器坏・甕、土師器坏、安山岩の石等が出土した。本址の形態、出土遺物より祭祀的な要素を含む遺構であることが考えられる。帰属時期は９世紀代であろう。

Ｄ７号土坑（第67・68図）

グリッドき－14から検出された。本址の東側は一部暗渠排水に破壊される。　**形態**　円形を呈し、長径225cm、短径220cmで、深さ100cmを測る。断面形状はすり鉢状で、確認面下80cmで第１段を形成し、更に約20cmの深さで第２段を形成する。覆土は人為埋土である。

遺物　第２段の底部面より約10cm程浮いた覆土中より須恵器坏・甕が出土した。本址の形態、出土遺物より祭祀的な要素を含む遺構であることが考えられる。帰属時期はＤ６号土坑と同じく９世紀代であろう。

Ｄ８号土坑（第69・70図）

グリッドか－14より検出した。本址はＨ10号住居址と重複関係をなすが、明確な切り合い関係は把握できなかった。　**形態**　不正楕円形を呈し、長径160cm、短径100cm、深さ45cmを測る。橙色土を主とする粘土層、また、底部面・壁面部の極めて著しい凹凸等の状況より、本遺構は「粘土採掘坑」であることが認められた。　**遺物**　出土遺物と重複関係より奈良時代以後と考えられる。

Ｄ９号土坑（第71図）

グリッドき－15より検出された。本址はＨ12号住居址と重複関係をなし、Ｈ12号址を切っている。本址の東側一部は撹乱により破壊されている。　**形態**　不正楕円形をなし、長径230cm、短径140cmで、深さ35cmを測る。Ｄ８号土坑と同じく、調査時における層序、また、底部面・壁面部の極めて著しい凹凸の状況より、本遺構は「粘土採掘坑」であることが認められた。　**遺物**　出土遺物がなく本址の時期等は不明である。

Ｄ10号土坑（第72図）

グリッドき－15より検出された。本址の東側にはＨ13号住居址が接する。　**形態**　円形に近い楕円形をなし、西側の壁面はややオーバーハングしている。長径120cm、短径105cmで、深さ40cmを測る。底部は凹凸面をなす。

遺物　出土遺物がなく本址の帰属時期は不明。

Ｄ11・12号土坑（第73図）

グリッドき－15より検出された。Ｄ11・12号土坑は重複関係をなすが、両址の新旧関係は判然としなかった。また、Ｄ12号土坑はＨ13号住居址と切り合い、住居址を切っている。

形態　Ｄ11号址は長径40cm、短径35cmで、深さ25cmの円形を呈す。Ｄ12号土坑は長径90cm、短径70cmで、深さ23cmの楕円形を呈す。

遺物　出土遺物がなく帰属時期は不明。しかし、Ｈ13号住居址との切り合いより平安時代以後であることが認められる。

Ｄ13号土坑（第74図）

グリッドき－16より検出された。本址はＨ13号東側壁部を切っている。　**形態**　不正方形を呈し、長径160cm、短径150cmで、深さ32cmを測る。底面はやや凹凸となっている。

遺物　出土遺物がなく本址の帰属時期は不明。

Ｄ14号土坑（第75図）

グリッドき－16より検出された。　**形態**　長方形を呈し、長径235cm、短径95cmで、深さ

50cmを測る。本址の西側は比較的平坦なテラスを有し、西側部は舟底状に50cmの深さで掘りくぼめられている。　遺物　出土遺物がなく本址の帰属時期は不明である。

第４節　溝状遺構

Ｍ１号溝状遺構（第76図）

グリッドか－７～10にかけて東西に走り、か－10地点で南北に向きを変えて連続している。形状　幅は平均して２ｍ前後で、深さ25cm前後を測る。底面は比較的平坦をなし、叩き絞め状である。　遺物　須恵器坏・甕・土師器坏・甕が出土した。本址の帰属時期は平安時代と考えられる。

Ｍ２号溝状遺構（第77図）

グリッドか－９・10より検出された。本址は調査区を南北に横断し、南北側は調査区域外となる。グリッドか－９地点でＭ１号溝と重複し本址が切られる。　形状　幅は平均して１ｍ前後で、深さ50cm前後を測る。底部は比較的平坦をなす。　遺物　出土遺物はなく帰属時期は不明であるが、Ｍ１号址との重複関係から平安時代以後であろう。

Ｍ３・４号溝状遺構（第78図）

グリッドく－20～22より検出された。両址は東西を走る溝であり、H17号址南壁部を切りＭ６・７号の各址を切っている。　形状　両址は同一遺構の可能性もあり得るが、遺構底面の深さが10cm前後違うことが認められた。このため確認面より10cm前後と比較的浅い掘り込みを有する溝を「Ｍ１号」とし、確認面より約20cm前後と深い掘り込みが認められる溝を「Ｍ２号」とした。Ｍ３・４号ともに幅40cm前後で、断面形状は舟型を呈する。

遺物　土師器甕がＭ３号址より出土したが、小破片で本址の時期決定はなし得ない。しかし、H17号址との重複関係より奈良時代以後であろう。

Ｍ５号溝状遺構（第79図）

グリッドき－15より検出され、H14号住居址を切っている。　形状　幅は平均して約50cm前後を測る。確認面よりの深さ15cm前後を測る。底面は平坦をなし、軟弱。　遺物　出土遺物がなく時期決定は困難であるが、H14号址との重複関係より、平安時代以後であろう。

Ｍ６・７号溝状遺構（第80・81図）

グリッドき・く－20・21より検出された。Ｍ６号址は調査区南北に横断する溝で、Ｍ７・３・４の各溝に切られる。　形状　幅は平均して１ｍ前後で、深さ30cm前後を測る。断面形状は逆台形をなし、底面・側面ともに堅緻である。　遺物　堀の内式土器が検出されたことより縄文中期後半であろう。

Ｍ７号址は、Ｍ３・４号址に切られ、Ｍ６号址を切っている。　形状　幅は平均して40cm前後で、深さ25cm前後を測る。断面形状は「Ｕ字型」を呈する。　遺物　出土遺物はなく時期決定は明確でないが、Ｍ３・４号溝との重複関係より奈良時代以前であることが推される。

Ｍ８・９号溝状遺構（第82図）

グリッドき－18より検出された。両址は南北にほぼ平行して走る溝で、北側は調査区域外となる。　形状　Ｍ８・９号溝共に、幅30cm

前後で、深さはＭ８号が15cm、Ｍ９号址が20cm前後を測る。断面形状はＭ８・９号址共に逆台形を呈する。　**遺物**　出土遺物がなく両址の帰属時期は不明。

Ｍ10号溝状遺構（第83図）

グリッドき－16より検出された。本遺構はＨ15号址を切り、Ｈ16号址に切られている。

形状　幅の平均は70cm前後で、深さ15cm前後を測る。底面・側面部は軟弱である。

遺物　出土遺物はなく、本址の時期決定は困難であるが、住居址との重複関係より奈良時代を下限とし、上限は平安時代であろう。

Ｍ11号溝状遺構（第85・86図）

Ｃトレンチ内より検出され東西に走る溝である。**形状**　幅約2.3m、深さ約60cmを測り、底面は凹凸面を呈する。各層に砂・礫が混在する。　**遺物**　須恵器甕の小破片が数点出土したが図示でき得なかった。

Ｍ12号溝状遺構（第84図）

Ａ－２トレンチ内より検出され南北に走る溝である。　**形状**　幅は約1.1m前後で、深さ約30cmを測る。底面は平坦。　**遺物**　出土遺物がなく時期決定は困難である。

Ｍ13号溝状遺構（第87図）

グリッドう・え－４から検出され、第Ｖ章に記した南北に走る中世城跡の「堀」であろう。

形状　幅は約７m前後で深さ1.7m前後を測る。確認面下約1.4mでテラス状に第１段が形成され、更に、約30cmの深さで第２段を形成する。最下層の第６層は、砂・礫が多量に堆積していた。一時期には川の流れがあったと思われる。　**遺物**　出土遺物がなく明確な時期決定はできないが、13～16世紀代のものと思われる。

第Ｖ章　調査のまとめ

赤座垣外遺跡から検出された遺構は、竪穴住居址19棟、掘立柱建物址５棟、土坑が14基、溝状遺構が13条であった。これらの各遺構の多くは耕作等により削平され、残存状況は薄かった。

竪穴住居址　19棟の住居址を時代別に分けると古墳時代後期が４棟（Ｈ５・６・９・11）、奈良時代３棟（Ｈ12・17Ａ・17Ｂ）、平安時代10棟（Ｈ１・２・３・４・７・８・10・13・14・18）、不明２棟（Ｈ15・16）であり、古墳時代後期～平安時代に展開された遺跡であることが認められた。

これら検出された遺構の分布状況をみると興味深いことが窺われた。旧状の地形は調査区のほぼ中央付近で、南東に向うなだらかな傾斜地が約30m程続き、そこから東側は低地形となり、西側は平坦となっている。今回検出された19棟の大多数は「なだらかな傾斜地」に集中し、かつ、重複関係をもつものが多いことが認められた。

掘立柱建物址　５棟が検出され、Ｆ１号掘立柱建物址とＨ１号住居址は、共時的に存在した可能性があり得る。同様な思考はＦ２号址とＨ１号址についてもなされようが、Ｆ２号址はＤ１号

土坑（平安時代）に破壊されており、Ｈ１号址とは若干の時間的な差が認められ、共時的な存在は少ないと思われる。

土　坑　14基が検出され、Ｄ８・９号土坑は第３節で述べたように「粘土の採掘坑」であろう。

また、Ｄ６・７号土坑（９世紀代）の示す形態と状況は、佐久市安原池畑に所在する池畑遺跡第１号土坑に酷似しており、下記の類似点から農耕儀礼に関わる習俗の営みがなされたと推される「畜獣埋葬」註1の土坑であることが推察できる。

池畑遺跡第１号土坑

1)　形態　3.4mの４円を呈し、深さ1.4m。断面形状は擂鉢状で、下部面は１段落ちこむ。

2)　遺物　馬・牛の顎骨・下顎骨・頭畜骨、牛の距骨・踵骨・足根骨、土師器坏・甕・壺、30cm大の石が数個出土した。

3)　覆土　人為的な埋土の様子が窺われる。

赤座垣外遺跡Ｄ６・７号土坑

1)　形態　Ｄ６号土坑は径3.0ｍの円形で、深さ85cm。断面形状は擂鉢状で、下部面は約20cm落ちこむ。Ｄ７号土坑は径2.2ｍの円形で、深さ約１ｍ。断面形状はＤ６号と同形態を示す。

2)　遺物　Ｄ６・７号ともに須恵器甕・坏・20cm大の石が数個検出された。

3)　覆土　土層から人為的埋土と認められる。

このように今回調査をした赤座垣外遺跡Ｄ６・７号土坑からは、獣骨こそ検出されなかったものの１～３の酷似する点より、両土坑は畜獣埋葬を示唆するものであった。

溝状遺構　第４節で述べたように、13基が検出され、古墳時代後期～中世とみなされる溝が検出された。このうちM13号溝状遺構については、下記する点より中世城郭に伴う「堀」であることが窺われた。

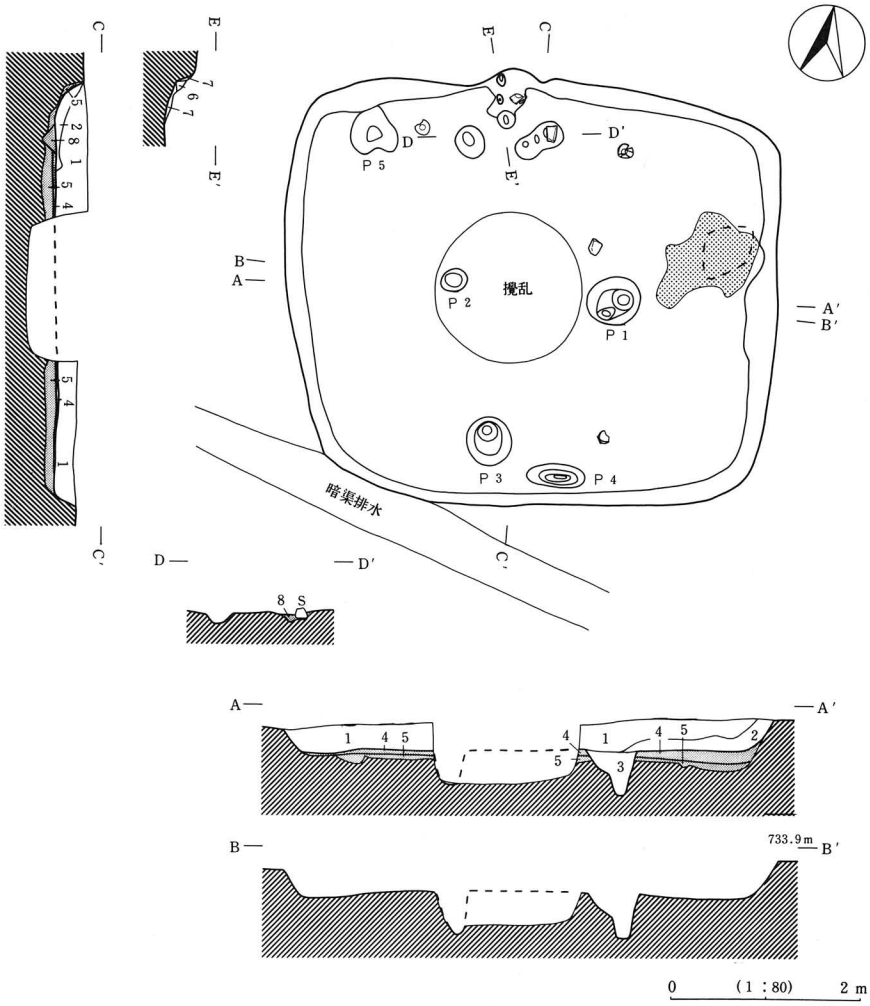
本調査地から約700ｍ南の位置に石並城がある。そして、この城跡に隣接した南側は王城跡、更に、黒岩城跡が所在する。この一連をなす三つの城跡を通称「大井城」と称し、このうち黒岩城・王城跡の一部は過年調査が行われ註2、13～16世紀代に比定される遺物が出土した。また、調査地の南約150ｍには六供後遺跡、石並城跡が所在し、昭和61年度に調査が行われた註3。この際、六供後遺跡の調査では、幅６ｍ・深さ1.6ｍの堀が検出されている。このような状況から本溝状遺構も石並城（大井城跡）に関係する堀であることが窺われた。

註１　羽毛田伸博　1986「第Ⅳ章、第５節土坑」佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター1986『池畑・西御堂』「類聚三代格巻第十九、禁制事、野事の所で應禁屠殺馬牛事と應禁制殺牛用祭漢神事の二つの禁制が発布されており、逆説的に考えると、庶民の間では、この二つの事がらが盛んに行われていたことが窺われる。」こと他より考察している。

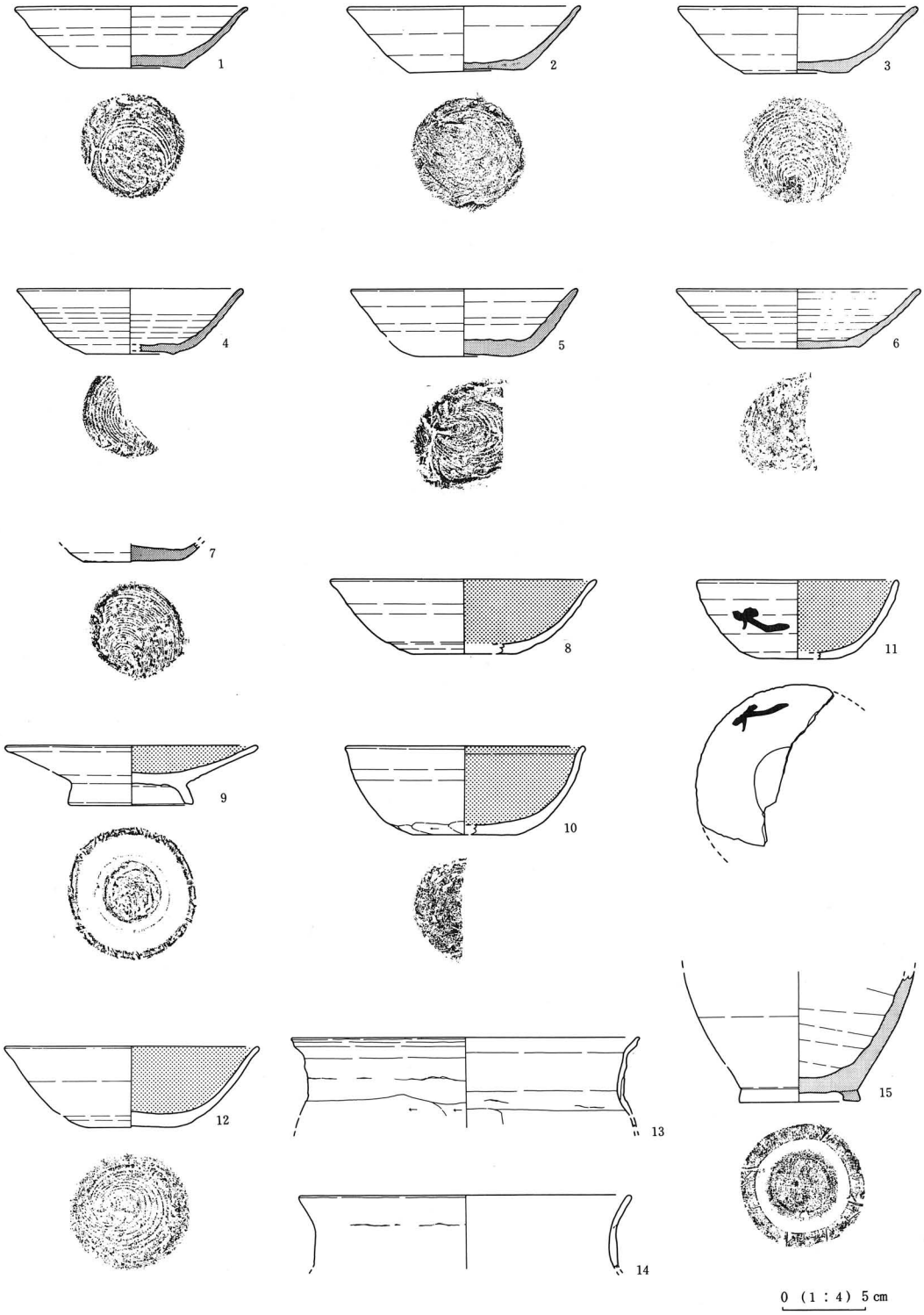
註２　佐久市教育委員会　昭和61年３月『大井城跡（黒岩城）』

註３　佐久市教育委員会　昭和63年３月『大井城跡』

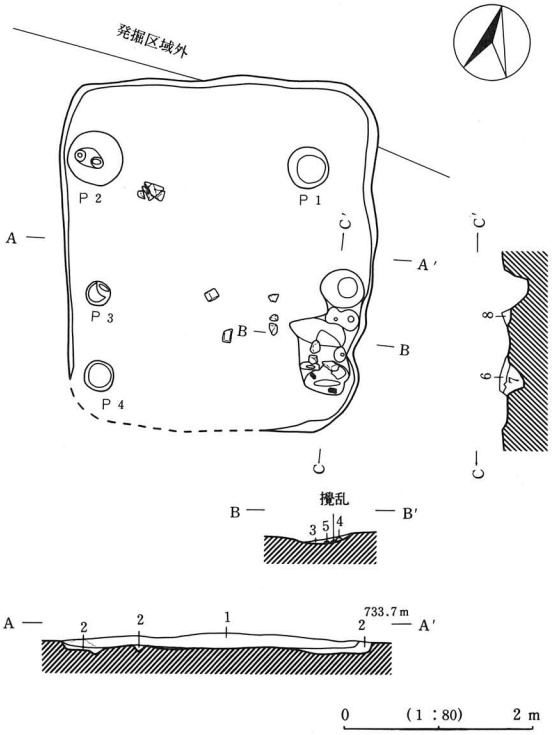
挿　　図



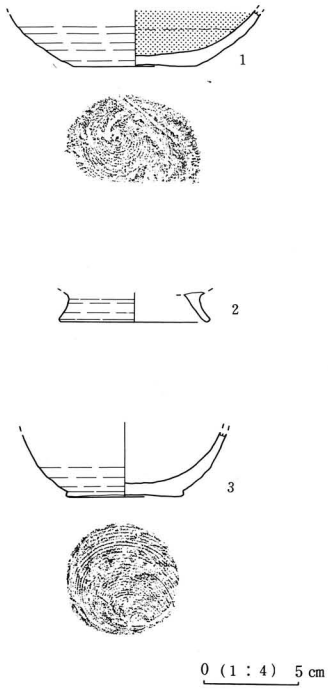
第４図　Ｈ１号住居址実測図



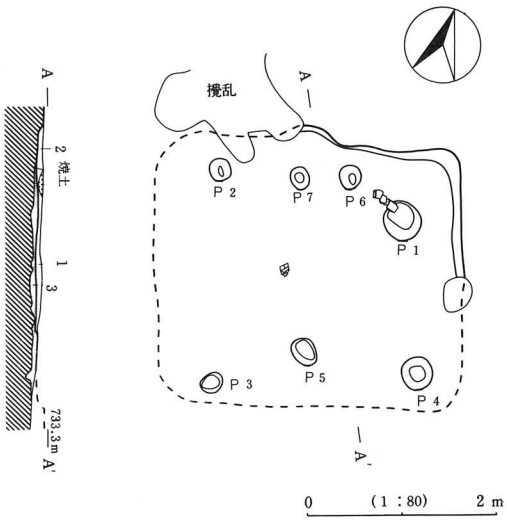
第５図　Ｈ１号住居址出土土器実測図



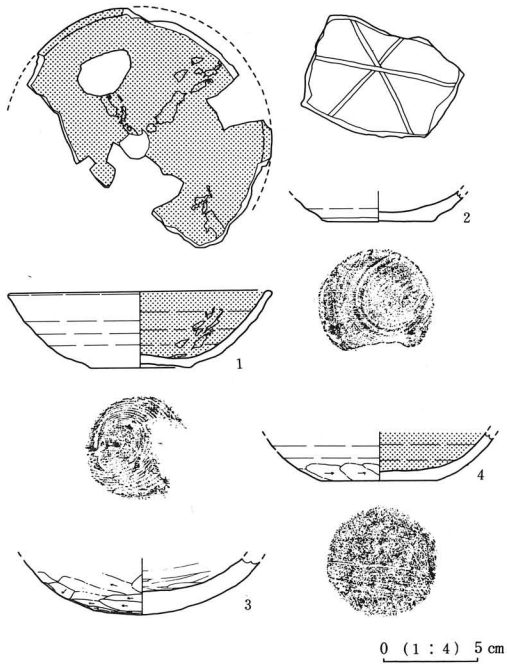
第６図　Ｈ２号住居址実測図



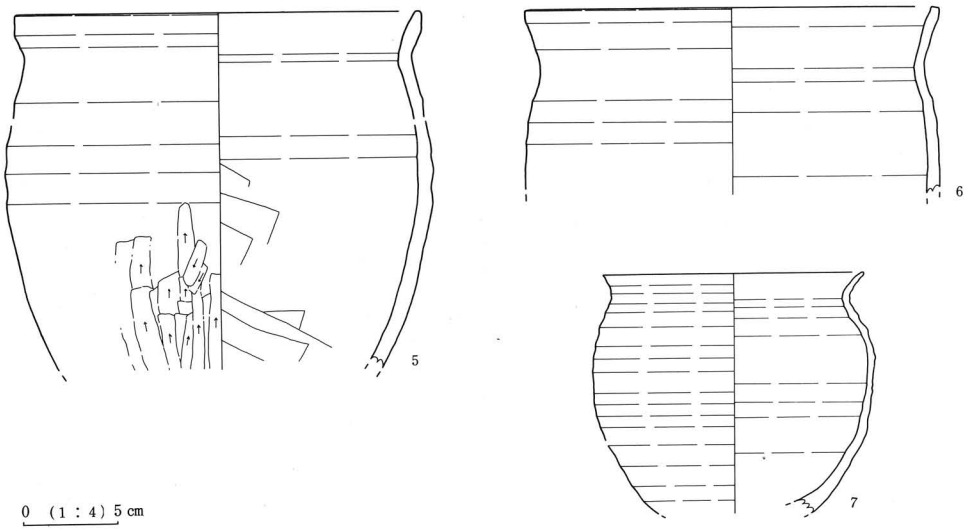
第７図　Ｈ２号住居址出土土器実測図



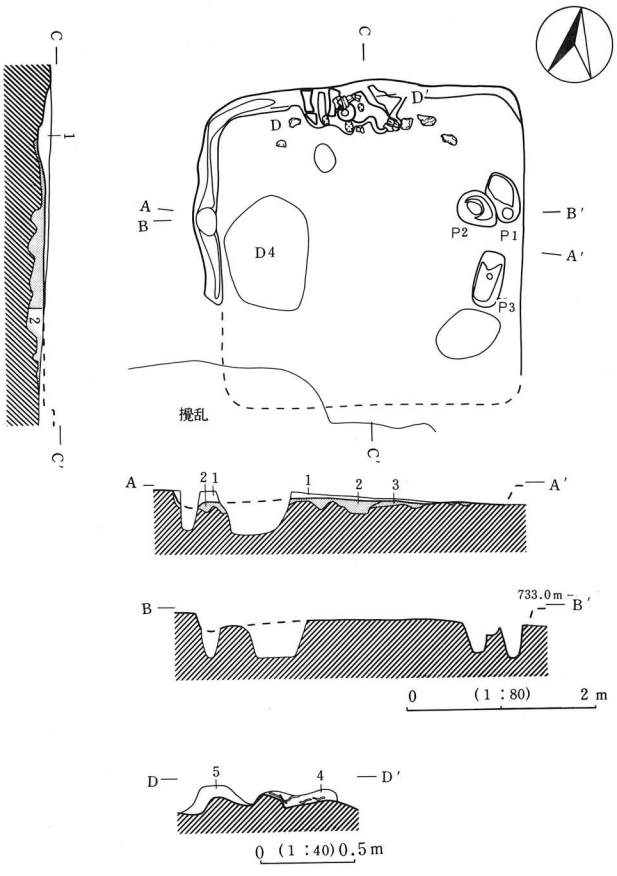
第８図　Ｈ３号住居址実測図



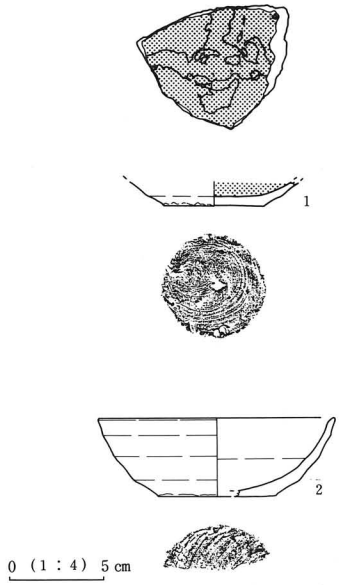
第９図　Ｈ３号住居址出土土器実測図（１）



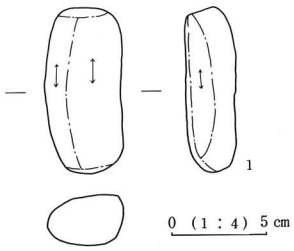
第10図　Ｈ３号住居址出土土器実測図（２）



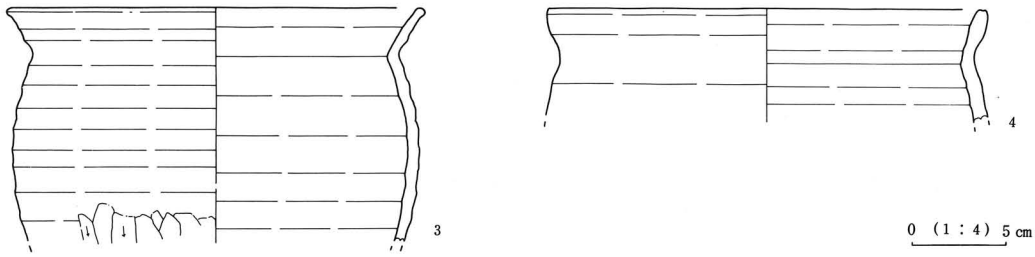
第11図　Ｈ４号住居址実測図



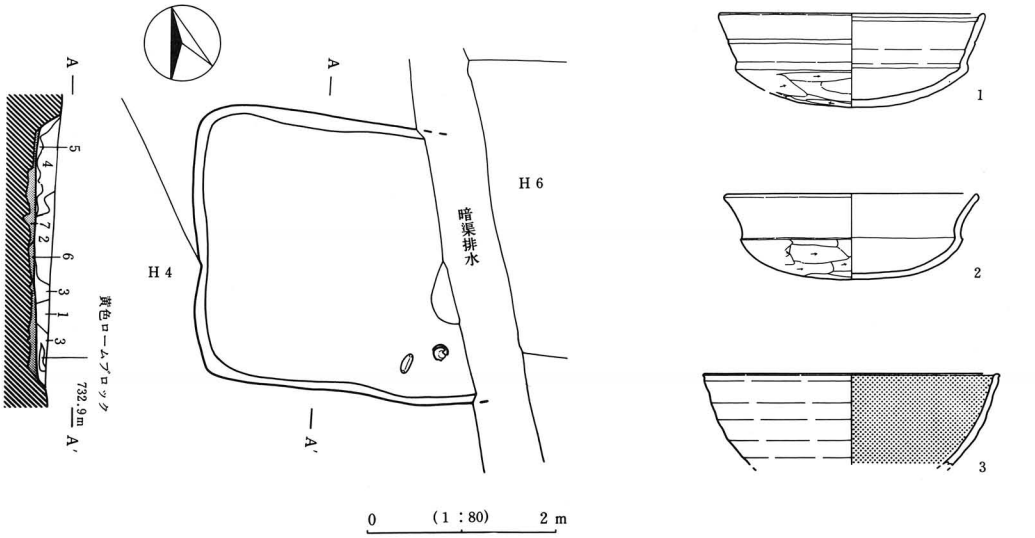
第12図　Ｈ４号住居址出土土器実測図（１）



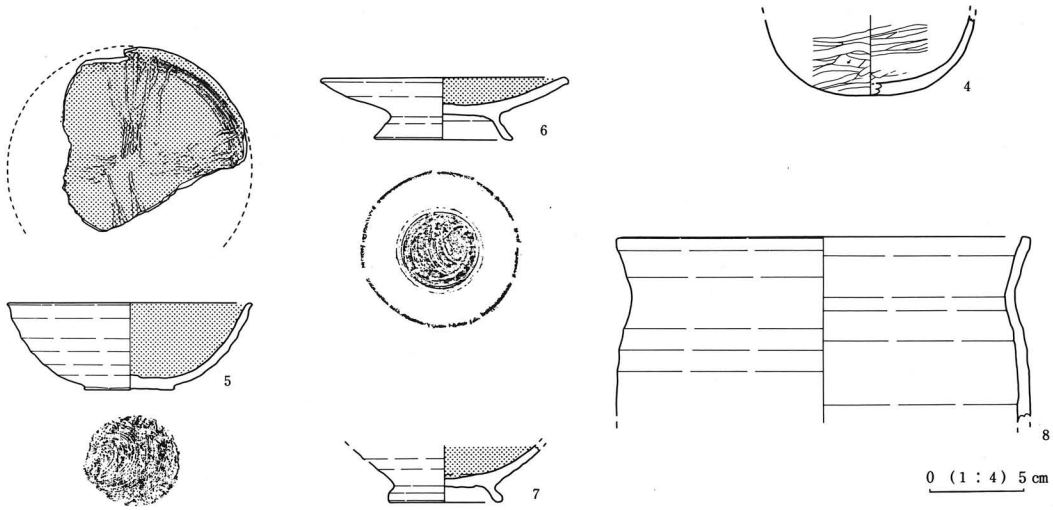
第13図　Ｈ４号住居址出土石器実測図



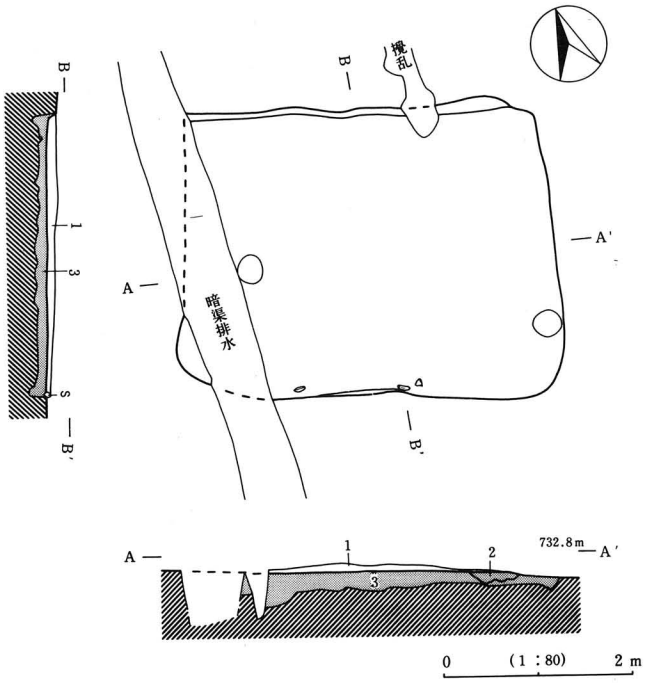
第14図　Ｈ４号住居址出土土器実測図（２）



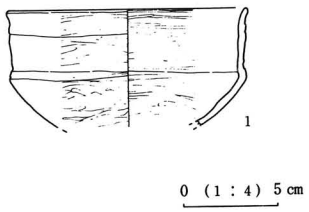
第15図　Ｈ５号住居址実測図



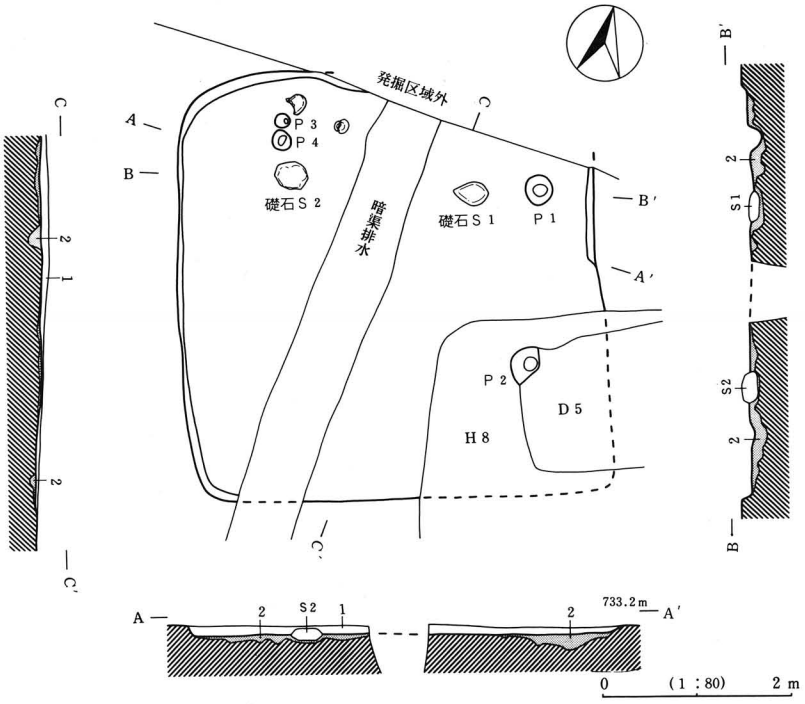
第16図　Ｈ５号住居址出土土器実測図



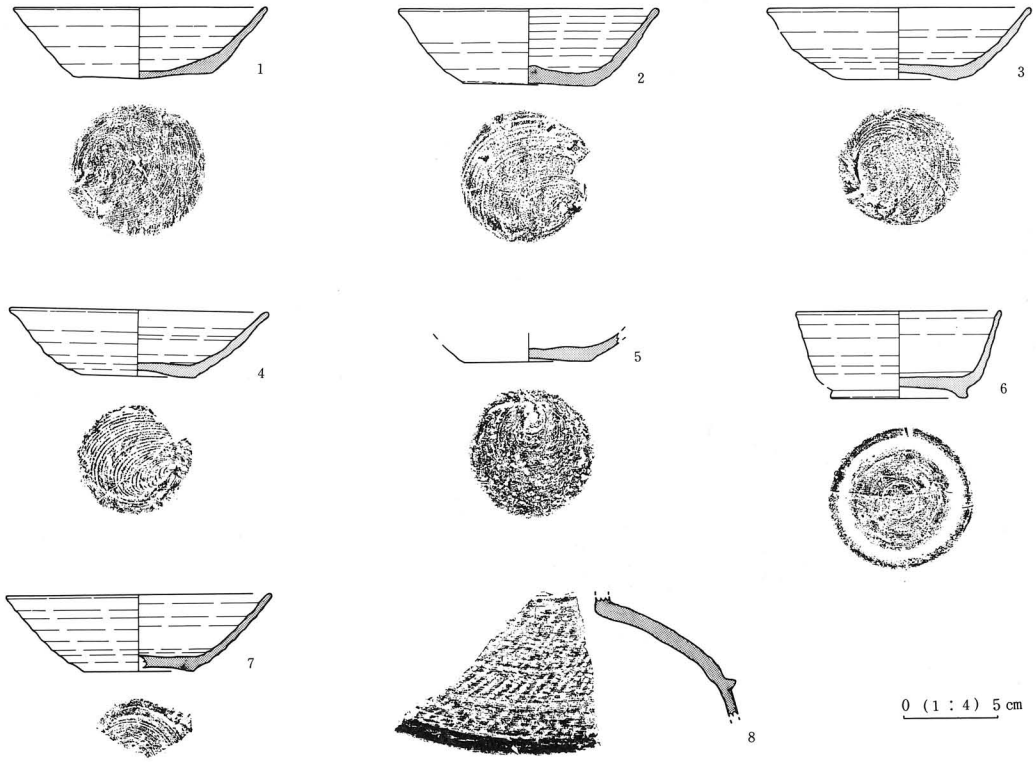
第17図　H 6 号住居址実測図



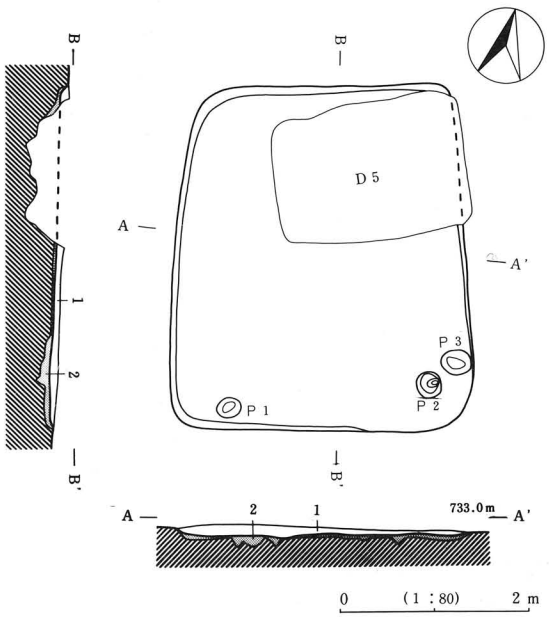
第18図　H 6 号住居址出土土器実測図



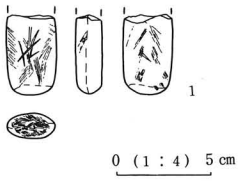
第19図　H 7 号住居址実測図



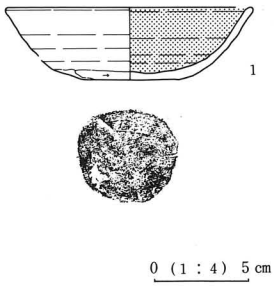
第20図　H７号住居址出土土器実測図



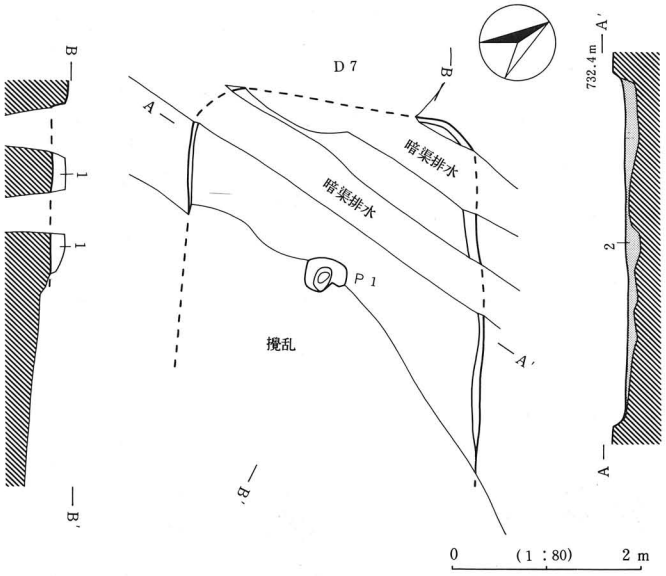
第22図　H８号住居址実測図



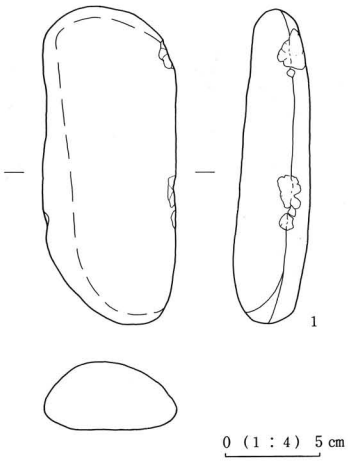
第21図　H７号住居址出土石器実測図



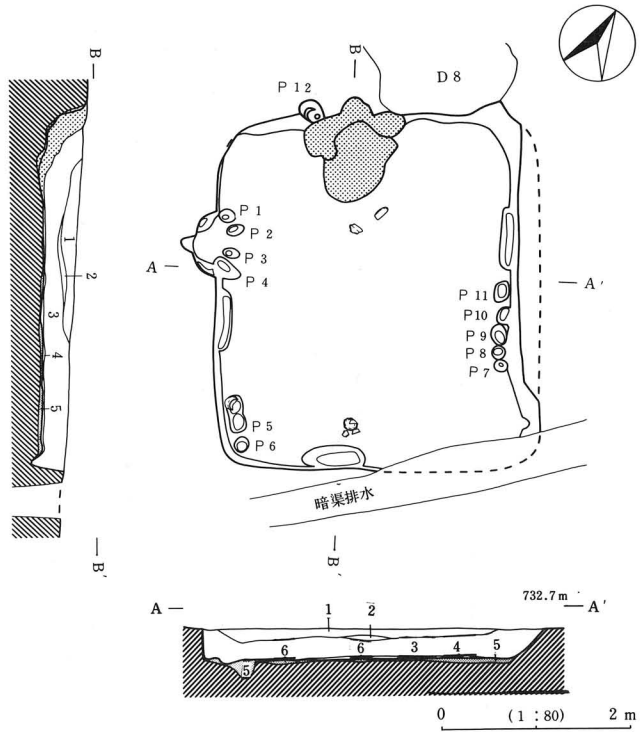
第23図　H８号住居址出土土器実測図



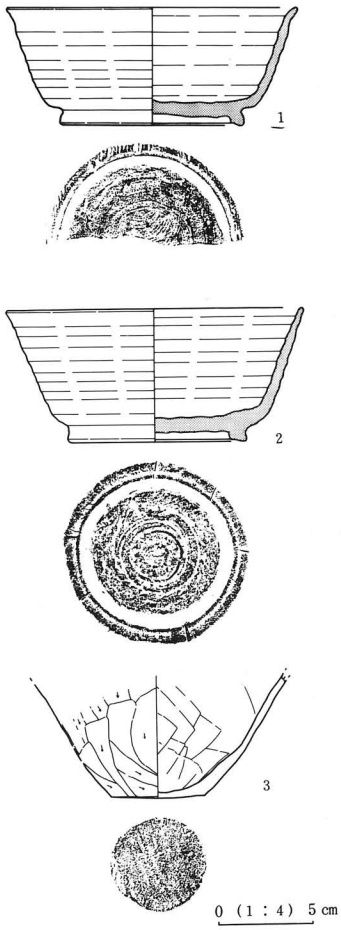
第24図　H 9 号住居址実測図



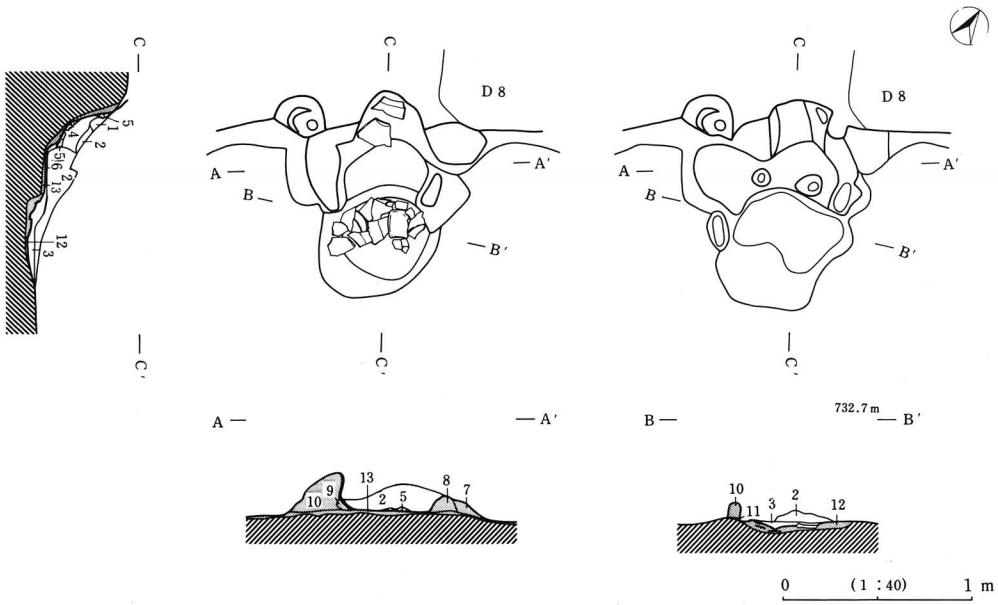
第25図　H10号住居址出土石器実測図



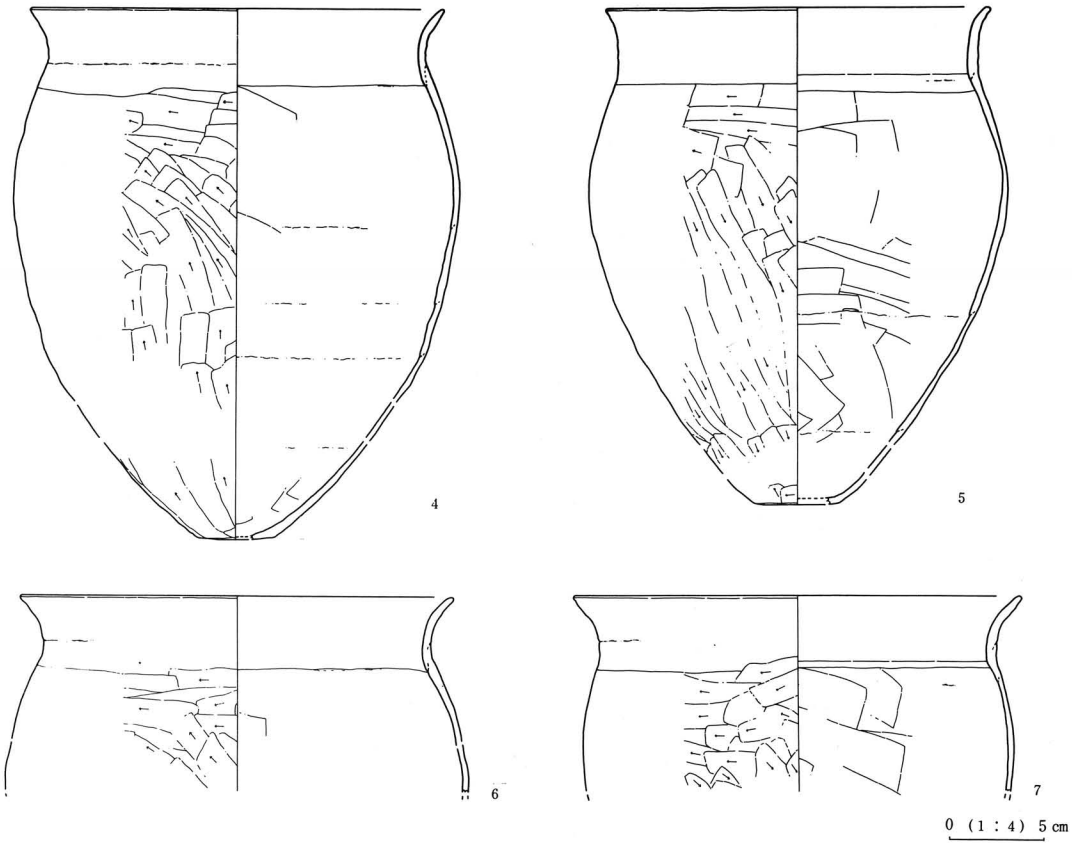
第26図　H10号住居址実測図



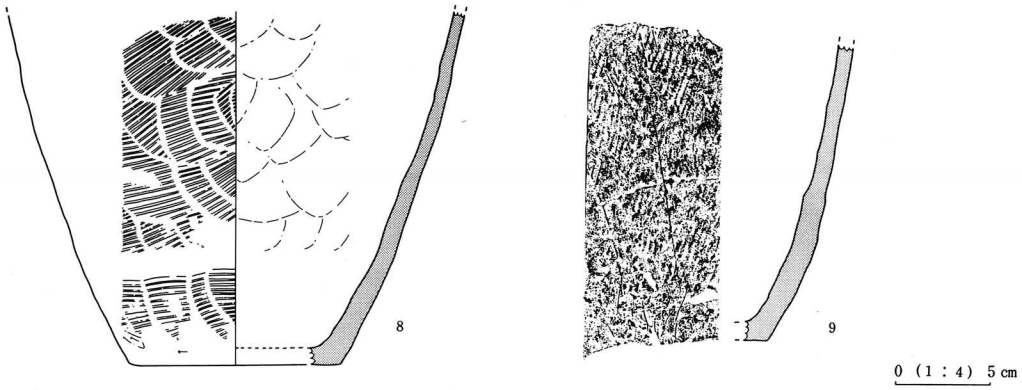
第27図　H10号住居址出土土器実測図（1）



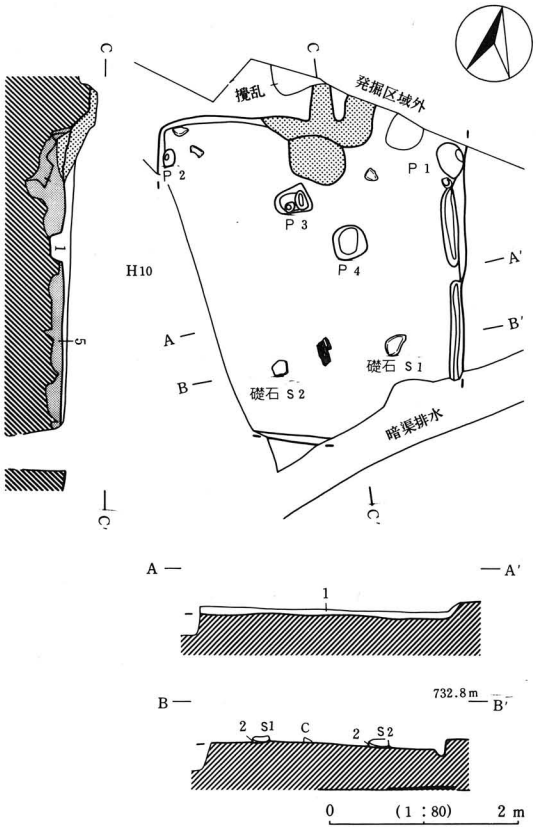
第28図　H10号住居址カマド実測図



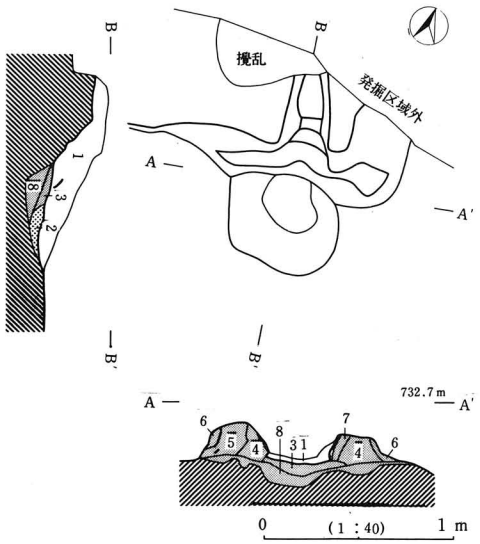
第29図　H10号住居址出土土器実測図（2）



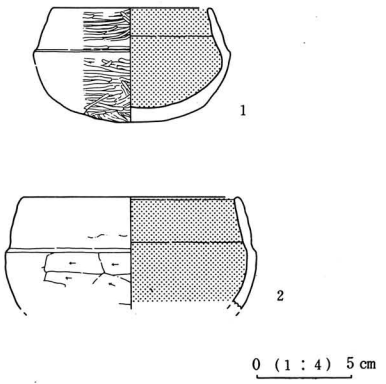
第30図　H10号住居址出土土器実測図(3)



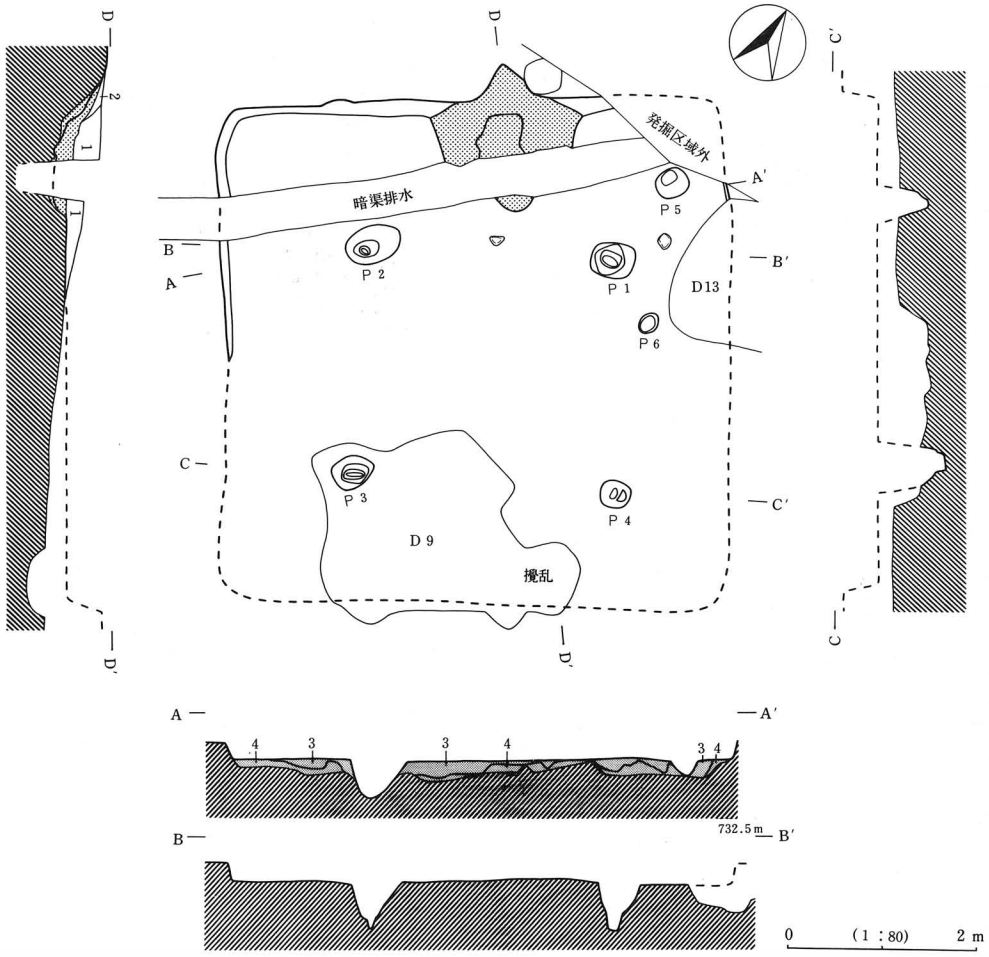
第31図　H11号住居址実測図



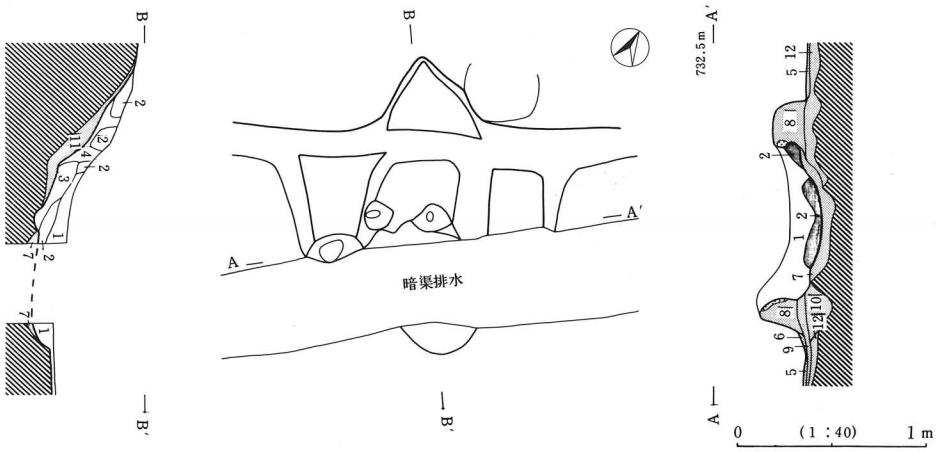
第32図　H11号住居址カマド実測図



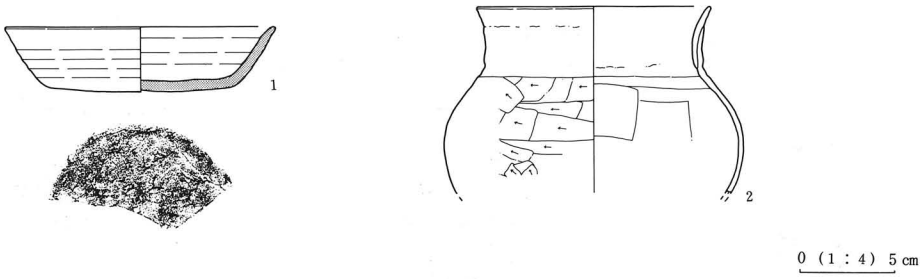
第33図　H11号住居址出土土器実測図



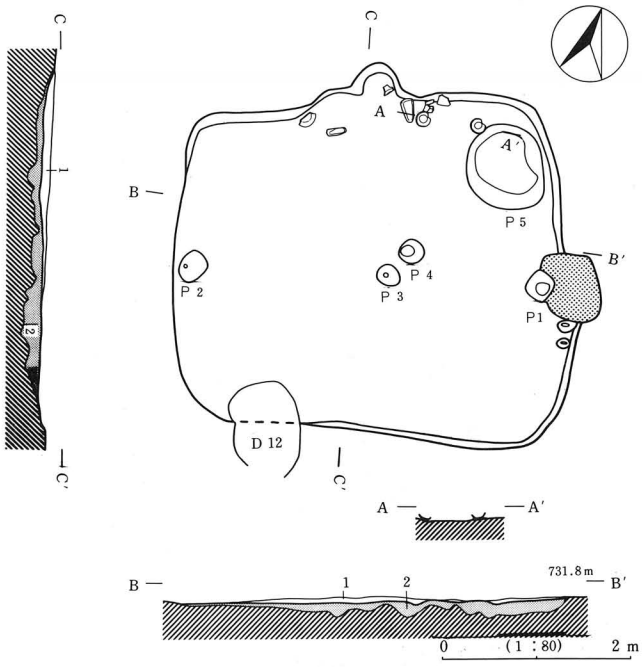
第34図　H12号住居址実測図



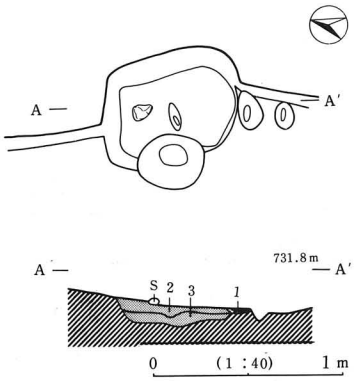
第35図　H12号住居址カマド実測図



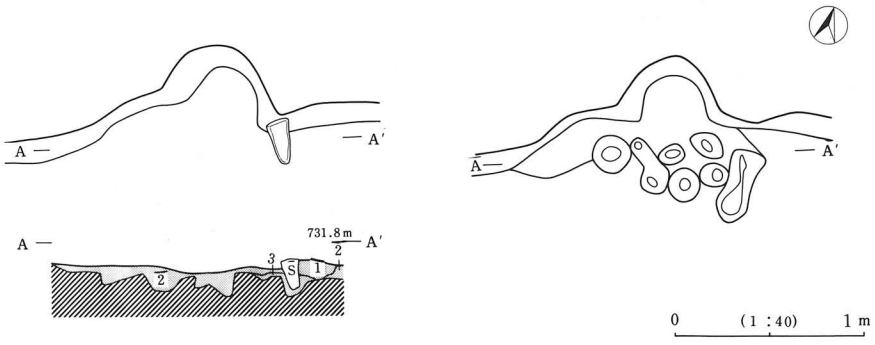
第36図　H12号住居址出土土器実測図



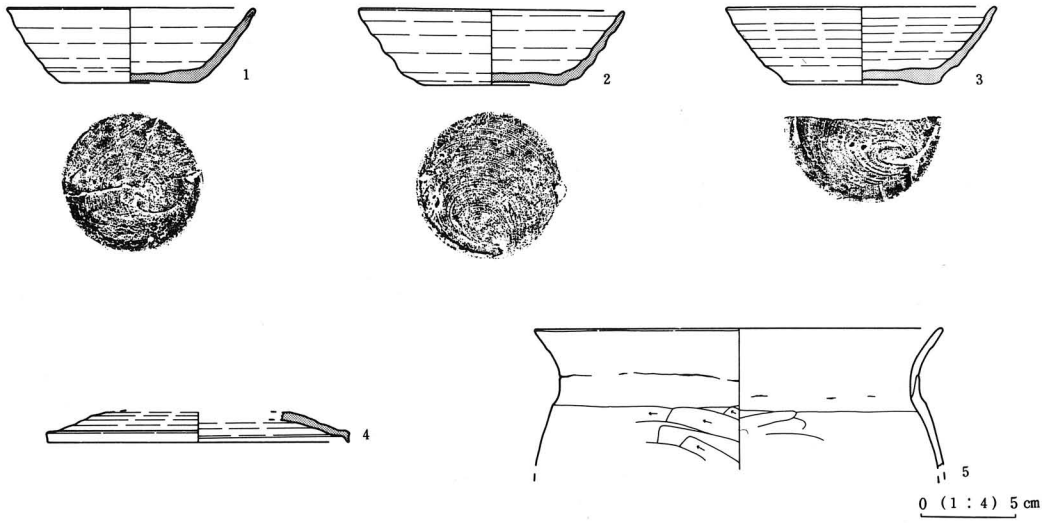
第37図　H13号住居址実測図



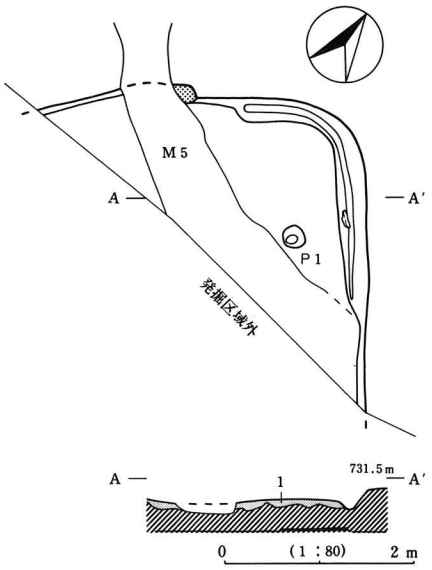
第38図　H13号住居址カマド実測図



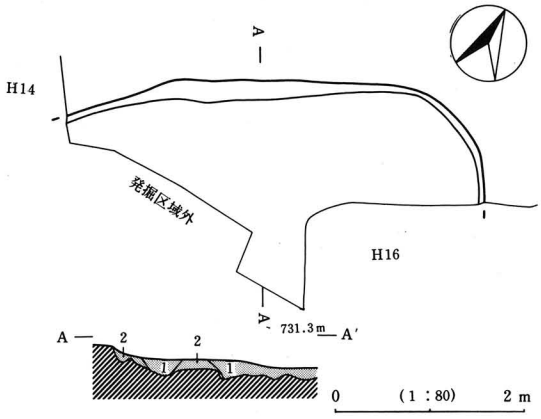
第39図　H13号住居址旧カマド実測図



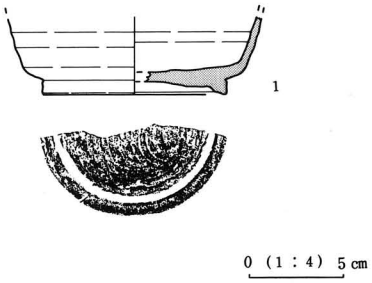
第40図　H13号住居址出土土器実測図



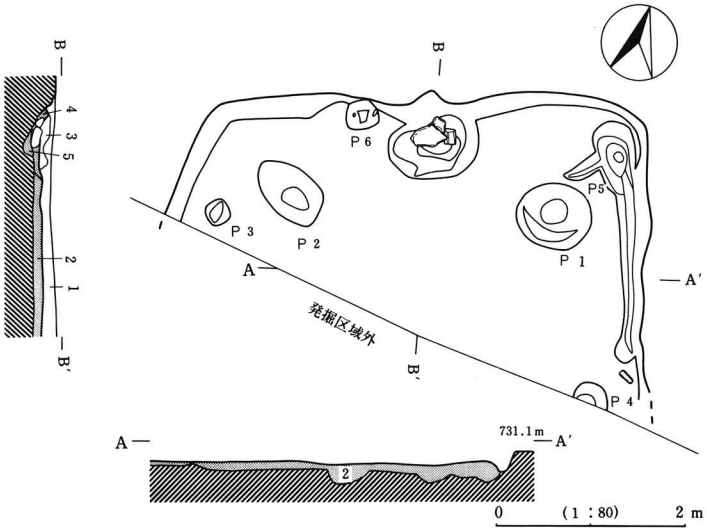
第41図　H14号住居址実測図



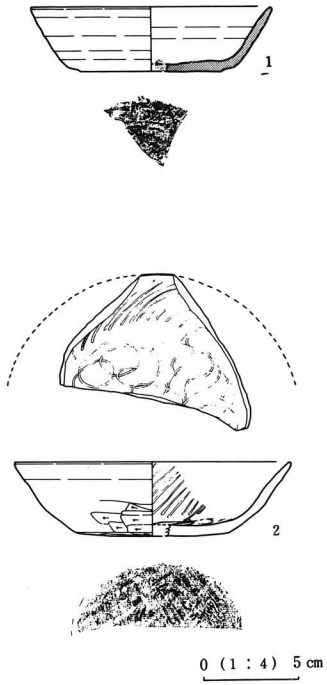
第42図　H15号住居址実測図



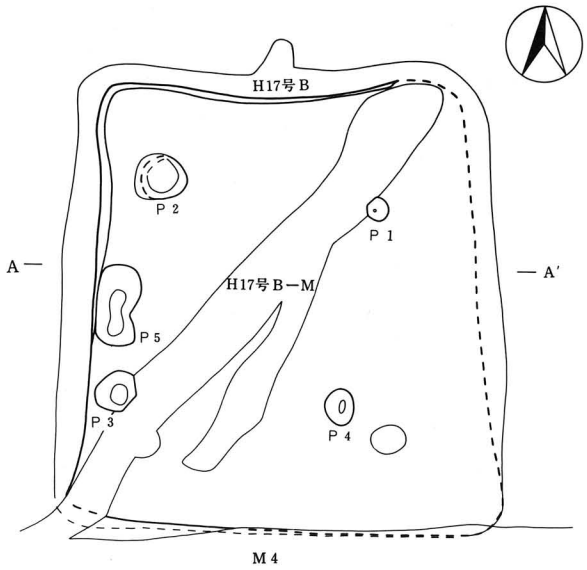
第43図　H15号住居址出土土器実測図

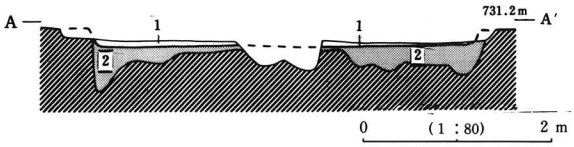


第44図　H16号住居址実測図

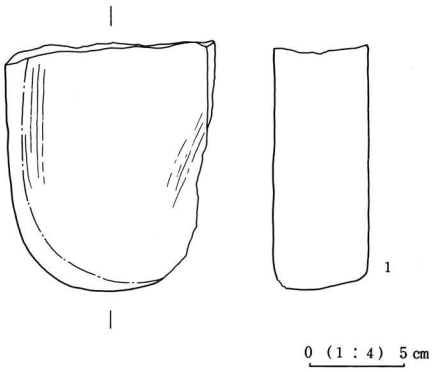


第45図　H16号住居址出土土器実測図

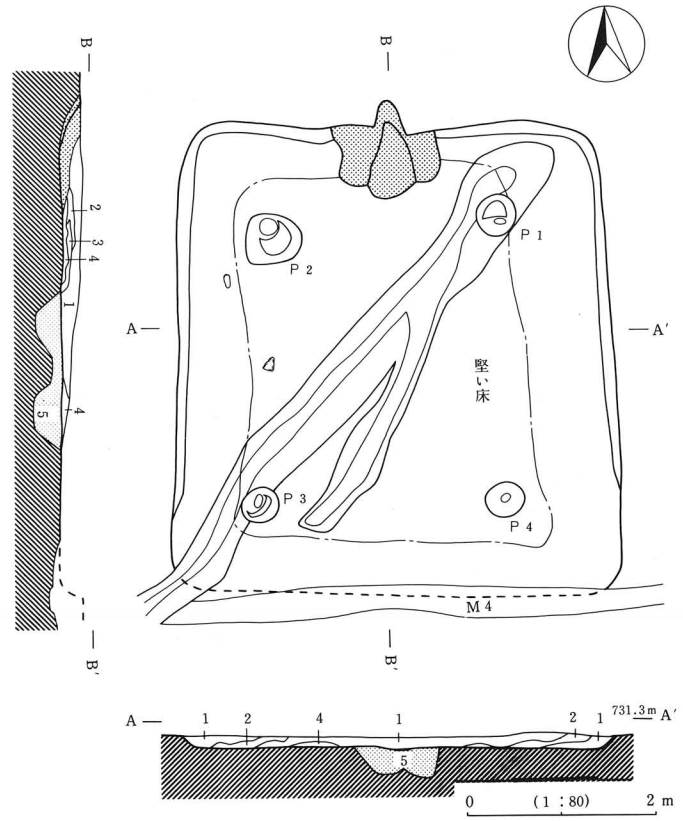




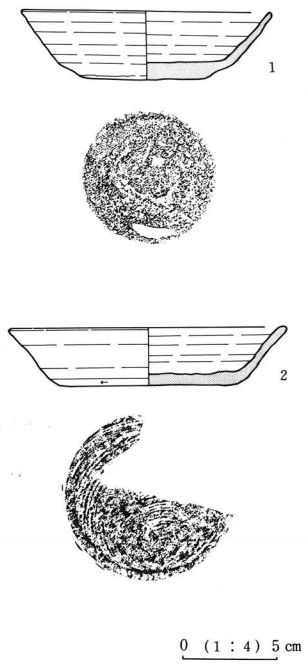
第47図　H17号A住居址実測図



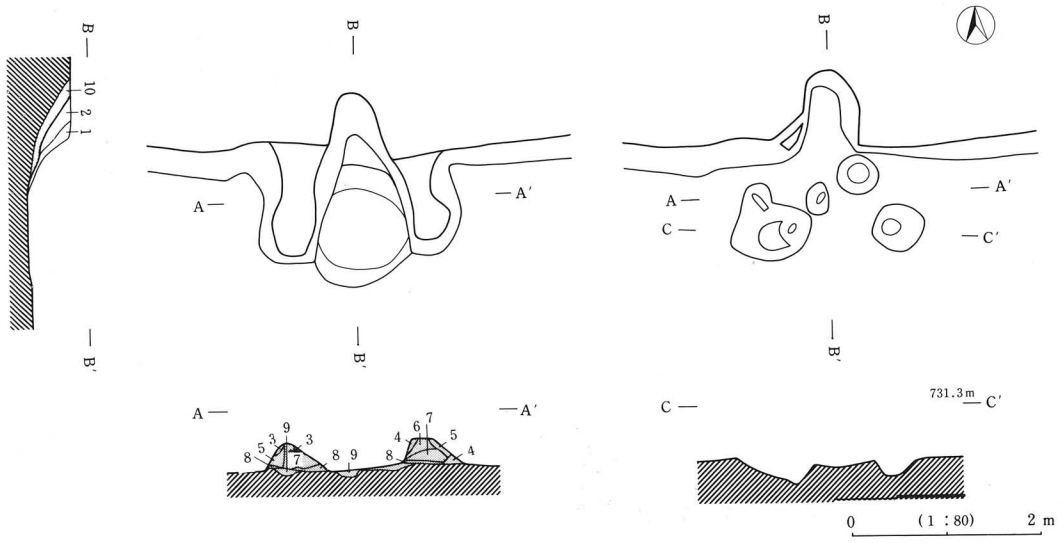
第46図　H16号住居址出土石器実測図



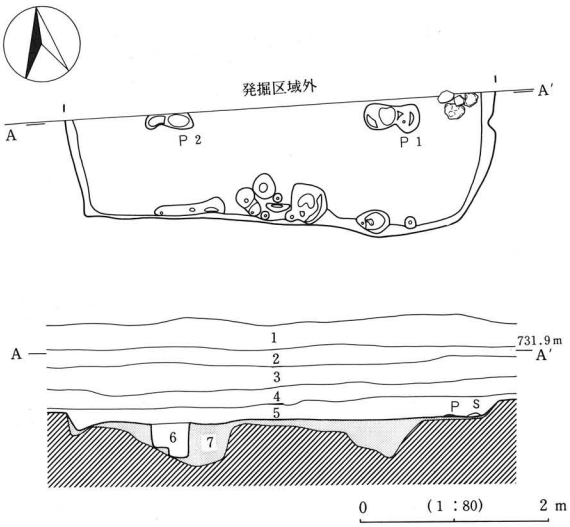
第48図　H17号Ｂ住居址実測図



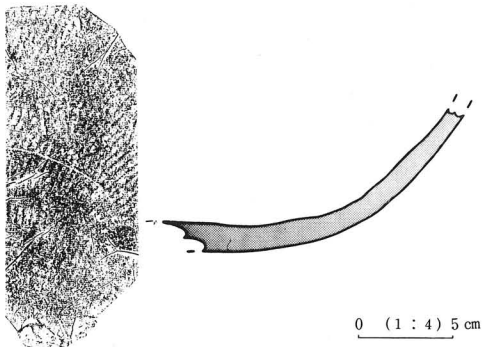
第49図　H17号Ｂ住居址出土土器実測図



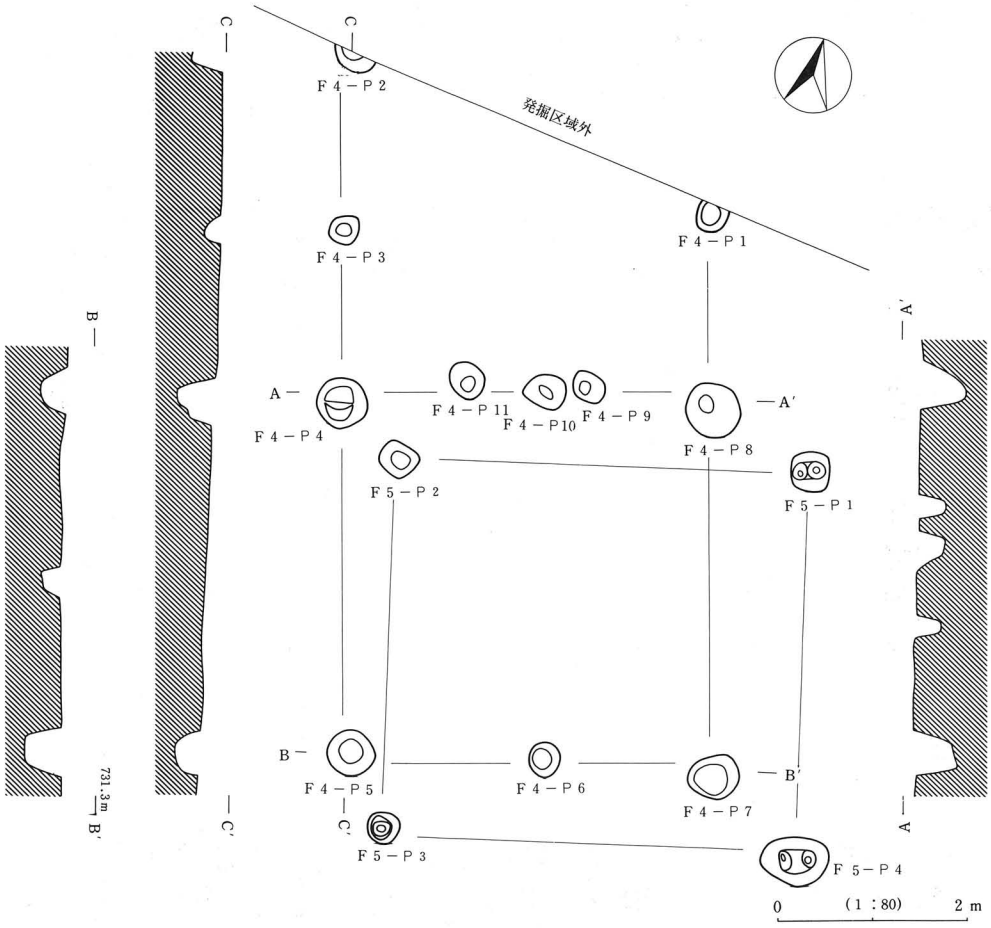
第50図　H17号Ｂ住居址カマド実測図



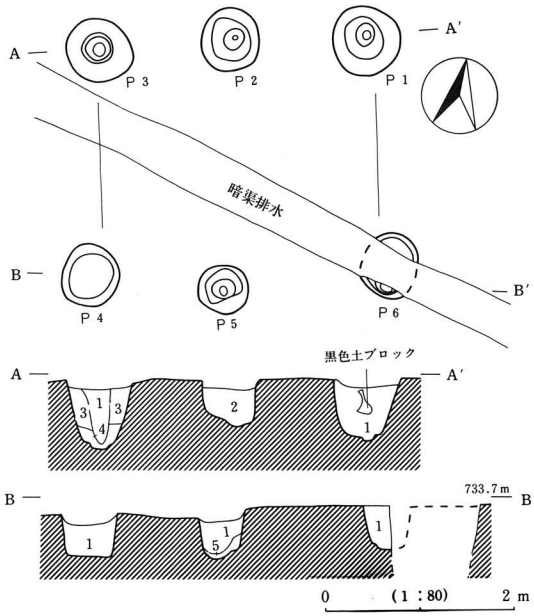
第51図　H18号住居址実測図



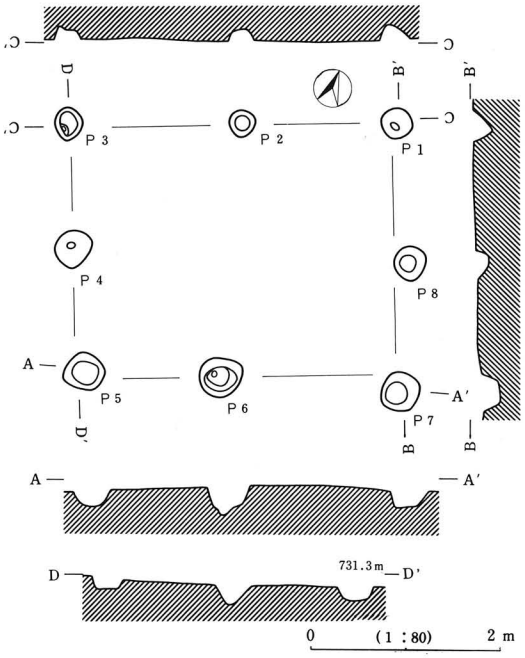
第52図　H18号住居址出土土器実測図



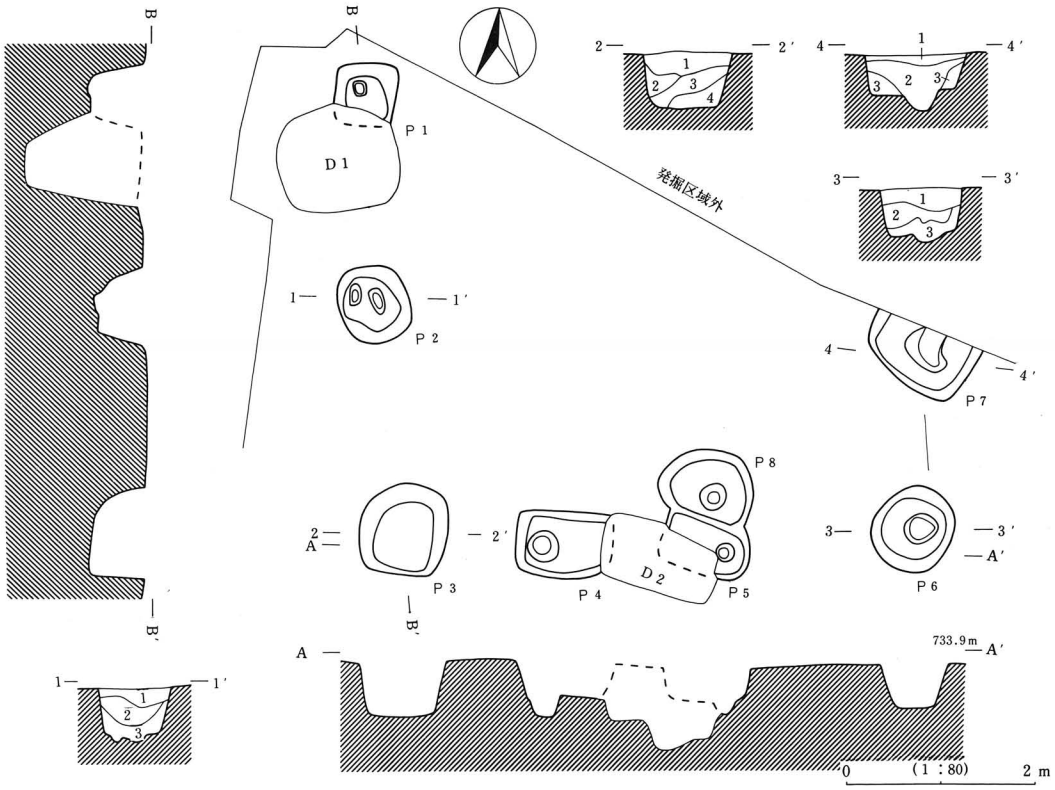
第53図　F 4 号・F 5 号掘立柱建物址実測図



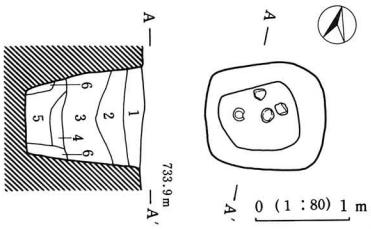
第54図　F 1 号掘立柱建物址実測図



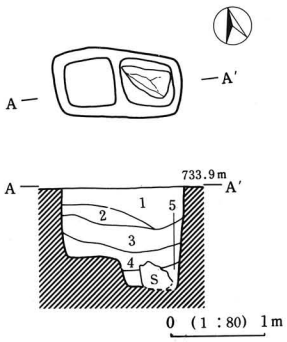
第55図　F 3 号掘立柱建物址実測図



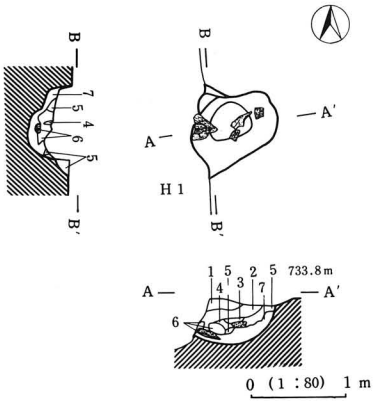
第56図　F 2 号掘立柱建物址実測図



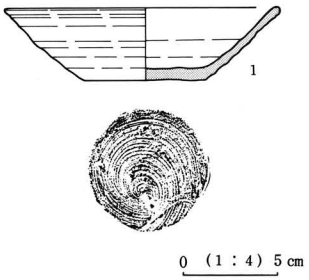
第57図　D１号土坑実測図



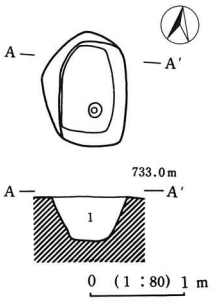
第58図　D２号土坑実測図



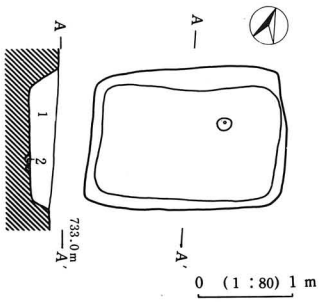
第59図　D３号土坑実測図



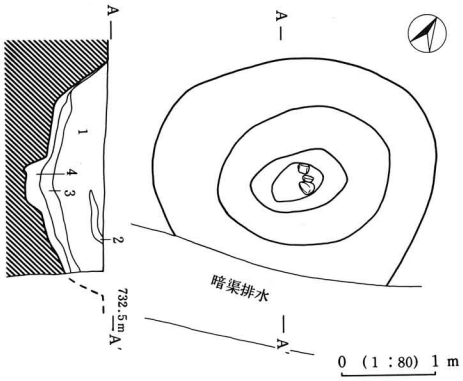
第60図　D１号土坑出土土器実測図



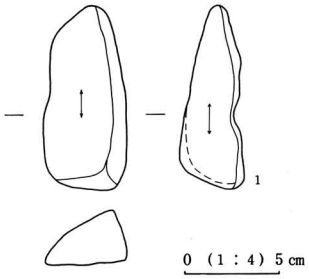
第61図　D４号土坑実測図



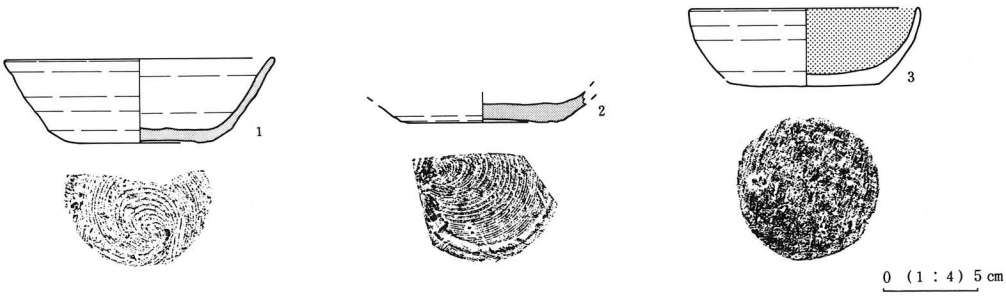
第62図　D５号土坑実測図



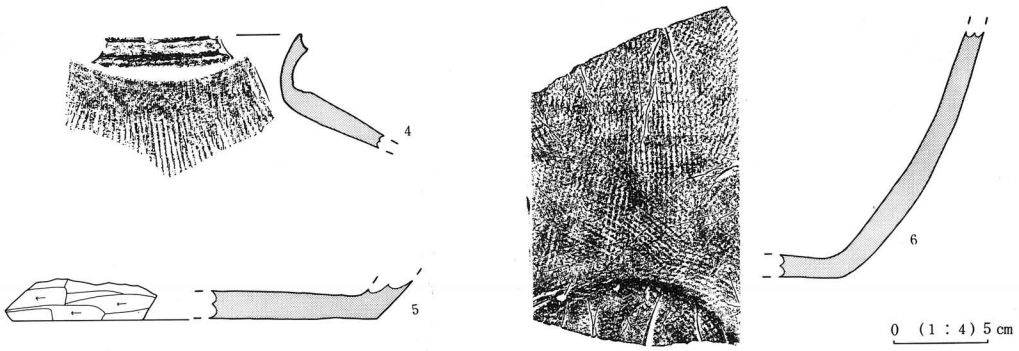
第63図　D６号土坑実測図



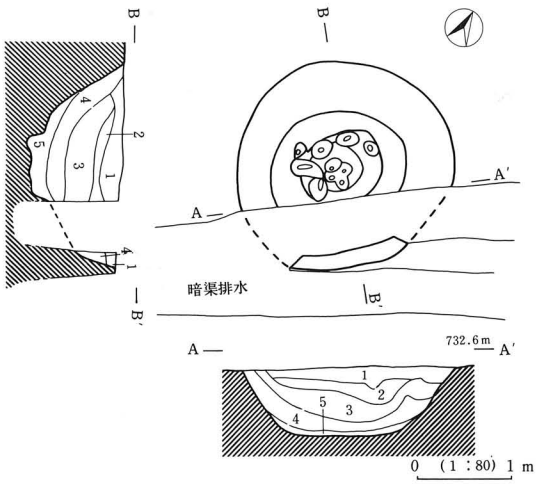
第64図　D５号土坑出土石器実測図



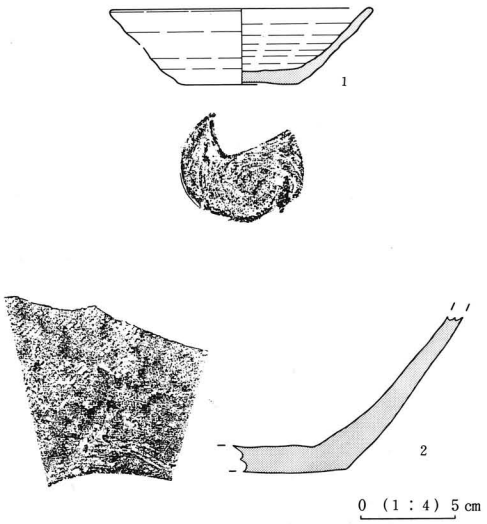
第65図　D６号土坑出土土器実測図（１）



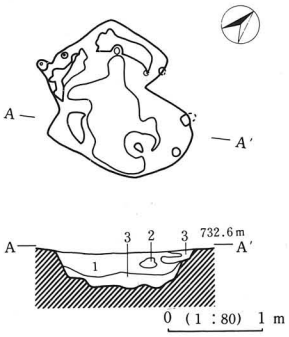
第66図　Ｄ６号土坑出土土器実測図（２）



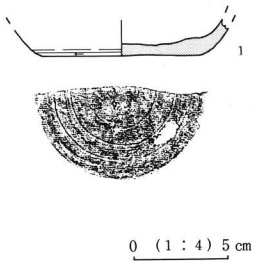
第67図　Ｄ７号土坑実測図



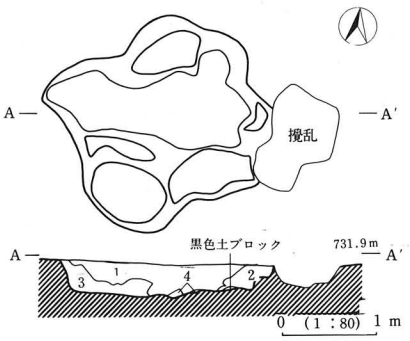
第68図　Ｄ７号土坑出土土器実測図



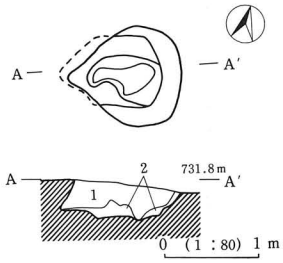
第69図　Ｄ８号土坑実測図



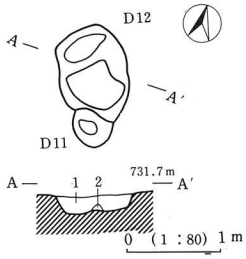
第70図　Ｄ８号土坑出土土器実測図



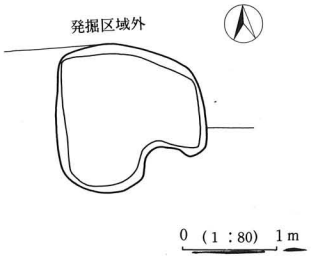
第71図　Ｄ９号土坑実測図



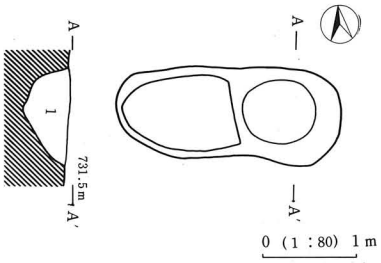
第72図　D10号土坑実測図



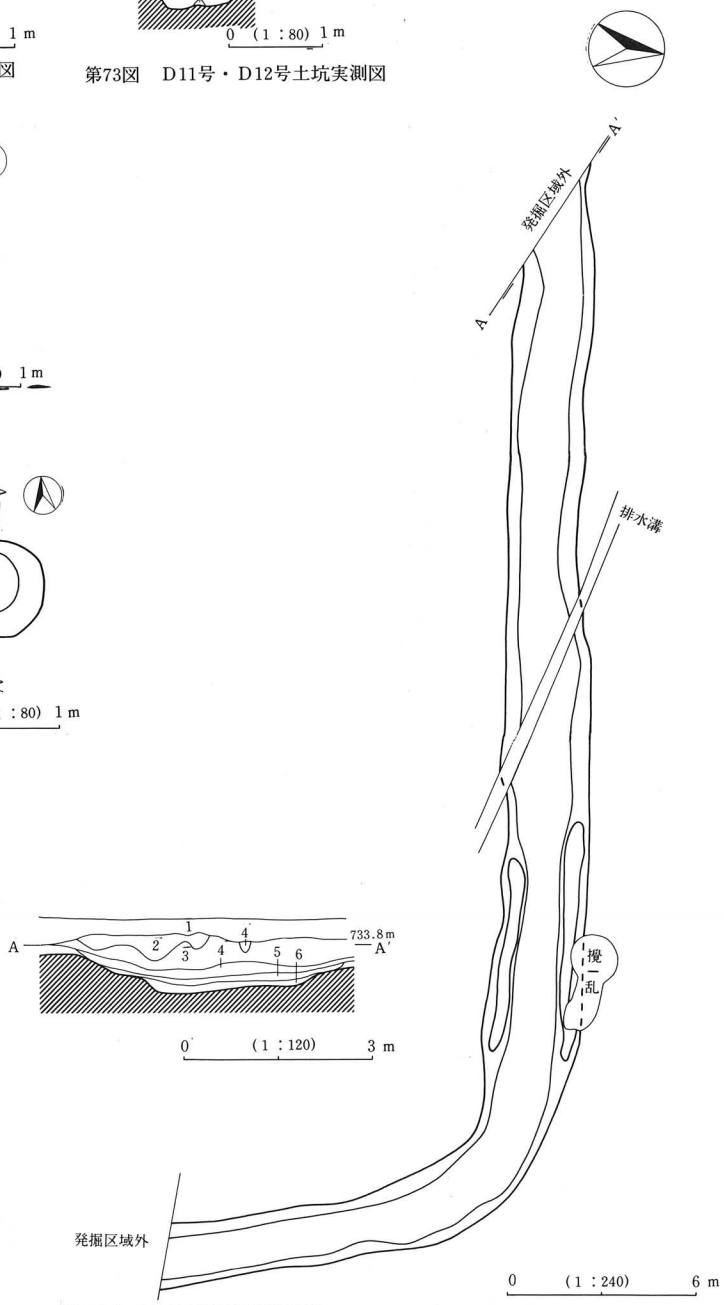
第73図　D11号・D12号土坑実測図



第74図　D13号土坑実測図

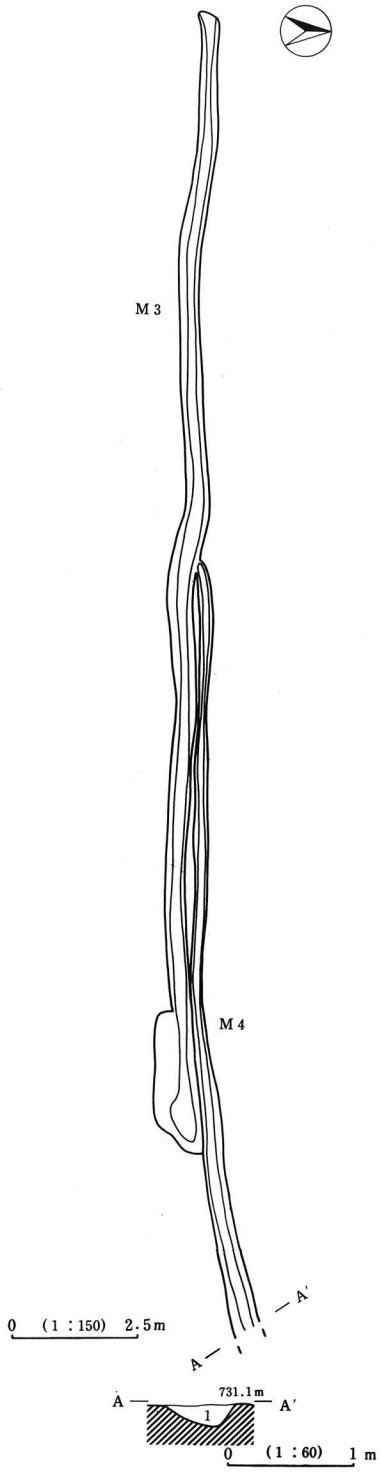


第75図　D14号土坑実測図

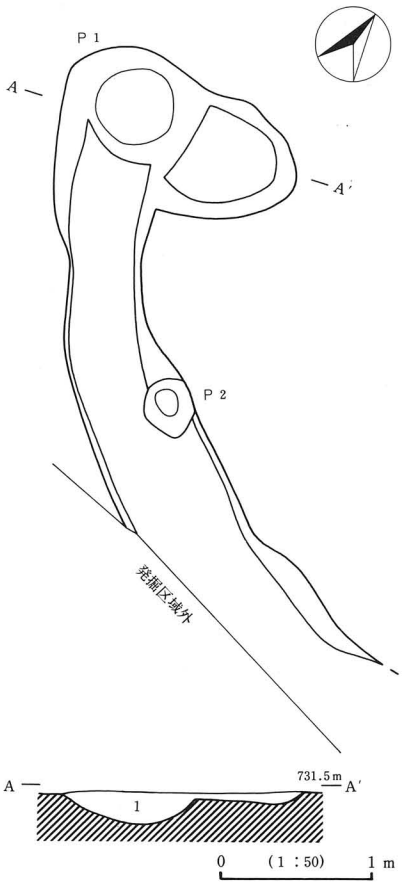


第76図　M１号溝状遺構実測図

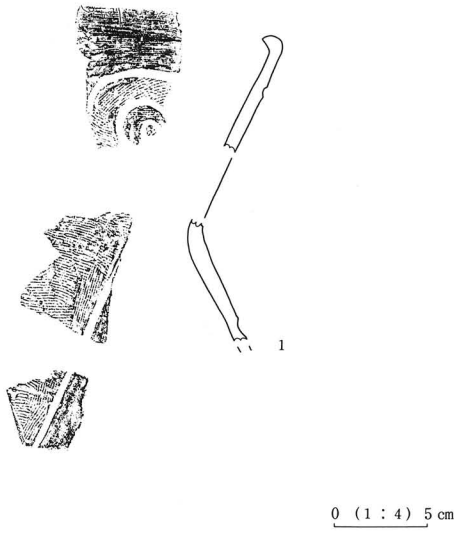
第77図　M 2 号溝状遺構実測図



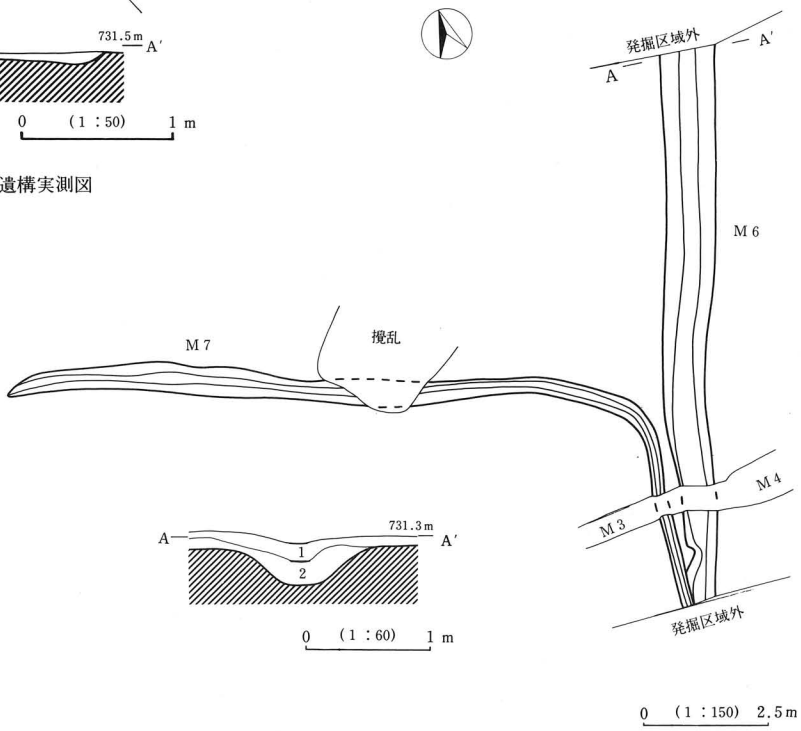
第78図　M 3 号・M 4 号溝状遺構実測図



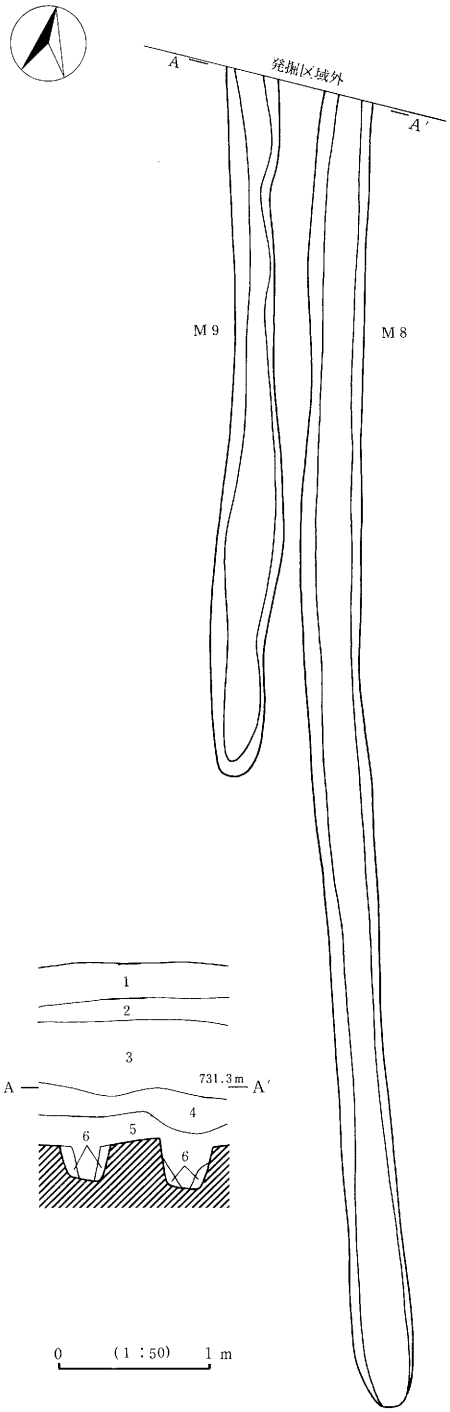
第79図　M 5 号溝状遺構実測図



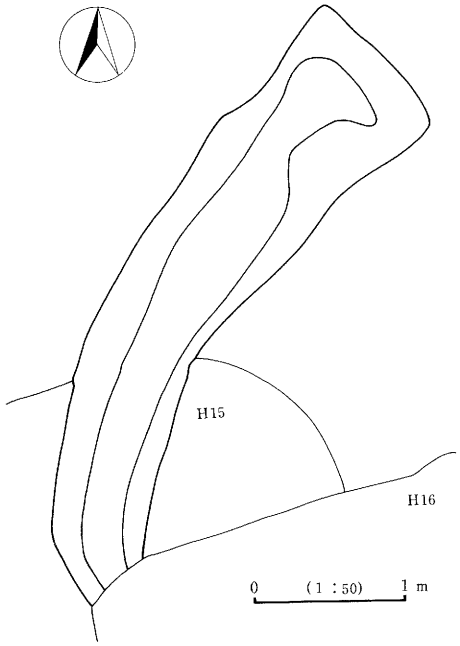
第80図　M 6 号溝状遺構出土土器実測図



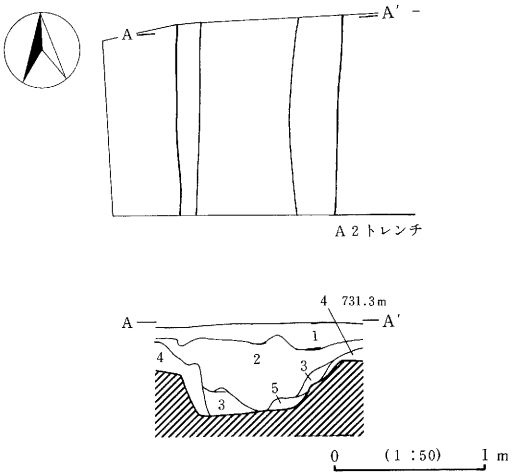
第81図　M 6 号・M 7 号溝状遺構実測図



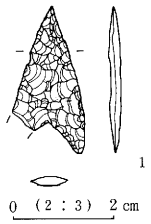
第82図　M８号・M９号溝状遺構実測図



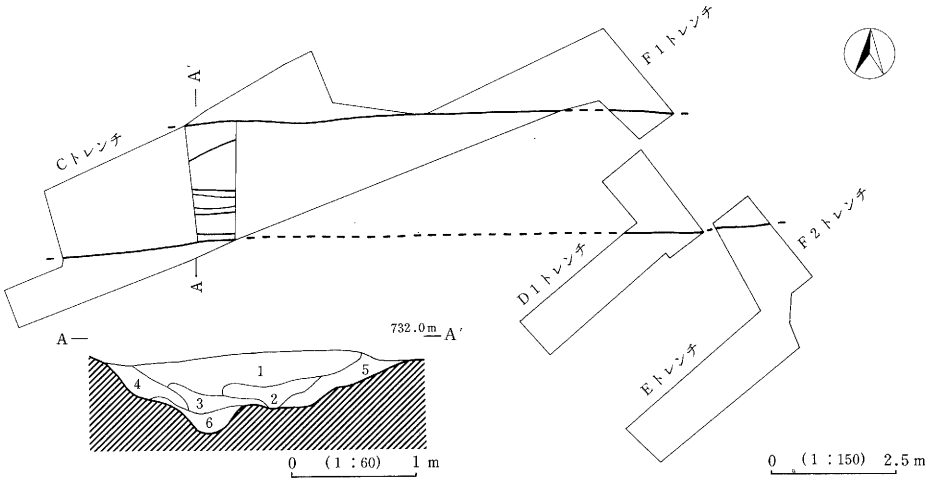
第83図　M10号溝状遺構実測図



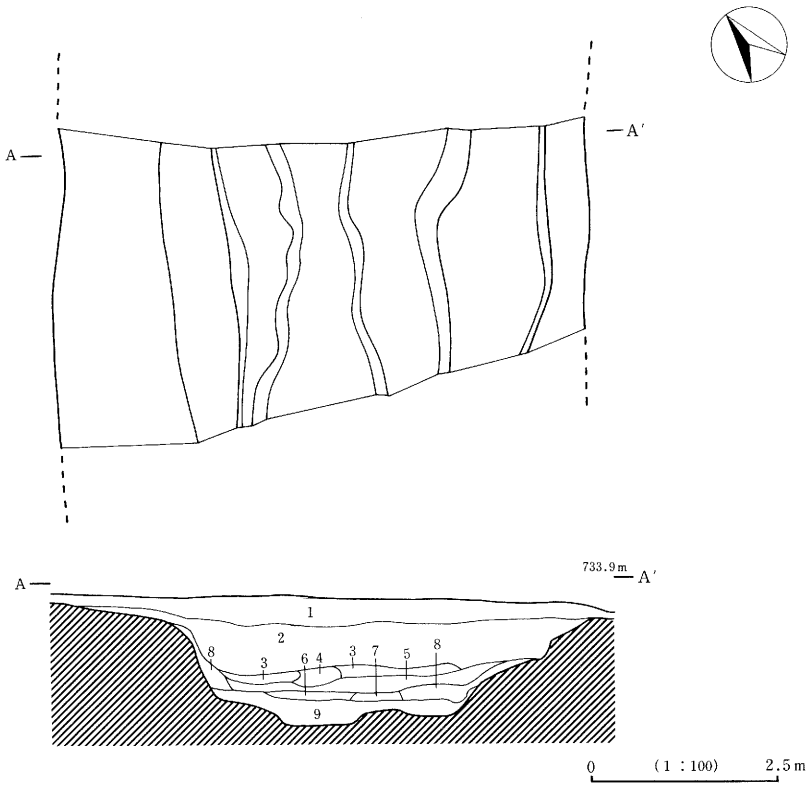
第84図　M12号溝状遺構実測図



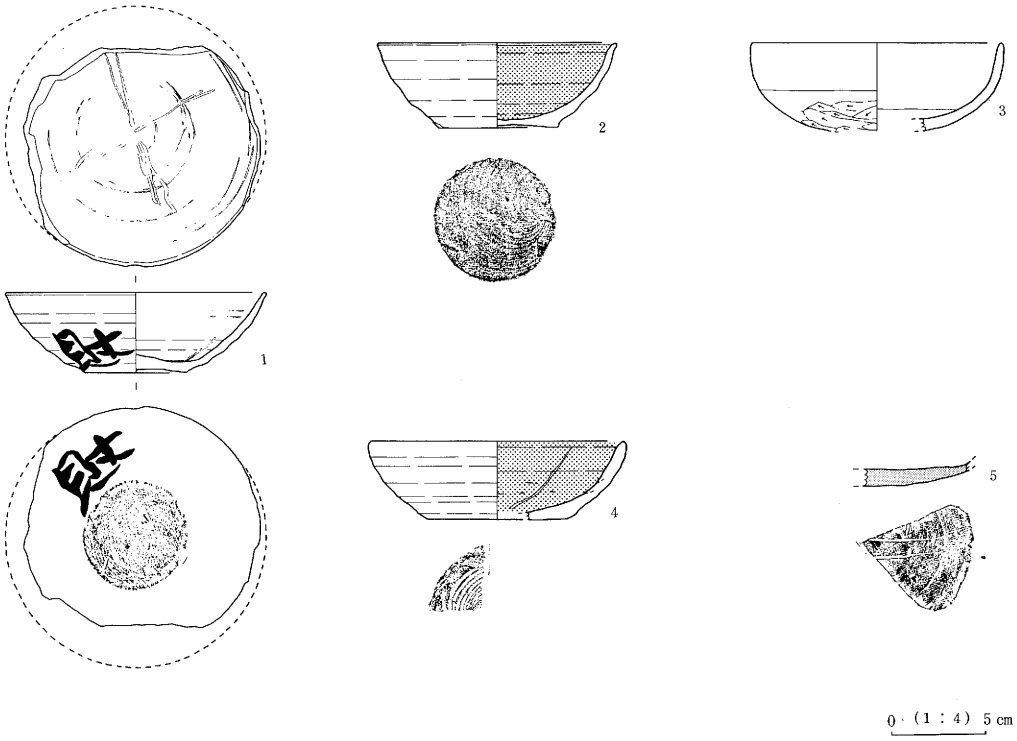
第85図　M11号溝状遺構出土石器実測図



第86図　M11号溝状遺構実測図



第87図　M13号溝状遺構実測図



第88図　トレンチ・グリッド出土遺物実測図

遺構土層説明一覧

H１号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(0.5cm大)を少量、パミス（0.5cm）を微量含む。
2層	黒褐色土	10YR2/2	パミス（0.5cm大）・ローム粒子・地山の黒色土を少量含む。
3層	黒褐色土	10YR2/2	
4層	黒色土	10YR1.7/1	堅くしまる。礫（1～3cm大）・砂粒を多量含む。褐色土も含む。
5層	黒色土	10YR1.7/1	パミスを微量含む。暗褐色土も斑状に含む。
6層	極暗褐色土	7.5YR2/3	焼土粒子を多量含む。
7層	黒色土	10YR1.7/1	焼土粒子を少量含む。
8層	黒色土	10YR2/1	パミスを微量含む。

H２号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR2/1	パミス（0.5cm大）・赤く変色した鉄分を微量含む。
2層	黒色土	10YR2/1	堅くしまる。ローム粒子を少量、パミス（0.5cm大）を微量含む。
3層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土粒子を少量含む。
4層	黒褐色土	7.5YR3/2	粘土粒子を少量含む。
5層	極暗赤褐色土	5YR2/3	焼土。
6層	黒色土	7.5YR2/1	パミス（0.5cm大）・焼土粒子を微量含む。
7層	暗褐色土	7.5YR3/3	ロームブロック・ローム粒子を多量含む。
8層	黒褐色土	7.5YR3/2	パミス（0.5cm大）・粘土粒子を微量含む。

H３号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒子を少量含む。
2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒子を少量含む。
3層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒子を微量含む。

H４号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロックを多量、にぶい赤褐色土ブロックを少量含む。
2層	褐色土	10YR4/6	堅くしまる。礫（0.3～0.5cm大）・ローム粒子・ロームブロックを多量含む。
3層	黒褐色土	10YR3/2	パミスを少量含む。
4層	暗褐色土	7.5YR3/4	粘土ブロックを少量含む。
5層	黒褐色土	10YR2/3	ロームが主、礫（0.3cm大）を多量、パミス（0.3cm大）を少量含む。

H５号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子を多量含む。
2層	黒色土	10YR2/1	黄色・桃色ロームブロックを多量、パミスを微量含む。
3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒子・ロームブロックを少量含む。
4層	褐色土	7.5YR4/3	ロームブロック・ローム粒子を多量、パミスを少量含む。
5層	黒色土	10YR1.7/1	ロームブロックを微量含む。
6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒子を多量含む。
7層	褐色土	7.5YR4/6	ロームが主。パミスを微量含む。

H６号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	礫（0.5cm大）を多量、ローム粒子を微量含む。
2層	黒色土	10YR2/1	炭化粒子・パミス（0.3cm以下）を多量、焼土粒子を微量含む。
3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒子を多量、ロームブロック・パミス（1cm大）を少量含む。

H７号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/3	ロームブロックを多量、パミス（0.3～0.5cm大）を少量含む。
2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子を多量、パミス（0.3cm大）を少量含む。

H８号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック・パミス（0.1cm大）を多量含む。
2層	黒色土	10YR2/1	ロームブロック・パミス（0.3～0.5cm大）を少量含む。

H９号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒子・パミスを微量含む。
2層	黒褐色土	10YR2/3	褐色土ブロックを多量、パミス（0.5cm大）を少量含む。

H10号住居址土層説明

1層	黒褐色土	7.5YR3/2	褐色の地山ブロックを少量、黒色土ブロックを含む。
2層	黒色土	7.5YR2/1	
3層	暗褐色土	7.5YR3/3	褐色・明褐色の地山ブロック・黒色土ブロックを多量含む。
4層	黒褐色土	7.5YR3/2	住居使用中に堆積したと思われる土。
5層	褐色土	7.5YR4/3	ロームを主とし、パミス（小）を少量、黒色土を含む。
6層	黒褐色土	10YR2/2	非常にきめ細かく粘性弱。

H10号住居址カマド土層説明

1層	黒褐色土	7.5YR3/2	明褐色土・橙色土ブロックを含む。
2層	橙色土	2.5YR6/6	
3層	極暗赤褐色土	5YR2/3	焼土粒子を多量含む。
4層	極暗赤褐色土	7.5YR2/3	焼土ブロックを少量含む。
5層	にぶい赤褐色土	2.5YR4/4	焼土。
6層			天井部が崩落したもの。
7層	黄橙色土	7.5YR7/8	
8層	極暗赤褐色土	7.5YR2/3	
9層	極暗赤褐色土	2.5YR2/2	焼土ブロックを含む。
10層	橙色土	2.5YR6/6	
11層	褐色土	7.5YR4/4	
12層	極暗赤褐色土	5YR2/4	熱を受け、にぶく赤味がかかる。煤状の炭化粒子を多量、炭を少量含む。
13層	黒褐色土	7.5YR2/2	黄橙色土・橙色土ブロックを含む。

H11号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR2/1	ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子・パミス（0.5cm大）を微量含む。
2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒子を多量含む。
3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒子を少量含む。
4層	明褐色土	7.5YR5/6	ロームが主。パミスを微量含む。
5層	褐色土	10YR4/6	ロームが主。パミス・黒色土ブロックを少量含む。

H11号住居址カマド土層説明

1層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭・焼土ブロック（中）を多量、黒色土・褐灰色土ブロックを含む。
2層	橙色土	5YR6/8	焼土。
3層	暗赤褐色土	5YR3/2	焼土ブロック（小）・炭を多量含む。
4層	褐色土	7.5YR4/6	
5層	褐色土	7.5YR4/3	
6層	にぶい褐色土	7.5YR5/4	
7層	暗褐色土	7.5YR3/4	
8層	黒褐色土	7.5YR3/2	

H12号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/3	パミス（0.5～1cm大）を多量、ローム粒子を少量含む。
2層	黒褐色土	7.5YR3/2	焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
3層	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロックを多量、パミスを少量含む。
4層	褐色土	10YR4/6	ロームが主。パミスを微量含む。

H12号住居址カマド土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/3	明黄褐色土の粘土ブロックを多量含む。
2層	明黄褐色土	10YR6/6	粘土。
3層	赤褐色土	5YR4/6	焼土を多量、炭を含む。
4層	極暗赤褐色土	5YR2/3	焼土を少量含む。
5層	明褐色土	7.5YR5/6	
6層	にぶい橙色土	5YR6/4	
7層	極暗赤褐色土	2.5YR2/3	焼土ブロック・炭・明黄褐色土を含む。全体に熱を受けている。
8層	褐色土	10YR4/6	
9層	黒褐色土	7.5YR2/2	
10層	褐色土	10YR4/6	
11層	黒褐色土	5YR3/1	
12層	黒色土	7.5YR2/1	

H13号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土ブロックを含む。
2層	黒褐色土	10YR2/2	褐色の地山土・褐色土ブロックを多量含む。

H13号住居址カマド土層説明

1層	にぶい赤褐色土	5YR4/4	焼土。
2層	黒色土	7.5YR2/1	ロームブロックを少量、パミス・礫を微量含む。
3層	暗褐色土	10YR3/4	ロームが主。

H13号住居址旧カマド土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土ブロックを含む。（住居址1層と同じ）
2層	黒褐色土	10YR2/2	褐色の地山土・褐色土ブロックを多量含む。（住居址2層と同じ）
3層	黒褐色土	10YR2/2	

H14号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR1.7/1	褐色土ブロックを含む。

H15号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	ロームブロック・ローム粒子を多量、パミスを微量含む。
2層	褐色土	10YR4/6	ロームが主。パミスを少量含む。

H16号住居址土層説明

1層	黒色土	10YR1.7/1	堅い。
2層	黒褐色土	10YR2/2	パミス（0.5～3cm大）・ロームブロックを多量含む。
3層	橙色土	2.5YR6/6	構築土が崩落したもの。
4層	赤黒色土	2.5YR2/1	焼土ブロック・炭を含む。
5層	赤黒色土	2.5YR1.7/1	

H17号A住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子・礫（小）を多量、黒色土ブロックを含む。
2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒子・ロームブロックを多量含む。

H17号B住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒子・ロームブロック・パミス・礫（小）を含む。
2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒子・ロームブロックを多量、パミスを含む。
3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒子・パミスを少量含む。
4層	褐色土	7.5YR4/4	ロームが主。黒褐色土・パミス（大）を多量含む。
5層	黒色土	10YR1.7/1	

H17号B住居址カマド土層説明

1層	にぶい橙色土	5YR6/4	ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。（天井部崩落と思われる）
2層	黒褐色土	5YR3/1	焼土粒子を少量含む。
3層	黒色土	10YR1.7/1	黒色土ブロック。
4層	暗赤褐色土	5YR3/4	焼土粒子を多量含む。
5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子を多量、焼土・黒色ブロックを少量含む。
6層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒子。
7層	にぶい黄橙色土	10YR7/3	ロームが主。焼土粒子を微量含む。
8層	黒色土	10YR1.7/1	礫（0.5cm大）を少量含む。
9層	黒色土	5YR1.7/1	ロームブロックを多量、礫（0.5cm大）を少量含む。
10層	黒褐色土	5YR2/1	焼土・炭化物を多量含む。

H18号住居址土層説明

1層	黒褐色土	10YR2/2	粘性強。
2層	暗褐色土	10YR3/3	パミス（小）を少量含む。
3層	黒褐色土	10YR3/2	パミス（小）を少量含む。
4層	黒褐色土	10YR2/3	パミス（小～中）を少量含む。

5層　黒色土　10YR2/1　ローム粒子を少量、パミス（小～中）を微量含む。
6層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒子を多量含む。
7層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子を多量含む。

F1号掘立柱建物址土層説明
1層　暗褐色土　10YR3/3　礫（0.5cm大）・赤く変色した鉄分を少量、パミス（0.3cm大）を微量含む。
2層　暗褐色土　10YR3/3　パミス・ローム粒子を微量、黒色土ブロックを斑状に含む。
3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒子を多量、パミスを微量含む。
4層　暗褐色土　10YR3/3　きめ細かい。赤く変色した鉄分を多量含む。
5層　黒色土　10YR1.7/1　地山の黒色土が主。ローム粒子を少量含む。

F2号掘立柱建物址土層説明
1層　暗褐色土　10YR3/4　礫・ロームブロックを多量含む。
2層　黒色土　10YR2/1　暗褐色土ブロックを多量、砂を少量含む。
3層　黒色土　10YR1.7/1　暗褐色ブロックを少量含む。
4層　黒色土　10YR1.7/1　暗褐色粒子を微量含む。

D1号土坑土層説明
1層　暗褐色土　10YR3/4　礫（小）・ロームブロックを少量含む。
2層　黒褐色土　10YR3/2　礫（小）を微量含む。
3層　黒褐色土　10YR2/2　礫（小）・ロームブロックを多量含む。
4層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子を多量含む。
5層　黒色土　10YR2/1
6層　褐色土　10YR4/4　ロームが主。黒色土ブロックを含む。

D2号土坑土層説明
1層　暗褐色土　10YR3/4　礫（小）・ロームブロックを多量含む。
2層　黒褐色土　10YR2/2　礫（小）・ローム粒子を少量含む。
3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒子を少量含む。
4層　黒色土　10YR2/1
5層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒子を微量含む。

D3号土坑土層説明
1層　黒褐色土　10YR2/3　礫（0.1cm大）を少量含む。
2層　黒色土　10YR2/1　炭化粒子を少量、パミス・礫（0.1cm大）を微量含む。
3層　褐色土　7.5YR4/6　黒色土を含む。
4層　黒褐色土　7.5YR2/2　パミスを微量含む。
5層　褐色土　7.5YR4/4　6層の褐色土を少量含む。
6層　褐色土　7.5YR4/6　炭化粒子を微量含む。
7層　黒褐色土　7.5YR3/2　地山の黒色土を多量含む。

D4号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR1.7/1　パミス（0.5cm以下）を少量含む。

D5号土坑土層説明
1層　黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック・パミス（0.3cm大）を多量含む。
2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子を多量含む。

D6号土坑土層説明
1層　黒褐色土　7.5YR2/2　パミス（0.5cm大）を少量・パミス（3～5cm大）を微量含む。
2層　極暗褐色土　7.5YR2/3　明赤褐色の地山ブロックを含む。
3層　黒色土　7.5YR2/1
4層　極暗褐色土　7.5YR2/3　人為的埋土と思われる。明赤褐色・橙色ブロック（極小）を多量含む。

D7号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR2/1　礫（小）・砂を少量含む。
2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子を多量、礫（小）を少量含む。
3層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒子・ロームブロックを多量、礫（小）を少量含む。
4層　黒色土　10YR1.7/1　礫（小）・ローム粒子・ロームブロックを少量含む。
5層　黄褐色土　10YR5/6

D8号土坑土層説明
1層　黒褐色土　7.5YR3/2　黒色土ブロック・明黄褐色土・橙色土を含む。
2層　混合土　浅黄橙色土・黒色土ブロックを少量、橙色土・褐色土・明褐色土・明黄褐色土を含む。
3層　明黄褐色土　10YR6/6　明褐色土ブロックを含む。

D9号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR2/1　ローム粒子・ロームブロック（黄・桃・白色）を多量含む。
2層　明黄褐色土　10YR7/6　ロームが主。
3層　黄褐色土　10YR5/6　ロームが主。礫（0.5～1cm大）を少量含む。
4層　浅黄橙色土　10YR8/4　ロームが主。

D10号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR2/1　パミス・ロームブロックを少量含む。
2層　黄褐色土　10YR5/6　ロームが主。

D12号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR2/1
2層　明赤褐色土　5YR5/8　黒色土ブロック（小）を含む。

D14号土坑土層説明
1層　黒色土　10YR2/1　ロームブロックを少量、パミスを微量含む。

M1号溝状遺構土層説明
1層　黒褐色土　5YR2/1　耕作土。
2層　暗赤褐色土　5YR3/3　礫（0.5cm大）を少量含む。
3層　暗赤褐色土　5YR3/4　礫（0.5cm大）を微量含む。
4層　黒褐色土　5YR3/1　礫（0.5～3cm大）砂を少量含む。
5層　黒褐色土　5YR2/1　礫・砂を多量含む。
6層　黒色土　5YR1.7/1　堅い。礫を微量含む。

M2号溝状遺構土層説明
1層　黒褐色土　7.5YR3/1　ローム粒子を少量含む。

M4号溝状遺構土層説明
1層　黒褐色土　10YR2/2　パミスを少量、ローム粒子を含む。

M5号溝状遺構土層説明
1層　黒色土　10YR1.7/1　ロームブロックを多量、

ローム粒子・パミスを少量含む。

M6号溝状遺構土層説明

1層　黒色土　7.5YR2/1　礫（0.5～1㎝大）を少量含む。
2層　黒色土　7.5YR1.7/1　礫（0.5～1㎝大）を多量含む。

M8号・M9号溝状遺構土層説明

1層　褐灰色土　10YR4/1　耕作土。
2層　暗褐色土　7.5YR3/4　耕作土。
3層　黒褐色土　7.5YR3/1　パミス（0.5㎝大）を多量含む。
4層　黒色土　7.5YR2/1　パミス（0.5㎝大）を少量含む。
5層　黒色土　7.5YR1.7/1　ローム粒子を微量含む。
6層　褐色土　7.5YR4/3　ロームブロック・ローム粒子を少量含む。

M11号溝状遺構土層説明

1層　黒色土　10YR2/1　礫（0.3㎝大）・ローム粒子を少量含む。
2層　黒褐色土　10YR2/3　砂層。礫（0.5～1㎝大）を多量含む。
3層　黒褐色土　10YR2/3　礫（0.3㎝大）・ローム粒子を微量含む。
4層　黒褐色土　10YR3/2　礫（1～3㎝大）を多量、ローム粒子を少量含む。
5層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒子を多量、礫（0.3㎝大）を少量含む。
6層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子を多量含む。

M12号溝状遺構土層説明

1層　黒褐色土　10YR2/2　耕作土。
2層　黒色土　10YR2/1　ローム粒子を少量、パミス（1.5㎝大）を微量含む。
3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒子を多量、パミス（0.5㎝大）を微量含む。
4層　暗褐色土　10YR3/4　ロームが主。
5層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒子・ロームブロックを多量含む。

M13号溝状遺構土層説明

1層　黒褐色土　10YR2/2　礫（小）・床土を少量含む。
2層　黒色土　10YR2/1　礫（小）・川のよどみの白色ブロックを微量含む。
3層　黒褐色土　10YR3/1　砂・川のよどみの白色ブロックを少量含む。
4層　灰黄褐色土　10YR4/2　砂・礫（小）層。
5層　黒色土　10YR2/1　礫（小）を少量含む。
6層　黒褐色土　10YR2/2　礫(小)・砂を多量含む。
7層　黒色土　10YR1.7/1　堅い。礫（小）を含む。
8層　褐色土　10YR4/4　壁面の崩落層。
9層　黒褐色土　7.5YR3/1　鉄分の多い礫・砂の層。

遺物観察表

第2表　赤座垣外遺跡出土石器観察表

挿図番号	器種	石質	法量（cm）			出土遺構	備考
			長さ	幅	厚さ		
13―1	砥石	花崗岩	8.7	5.0	2.7	H4号住居址	
21―1	砥石	砂質粘板岩	〈4.2〉	2.6	1.4	H7号住居址	
25―1	敲石	輝石安山岩	16.8	7.0	3.8	H10号住居址	
46―1	台状砥石	安山岩	〈13.1〉	〈11.0〉	5.0	H16号住居址	
64―1	砥石	安山岩	9.7	4.4	3.3	D5号土坑	
85―1	石鏃	灰色チャート	2.95	〈1.45〉		M11号溝状遺構	抉深0.65㎝

第3表　H1号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
5－1	須恵器	坏	14.0 6.3 3.7	完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　内2.5GY2/1（黒色） 外5Y7/1（灰白色）	
5－2	須恵器	坏	14.0 6.7 4.0	口縁3/4 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　5Y7/1（灰白色）	
5－3	須恵器	坏	14.4 6.3 4.1	口縁1/2 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　2.5GY2/1（黒色）	
5－4	須恵器	坏	(13.6) (5.2) 4.0	口縁一部 底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子・石英粒含む 焼成　良好 色調　5Y5/1（灰色）	火だすきあり
5－5	須恵器	坏	(13.8) (5.7) 4.1	口縁～底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子・黒色粒子含む 焼成　良好 色調　2.5Y6/2（灰黄色）	
5－6	須恵器	坏	(14.7) (7.2) 3.7	口縁～底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　5Y3/1・7/1（オリーブ黒色・灰白色）	
5－7	須恵器	坏	— 5.9 〈1.1〉	底部完形	ロクロナデ →底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　2.5GY5/1（オリーブ灰色）	
5－8	土師器	坏	(16.0) (6.0) 4.5	口縁1/2 底部1/4	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR6/6（橙色）	
5－9	土師器	坏	(15.2) 7.3 3.6	口縁1/8 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付・内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR6/4（にぶい橙色）	
5－10	土師器	坏	(14.6) (6.2) 5.4	口縁1/4 底部1/2	ロクロナデ →底部切り離し後回転ヘラケズリ・外周手持ちヘラケズリ→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR5/6（明褐色）	口唇部の磨耗が著しい。
5－11	土師器	坏	(12.2) (5.0) 4.8	口縁～底部1/3	ロクロナデ→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR6/6（橙色）	外面体部に墨書あり（「大」） 口唇部の摩滅著しい
5－12	土師器	坏	(15.4) 5.4 4.9	口縁1/5 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR7/4（にぶい橙色）	
5－13	土師器	甕	(21.0) — 〈5.5〉	口縁1/4	口縁ヨコナデ→内面胴部ヘラナデ・外面胴部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5YR5/6（明赤褐色）	
5－14	土師器	甕	(20.0) — 〈4.6〉	口縁1/4	口縁ヨコナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5YR6/4（にぶい橙色）	
5－15	須恵器	壺	— 7.3 〈7.9〉	底部完形	ロクロナデ→底部切り離し→高台貼付	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　N4/0（灰色）	

第4表　H2号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
7－1	土師器	坏	— (6.4) 〈3.0〉	底部2/3	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒・石英を含む 焼成　良好 色調　内7.5YR4/2（灰褐色） 外7.5YR6/4（にぶい橙色）	
7－2	土師器	坏	— (8.0) 〈1.6〉	高台1/2		胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　10YR4/2（灰黄褐色）	
7－3	土師器	小形甕	— 6.2 〈3.4〉	底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　砂粒石英を含む 焼成　良好 色調　7.5YR5/4（にぶい褐色）	底部形状は高台状である。

第５表　Ｈ３号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
9－1	土師器	坏	(14.0) (5.2) 4.1	口縁1/3 底部2/3	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ（十字）後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10ＹＲ1.7/1（黒色） 外7.5ＹＲ5/3（にぶい褐色）	
9－2	土師器	坏	— 6.0 〈1.6〉	底部5/6	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10ＹＲ3/2（黒褐色） 外7.5ＹＲ4/2（灰褐色）	
9－3	土師器	甕	— 〈3.0〉	底部完形	内面ナデ・外面ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5ＹＲ3/2（暗赤褐色） 外2.5ＹＲ6/4（にぶい橙色）	
10　4	土師器	小形甕	— 6.0 〈2.6〉	底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ・内面黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5ＹＲ5/3（にぶい褐色）	
10　5	土師器	甕	(21.4) — 〈18.8〉	口縁1/4	ロクロナデ→内面胴部下半ヘラナデ・外面胴部下半ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内7.5ＹＲ6/4(にぶい橙色) 外7.5ＹＲ7/4(にぶい橙色)	
10－6	土師器	甕	(21.8) — 〈9.8〉	口縁～胴部1/4	ロクロナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5ＹＲ5/4（にぶい赤褐色）	Ｈ５　１層の遺物と接合
10　7	土師器	小形甕	13.8 — 〈12.7〉	口縁3/4	ロクロナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内５ＹＲ6/6（橙色） 外2.5ＹＲ6/6（橙色）	

第６表　Ｈ４号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
12　1	土師器	坏	— 5.3 〈1.3〉	底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ（十字）後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　５ＹＲ5/4（にぶい赤褐色）	
12　2	土師器	坏	(12.4) (6.2) 4.1	口縁～底部1/3	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5ＹＲ5/4（にぶい褐色）	Ｈ５　１層の遺物と接合
14　3	土師器	甕	(22.0) — 〈12.4〉	口縁1/4	ロクロナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　2.5ＹＲ4/4（にぶい赤褐色）	
14　4	土師器	甕	(23.2) — 〈6.0〉	口縁1/3	ロクロナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5ＹＲ7/6（橙色）	

第７表　Ｈ５号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
16　1	土師器	坏	(14.0) — 5.0	口縁1/2 底部完形	内面ナデ→口縁ヨコナデ後一部ヘラミガキ→外面体部～底部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5ＹＲ5/2(灰褐色)	
16　2	土師器	坏	(13.4) — 4.5	口縁～底部1/2	内面ナデ→口縁ヨコナデ→外面体部～底部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5ＹＲ6/4(にぶい橙色)	
16　3	土師器	坏	(15.6) 〈4.9〉	口縁1/2	ロクロナデ→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10ＹＲ1.7/1(黒色) 外５ＹＲ4/3(にぶい赤褐色)	
16　4	土師器	坏	— — 〈4.2〉	底部1/2	内面底部ヘラナデ・体部ヘラミガキ・外面ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎土　赤褐色粒子を含む 焼成　良好 色調　内５ＹＲ5/2(にぶい赤褐色) 外10ＹＲ5/3(にぶい黄褐色)	
16　5	土師器	坏	(12.8) (4.8) 4.6	口縁1/4 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ（十字）後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10ＹＲ1.7/1（黒色） 外7.5ＹＲ7/6（橙色）	

16—6	土師器	坏	13.0 7.3 3.3	ほぼ完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付・内面暗文状ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7／1（黒色） 外7.5YR4／3（褐色）	
16—7	土師器	坏	— 6.0 〈3.0〉	底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付・内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR7/4（にぶい橙色）	
16—8	土師器	甕	(21.8) — 〈9.8〉	口縁～胴部1/4	ロクロナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5YR5/4（にぶい赤褐色）	H3　I区床・1層の遺物と接合

第8表　H6号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
18—1	土師器	坏	(12.7) — 〈6.2〉	口縁～体部1/4	内面ナデ・口縁ヨコナデ・外面体部ヘラケズリ→内外面ヘラミガキ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5YR6/4（にぶい橙色）	

第9表　H7号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
20—1	須恵器	坏	13.4 7.4 3.8	口縁3/4 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　N7/0（灰白色）	
20—2	須恵器	坏	13.8 7.0 4.1	口縁2/3 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。黒色粒の溶出あり。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　N6/0(灰色)	
20—3	須恵器	坏	(13.8) 6.1 3.8	口縁1/3 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　2.5Y7/1(灰白色)	
20—4	須恵器	坏	13.7 6.0 3.6	口縁2/3 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調2.5Y6/1（黄灰色）	
20—5	須恵器	坏	— 6.7 〈1.5〉	底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　密。赤褐色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5YR8/2（灰白色）	
20—6	須恵器	坏	(10.8) 7.2 4.6	口縁1/4 底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後回転ヘラケズリ→高台貼付	胎土　密。黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　内N5/0（灰色） 外N3/0（暗灰色）	外面に自然釉付着
20—7	須恵器	坏	(14.0) (5.8) 4.1	口縁～底部1/4	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5YR5/1（褐灰色）	火だすきあり
20—8	須恵器	四耳壺	— — —		ロクロナデ→外面タタキ（平行）・内面当て具痕（同心円）→外面に隆帯貼付	胎土　密。 焼成　良好 色調　内2.5Y8/3（淡黄色） 外2.5Y5/1（黄灰色）	

第10表　H8号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
23—1	土師器	坏	(13.0) 5.2 3.8	口縁1/6 底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後底部～外周手持ちヘラケズリ・内面黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR5/4（にぶい褐色）	

第11表　H10号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
27—1	須恵器	坏	(15.4) (9.7) 6.2	口縁～底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り後回転ヘラケズリ→高台貼付	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好（還元不足） 色調　10YR4/1（褐灰色）	外面に自然釉付着
27—2	須恵器	坏	15.7 9.4 7.0	口縁1/2 底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後回転ヘラケズリ→高台貼付	胎土　密。白色粒子を含む 焼成　良好 色調　5Y5/1（灰色）	

29－3	土師器	甕	— 4.9 〈6.1〉	底部完形	内面ヘラナデ・外面胴部～底部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5YR5/6（明赤褐色） 外2.5YR6/6（橙色）	
29－4	土師器	甕	(21.8) (4.0) 28.0	口縁1/3	口縁ヨコナデ→内面胴部～底部ヘラナデ・外面胴部～底部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5YR5/4（にぶい赤褐色） 外2.5YR6/4（にぶい橙色）	
29－5	土師器	甕	(20.4) (4.5) 26.2	口縁1/4	口縁ヨコナデ→内面胴部～底部ヘラナデ・外面胴部～底部ヘラケズリ後一部ナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5YR6/4（にぶい橙色） 外5YR6/4（にぶい橙色）	
29－6	土師器	甕	22.8 — 〈10.3〉	口縁1/4	口縁ヨコナデ→内面胴部ヘラナデ・外面胴部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5YR5/4（にぶい赤褐色） 外2.5YR6/6（橙色）	
30－7	土師器	甕	(23.6) — 〈10.3〉	口縁1/4	口縁ヨコナデ・内面胴部ヘラナデ・外面胴部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内5YR5/4（にぶい赤褐色） 外7.5YR7/4（にぶい橙色）	
30－8	須恵器	甕	— (11.2) 〈18.6〉	底部1/3	外面胴部タタキ（平行）・下部回転ヘラケズリ・内面当て具痕・下部ナデ	胎土　密。黒色粒の溶出あり 焼成　良好 色調　内N5/0（灰色） 外10YR4/1（褐灰色）	外面に自然釉付着
30－9	須恵器	甕	— — —	底部一部	外面胴部タタキ（平行）後部分的にナデ・下部ヘラケズリ・内面当て具痕・部分的にナデ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好（やや還元不足） 色調　内5P6/1（紫灰色） 外5PB4/1（暗青灰色）	自然釉付着

第12表　H11号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
33－1	土師器	坏	8.2 — 6.0	口縁2/3 底部完形	口縁ヨコナデ・内面体部～底部ナデ・外面体部～底部ヘラケズリ・内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　赤褐色粒子・砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR7/3（にぶい橙色）	
33－2	土師器	坏	(11.4) — 〈5.9〉	口縁1/5	内面ヨコナデ→ヘラミガキ後黒色処理・外面口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR7/3（にぶい橙色）	

第13表　H12号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
36　1	須恵器	坏	(14.2) (9.9) 3.4	口縁～底部1/3	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　10GY6/1（緑灰色）	火だすきあり
36　2	土師器	小形甕	(12.4) — 〈9.9〉	口縁2/3	口縁ヨコナデ・内面胴部ヘラナデ・外面胴部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内2.5YR6/6（橙色） 外5YR6/4（にぶい橙色）	

第14表　H13号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
40－1	須恵器	坏	13.0 7.2 4.0	ほぼ完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　N7/0（灰白色）	
40－2	須恵器	坏	14.0 7.4 4.1	ほぼ完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子・茶褐色粒子含む 焼成　良好 色調　2.5Y7/1（灰白色）	火だすきあり
40－3	須恵器	坏	(14.2) (8.4) 4.1	口縁～底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　黒色粒子・白色粒子・砂粒 焼成　良好 色調　N6/0（灰色）	火だすきあり
40　4	須恵器	蓋	(15.8) — 〈1.6〉	口縁1/6	ロクロナデ	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好（やや還元不足） 色調　10BG4/1（暗青灰色）	

40—5	土師器	甕	(21.6) — 〈7.5〉	口縁1/6	口縁ヨコナデ・内面胴部ナデ・外面胴部ヘラケズリ	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　5YR6/6（橙色）	

第15表　H15号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
43—1	須恵器	坏	— (9.7) 〈4.1〉	底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　N6/0（灰色）	

第16表　H16号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
45—1	須恵器	坏	(12.7) (7.4) 3.4	口縁1/4	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　N5/0（灰色）	
45—2	土師器	坏	(14.4) (8.0) 3.9	底部1/2	口縁ヨコナデ・内面底部ナデ・外面体部・底部ヘラケズリ→内面暗文状ヘラミガキ（口縁放射状・底部らせん状）	胎土　砂粒を少量含む 焼成　良好 色調　5YR7/6（橙色）	

第17表　H17号B住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
49—1	須恵器	坏	13.1 6.7 3.9	ほぼ完形	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　2.5Y8/1（灰白色）	
49—2	須恵器	坏	(14.6) 9.3 3.1	口縁1/3 底部3/4	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部外周回転ヘラケズリ	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　N5/0（灰色）	

第18表　H18号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
52—1	須恵器	甕	— — —	破片	外面タタキ・内面ナデ	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　N6/0（灰色）	

第19表　D1号土坑出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
60—1	須恵器	坏	14.5 6.4 3.9	ほぼ完形	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子・黒色粒子・砂粒 焼成　良好 色調　N7/0（灰白色）	

第20表　D6号土坑出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
65—1	須恵器	坏	(14.2) (7.6) 4.4	口縁1/8 底部1/2	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5Y6/1（灰色）	火だすきあり
65—2	須恵器	坏	— (7.8) 〈1.6〉	底部1/4	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　5Y6/1（灰色）	
65—3	土師器	坏	(12.1) 7.9 4.1	口縁1/3 底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ→内面ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR6/4（にぶい橙色）	

66—4	須恵器	甕	— — 〈6.0〉	破片	口縁～頸部ロクロナデ・外面胴部タタキ（平行）・内面胴部ナデ	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　N5/0（灰色）	
66—5	須恵器	鉢	— — 〈2.2〉	破片	内面ロクロナデ・外面底部～外周ヘラケズリ	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5Y8/1（灰白色）	
66—6	須恵器	甕	— — 〈12.9〉	底部1/4	外面タタキ（平行）・内面ヘラナデ	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　N6/0（灰色）	

第21表　Ｄ７号土坑出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
68—1	須恵器	坏	(13.8) 6.4 4.0	口縁1/8 底部3/4	ロクロナデ→底部回転糸切り	胎土　白色粒子・黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5Y6/1(灰色)	火だすきあり
68—2	須恵器	甕	— — 〈8.2〉	底部1/4	外面胴部タタキ（平行）・底部外周手持ちヘラケズリ・内面ナデ	胎土　白色粒子・砂粒を含む 焼成　良好 色調　N3/0（暗灰色）	自然釉付着

第22表　Ｄ８号土坑出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
70—1	須恵器	坏	— (8.4) 〈1.9〉	底部1/2	ロクロナデ→底部切り離し後回転ヘラケズリ	胎土　密。白色粒子・黒色粒子 焼成　良好 色調　10BG4/1（暗青灰色）	

第23表　Ｍ６号溝状遺構出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
80—1	縄文	深鉢	— — —	破片	内面ヘラミガキ・外面ヘラミガキ及び無節充填縄文	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　7.5YR7/3（にぶい橙色）	

第24表　グリッド・トレンチ出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形・調整	胎土・焼成・色調	備考
88—1	土師器	坏	(13.7) (5.4) 4.2	口縁1/4 底部完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ（十字）後黒色処理	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外2.5YR6/6（橙色）	外面に墨書あり（「財」） き—14G
88—2	土師器	坏	12.6 6.3 4.5	完形	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面黒色処理	胎土　白色粒子を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外5YR6/6（橙色）	か—12G
88—3	土師器	坏	(13.4) — 〈4.6〉	口縁1/3	内面ナデ・口縁ヨコナデ・外面体部ナデ後ヘラケズリ	胎土　微小の砂粒を少量含む 焼成　良好 色調　2.5YR5/6（明赤褐色）	か—7G
88—4	土師器	坏	(13.6) (7.4) 4.1	口縁1/4	ロクロナデ→底部回転糸切り→内面暗文状ヘラミガキ後黒色処理	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　内10YR1.7/1（黒色） 外7.5YR6/6（橙色）	F2トレンチ
88—5	須恵器	坏	— — 〈1.2〉	破片	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ナデ	胎土　黒色粒子を含む 焼成　良好 色調　7.5Y7/1（灰白色）	外面底部にヘラ記号あり D1トレンチ

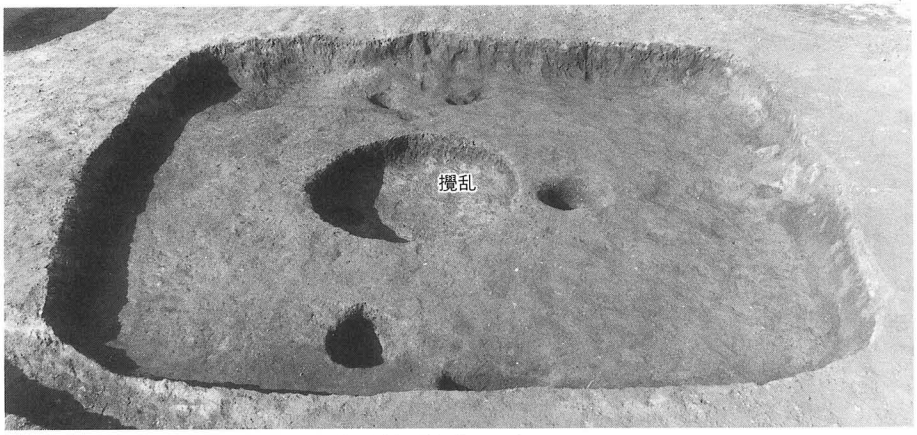
写　真　図　版

赤座垣外遺跡航空写真

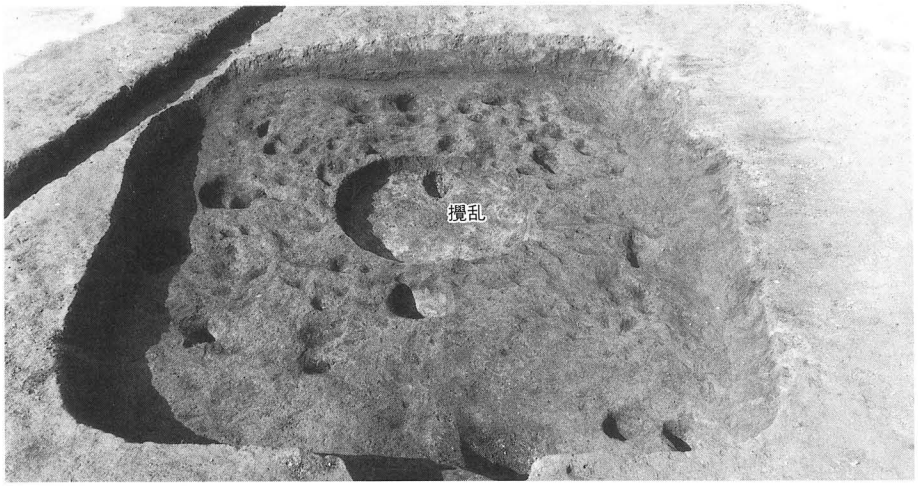
図版一

1　赤座垣外遺跡近景（H5・6付近、東方より）

2　赤座垣外遺跡近景（D6・7付近、南東より）



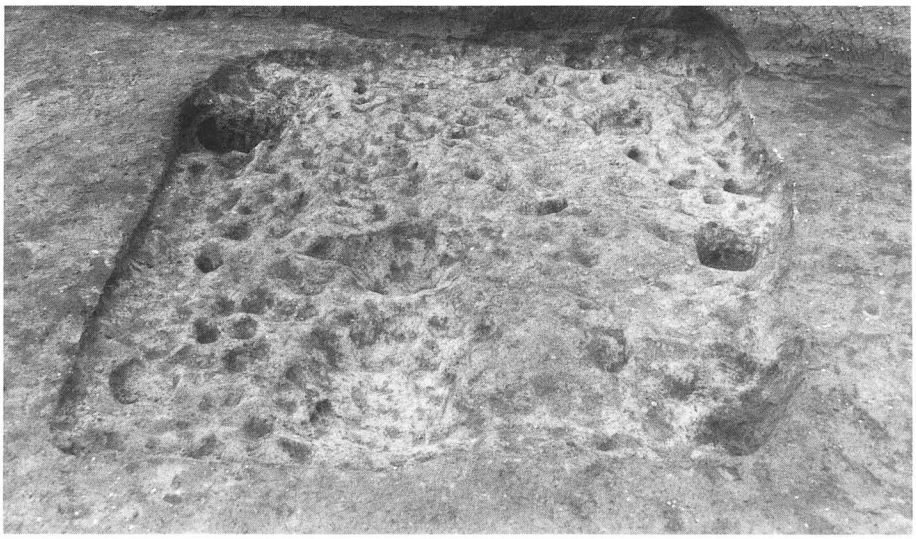
1　H1号住居址（南方より）



2　H1号住居址掘り方（東方より）

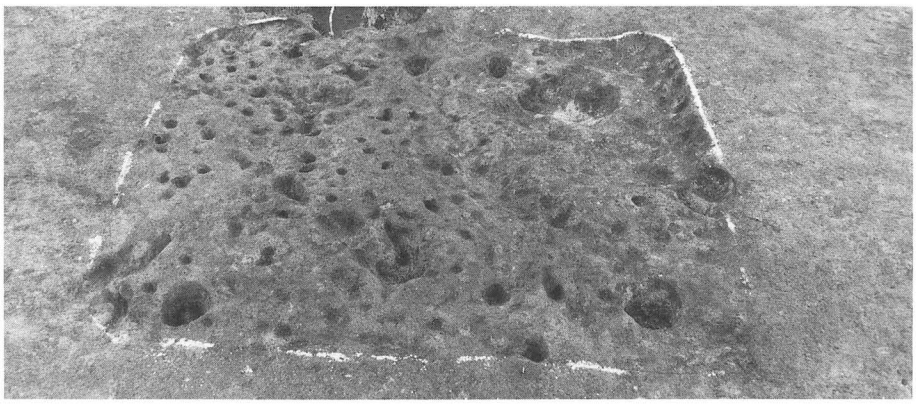
3　H2号住居址（南方より）

図版 三

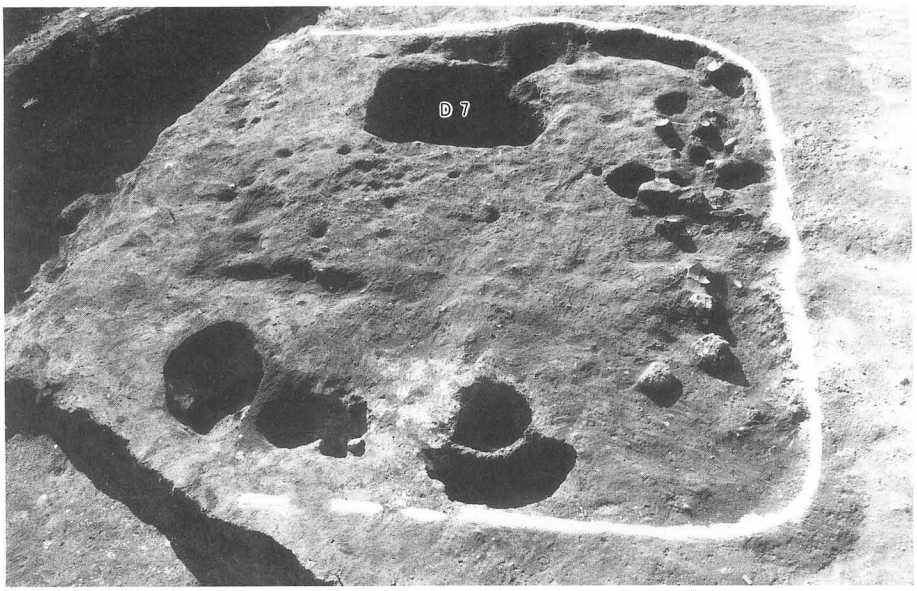


1　H2号住居址掘り方（南方より）

2　H3号住居址（南方より）

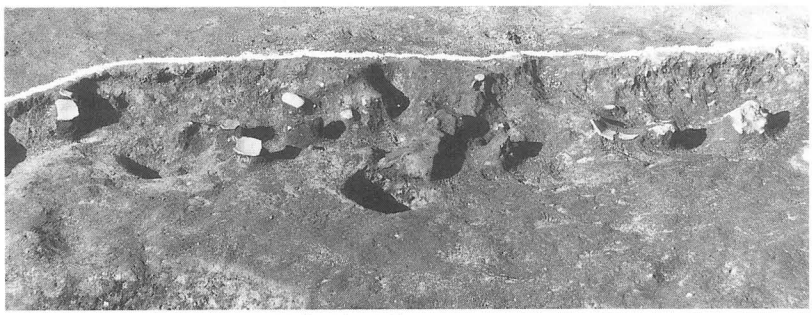


3　H3号住居址掘り方（南方より）



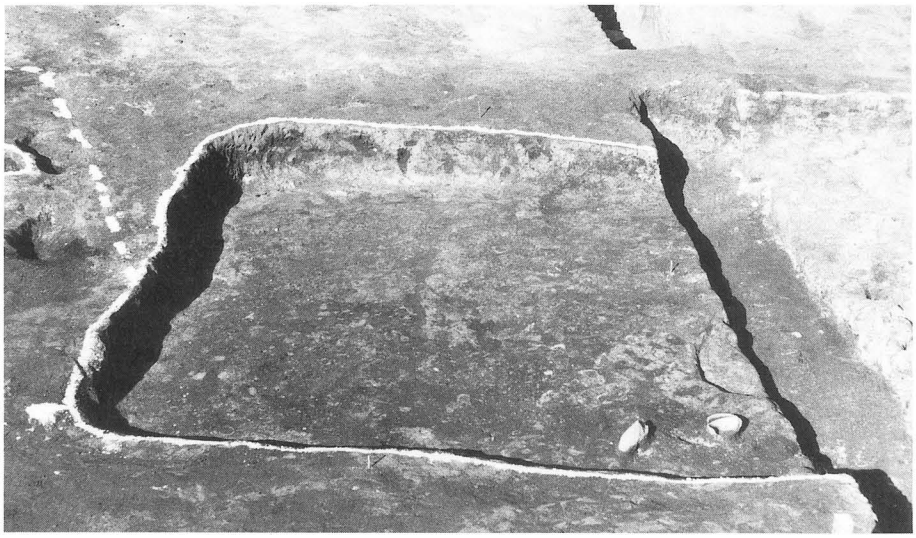
1　H4号住居址（東方より）

2　H4号住居址（北方より）

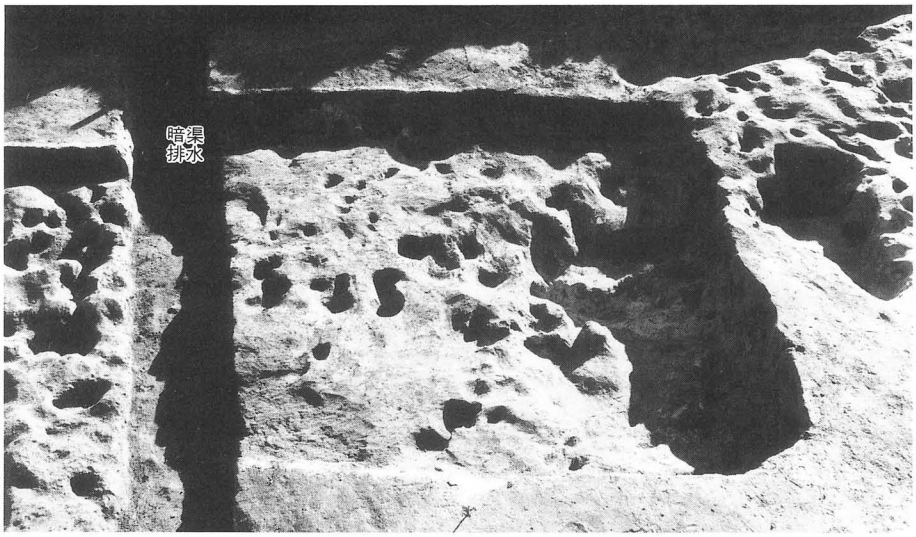


3　H4号住居址遺物出土状況（南方より）

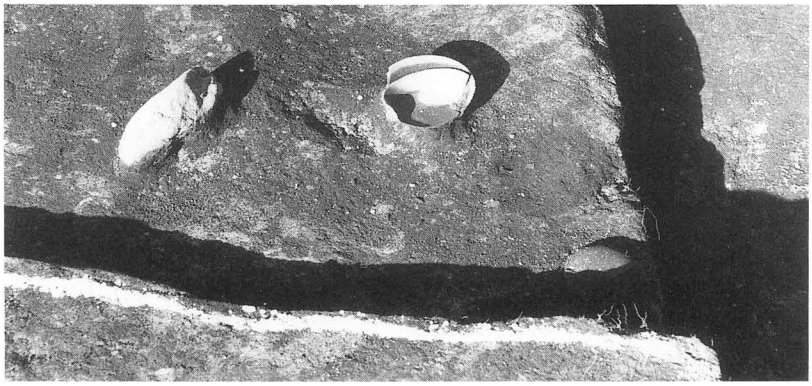
図版　五



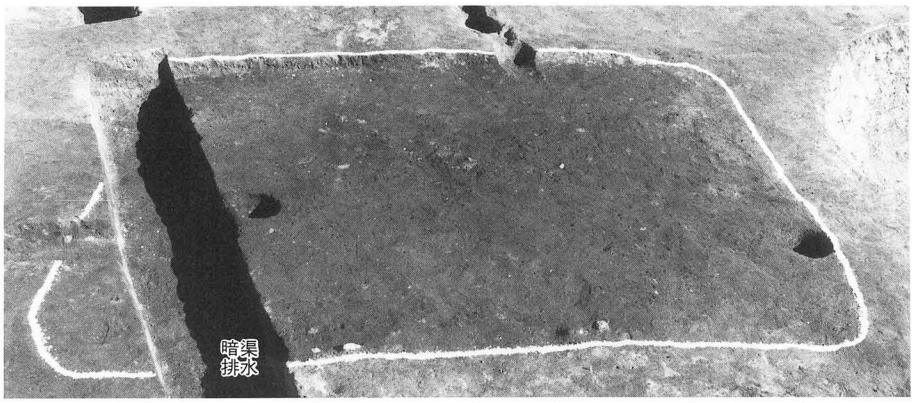
1　H5号住居址（南方より）



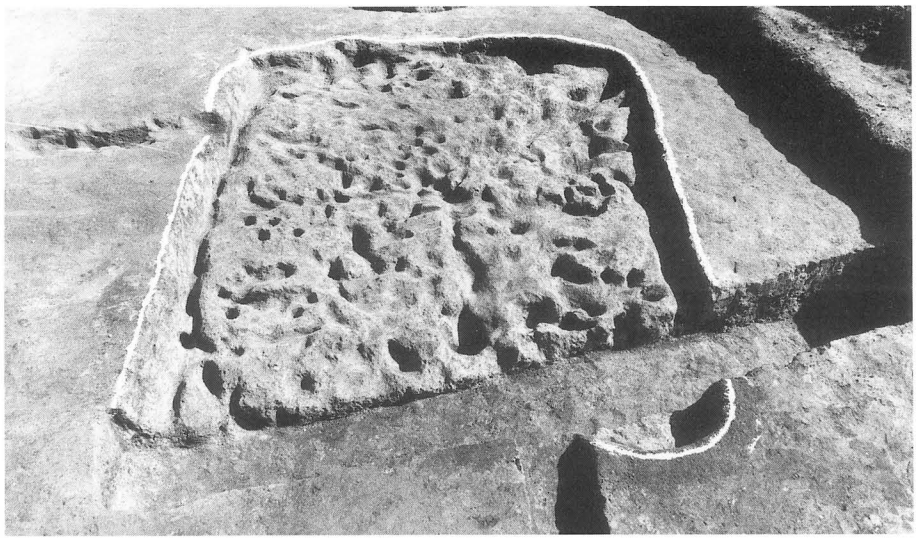
2　H5号住居址掘り方（北方より）



3　H5号住居址遺物出土状況（南方より）



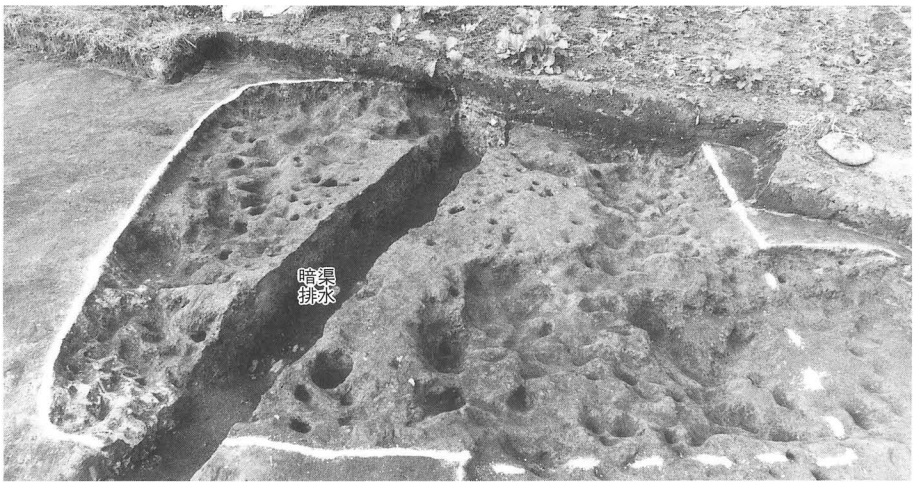
1　H6号住居址（南方より）



2　H6号住居址掘り方（西方より）

3　H7号住居址（南方より）

図版 七

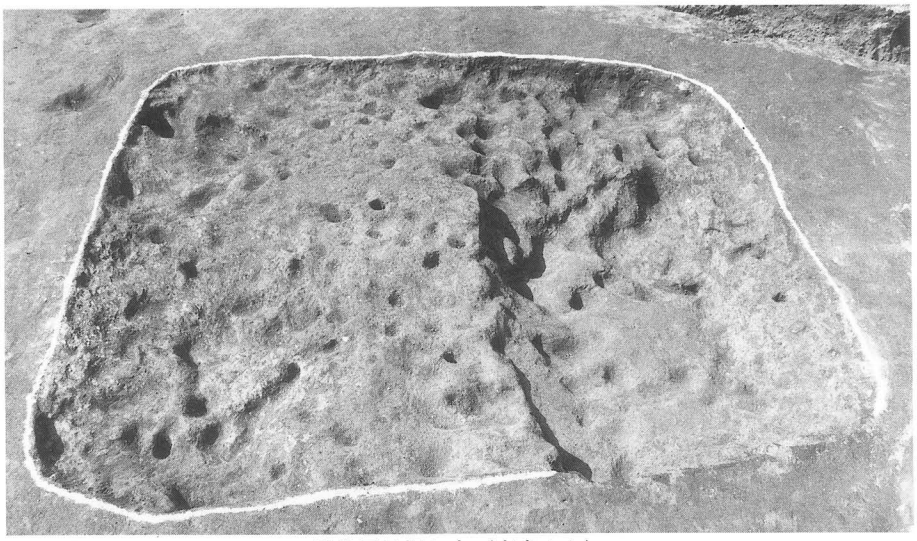


1　H7号住居址掘り方（南方より）

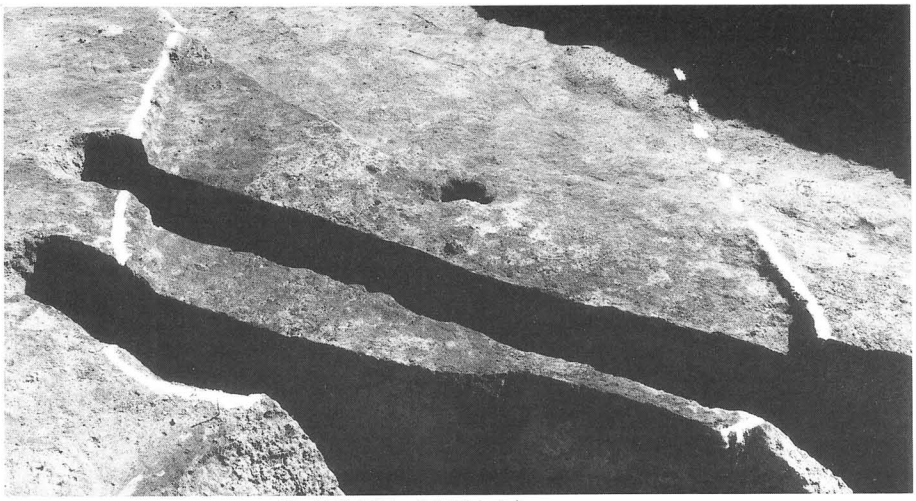
2　H7号住居址礎石検出状況（東方より）

3　赤座垣外遺跡スナップ

4　H8号住居址（南方より）



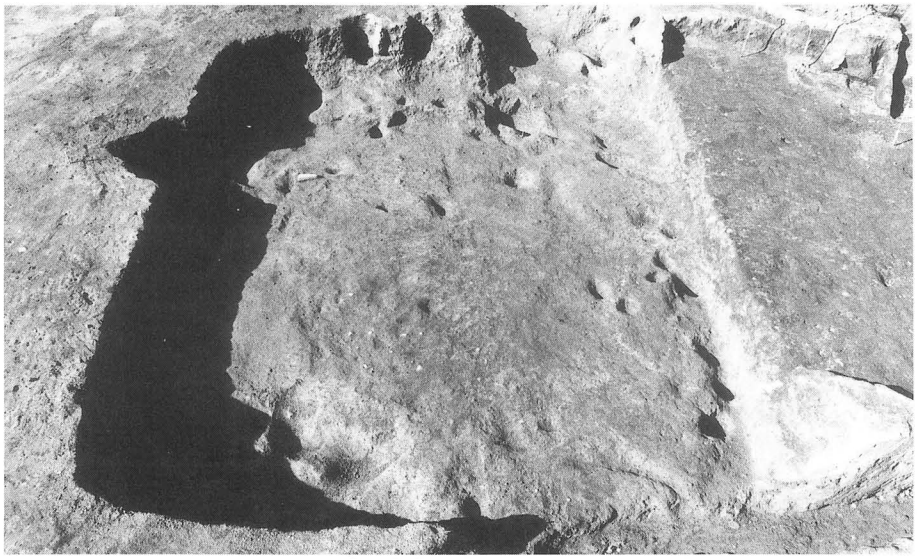
1　H8号住居址掘り方（南方より）



2　H9号住居址（北西より）

3　H10号住居址（東方より）

図版　九

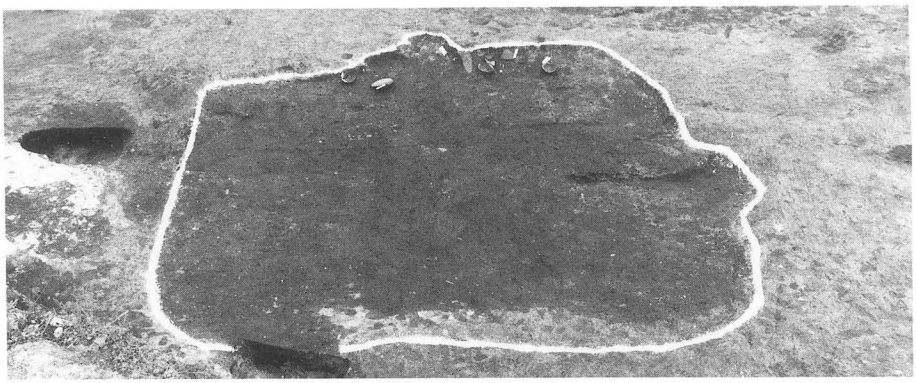


1　H10号住居址掘り方（東方より）

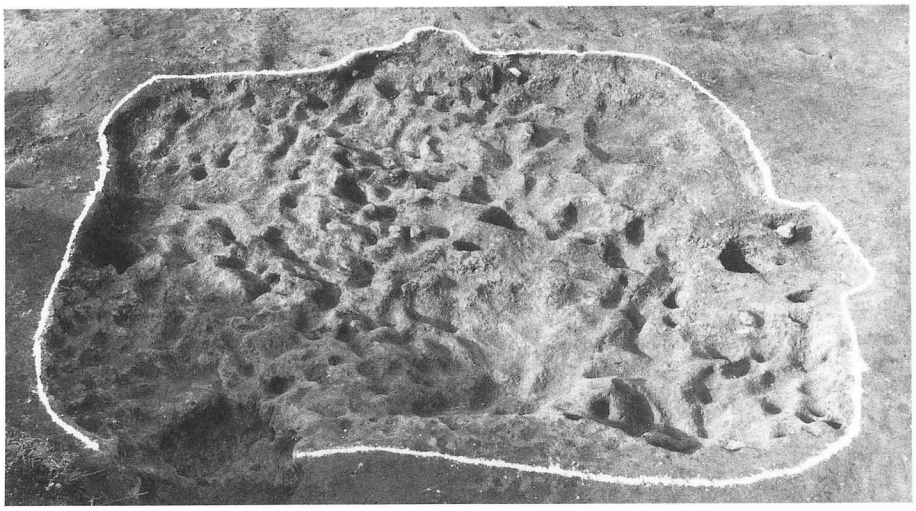
2　H10号住居址カマド（南方より）

3　H11号住居址（南方より）

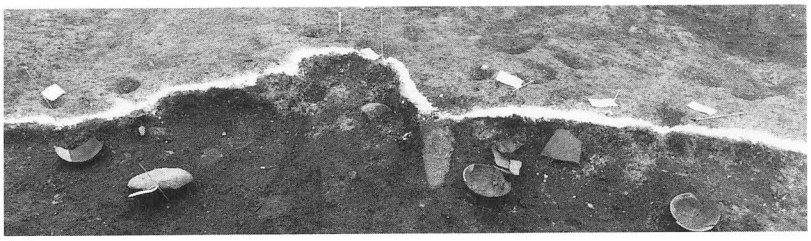
1　H12号住居址（南方より）



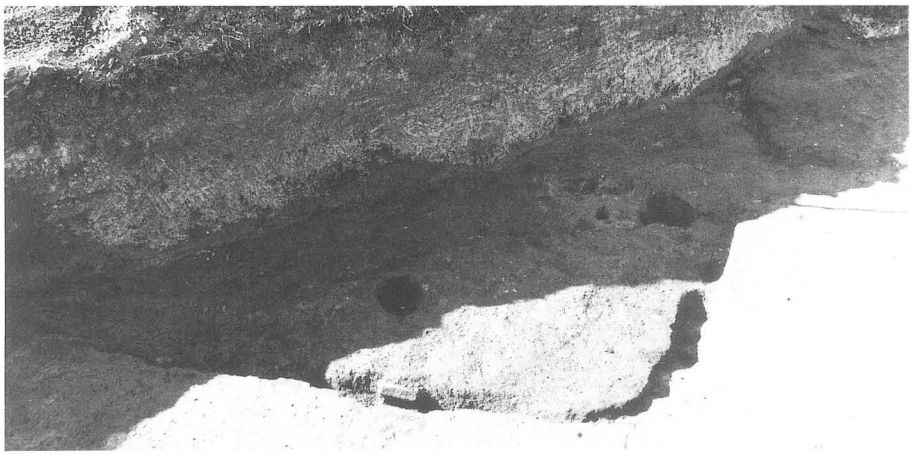
2　H13号住居址（南方より）



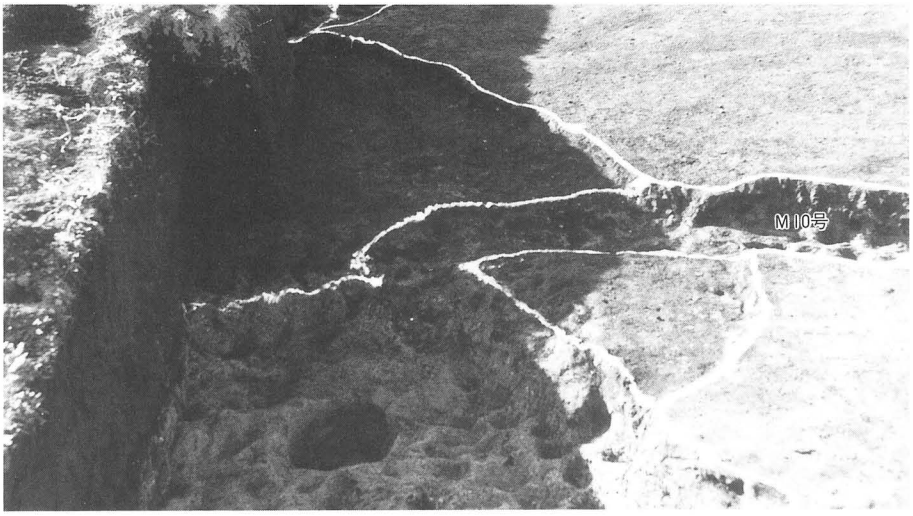
3　H13号住居址掘り方（南方より）



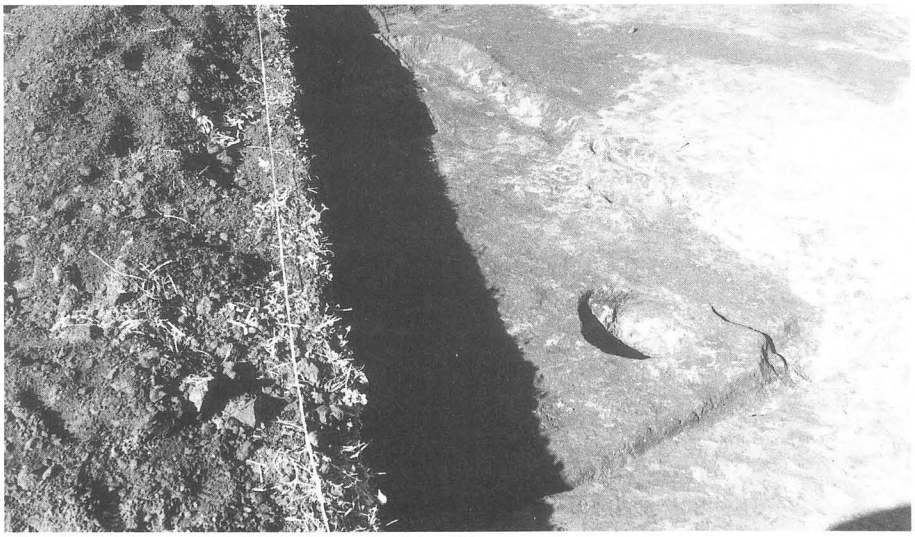
4　H13号住居址遺物出土状況（南方より）



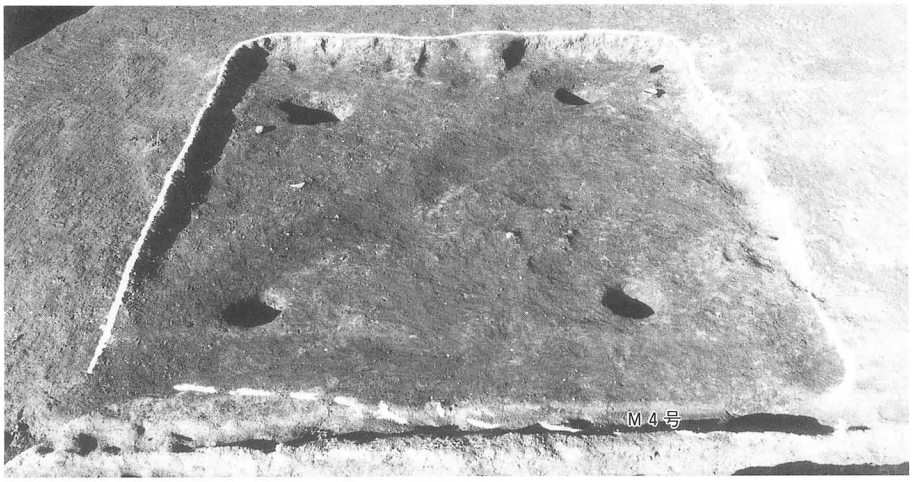
1　H14号住居址（北方より）



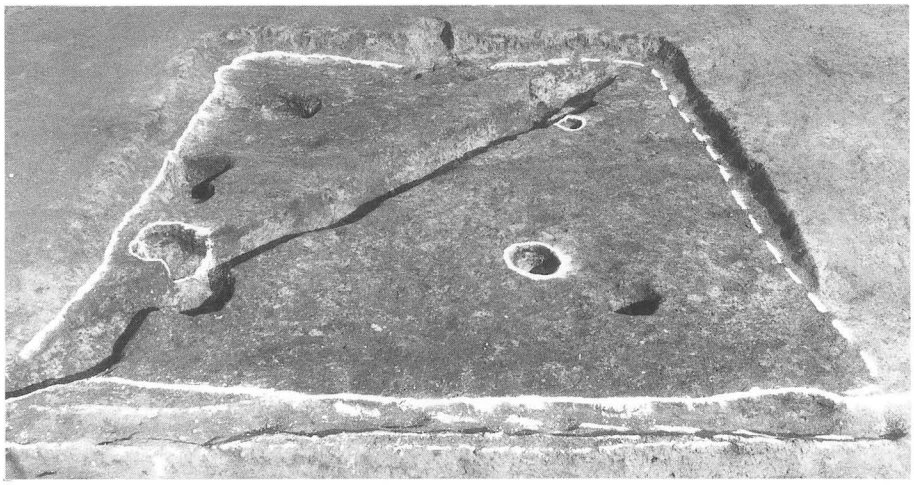
2　H15号住居址（東方より）



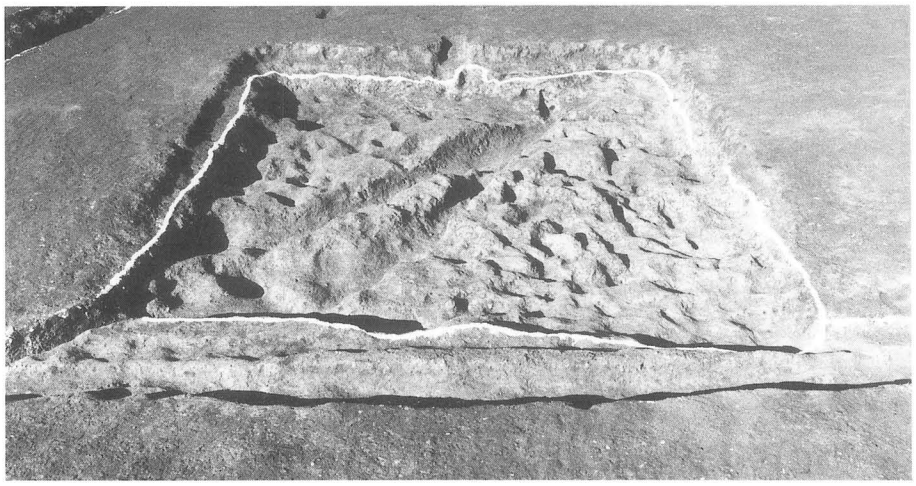
3　H16号住居址（東方より）



1　H17号B住居址（南方より）



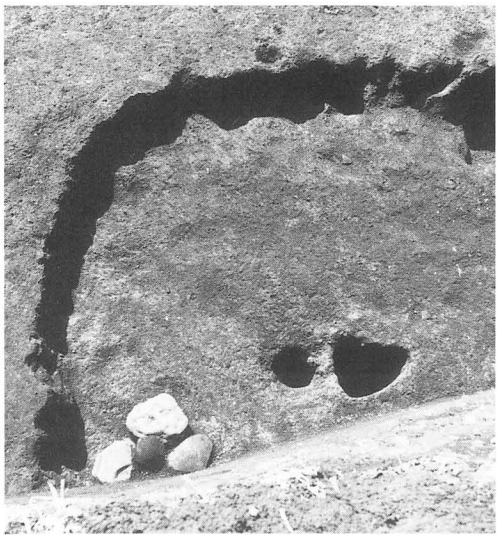
2　H17号A住居址（南方より）



3　H17号A・B住居址掘り方（南方より）

図版 十三

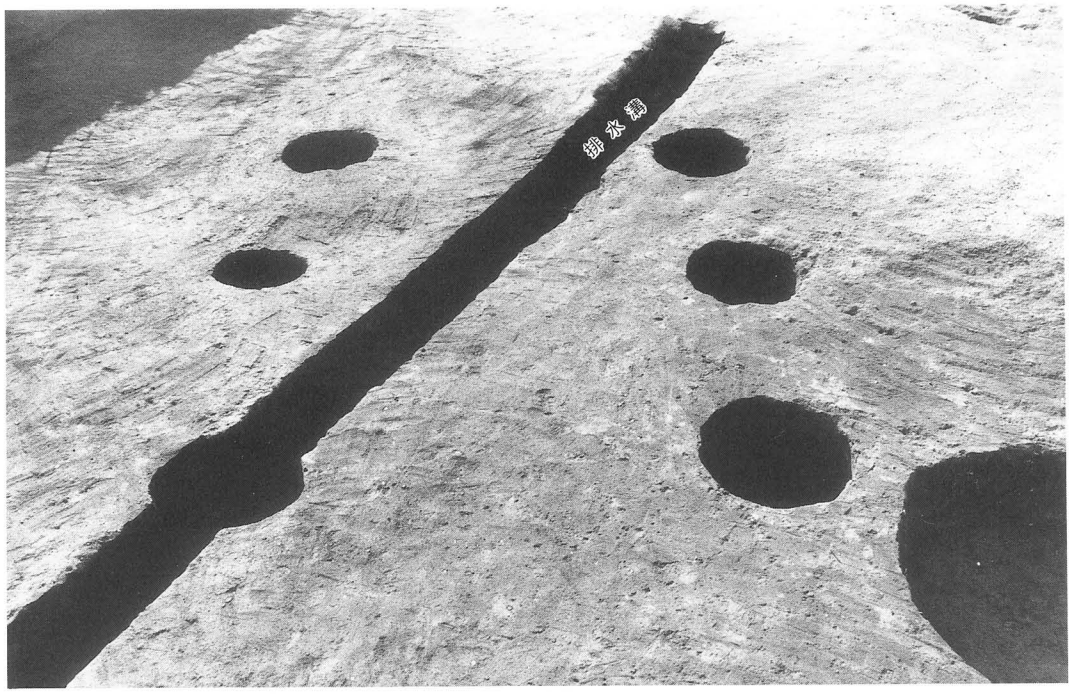
1　H17号B住居址カマド（南方より）



2　H18号住居址遺物出土状況（北方より）

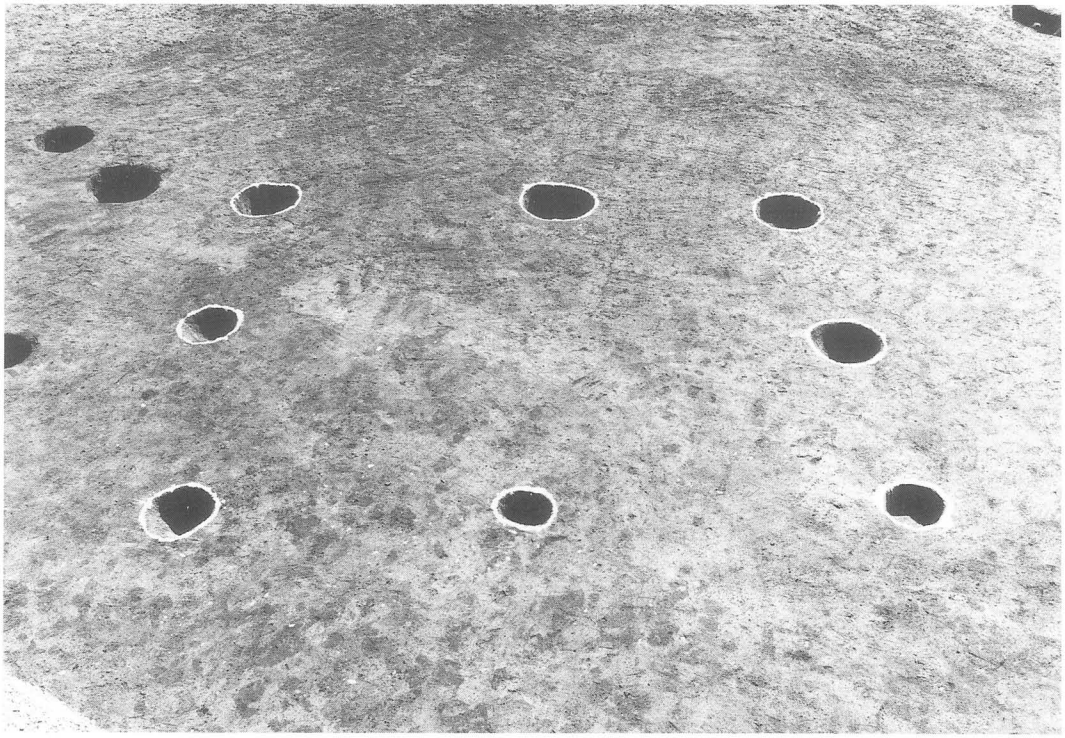
3　H18号住居址（西方より）

4　H18号住居址掘り方（南方より）



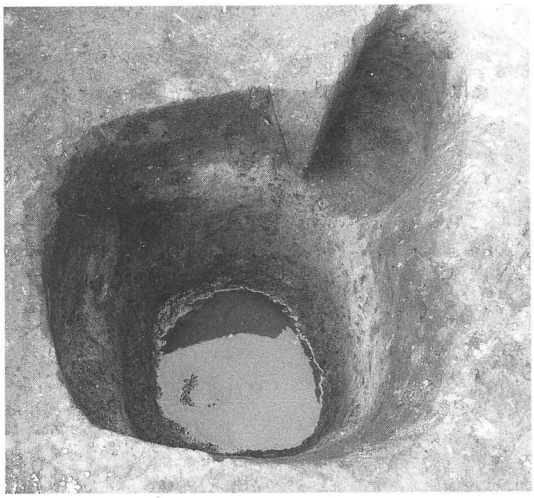
1　F1号掘立柱建物址（西方より）

2　F2号掘立柱建物址（西方より）



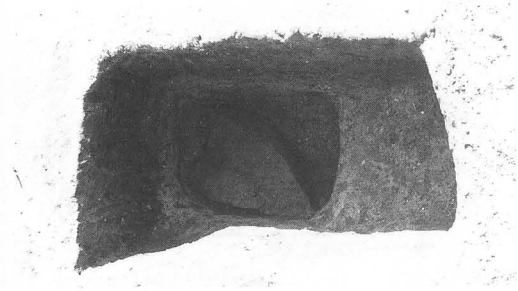
1　Ｆ3号掘立柱建物址（北方より）

2　Ｆ4号掘立柱建物址（南方より）

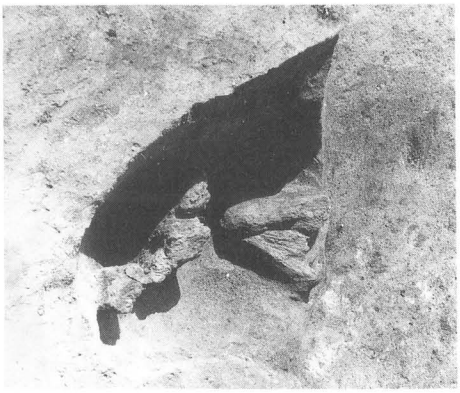


1　D1号土坑

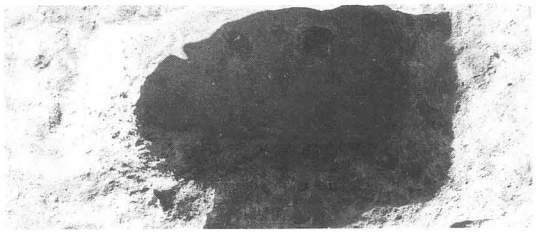
5　D1号土坑遺物出土状況



2　D2号土坑



6　D3号土坑

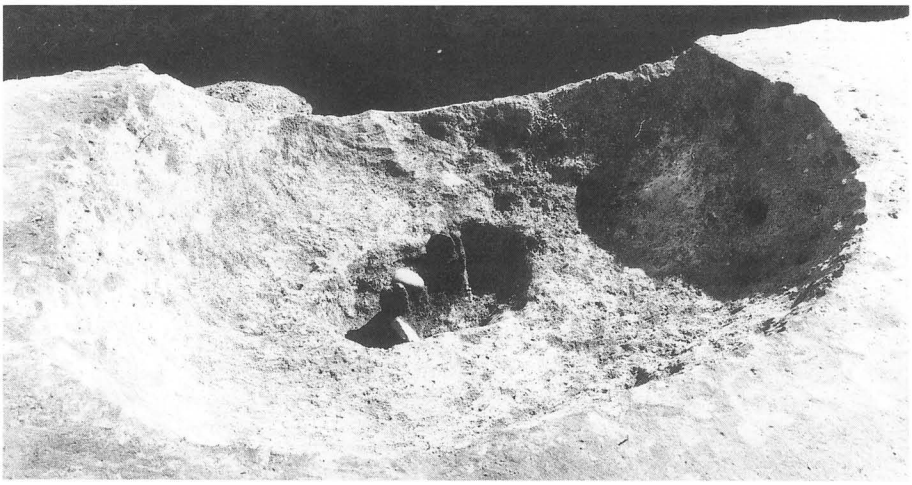


3　D4号土坑

4　D5号土坑

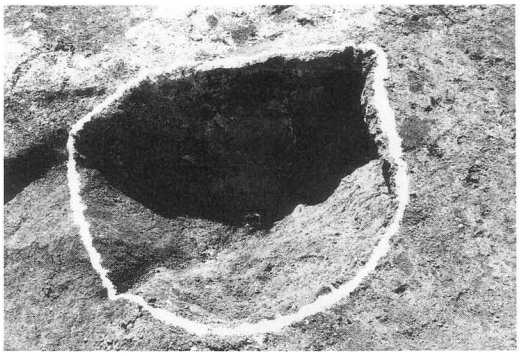
7　D5号土坑

1　D6号土坑

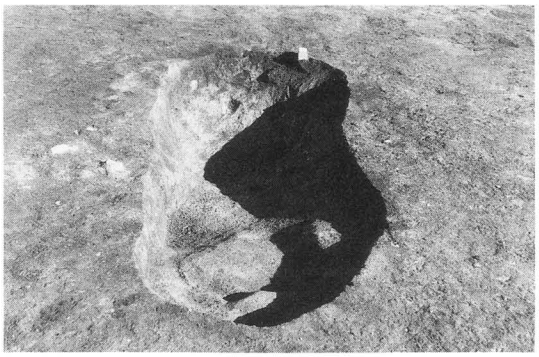


2　D6号土坑遺物出土状況

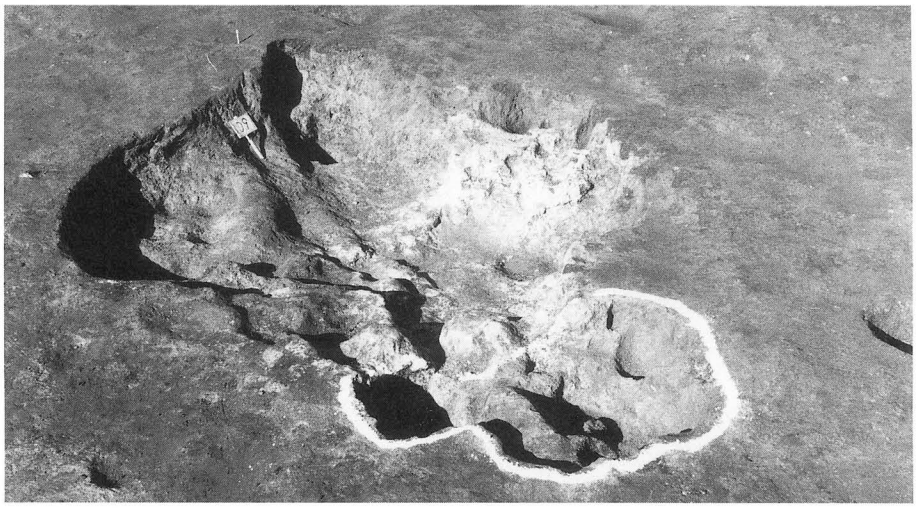
3　D7号土坑



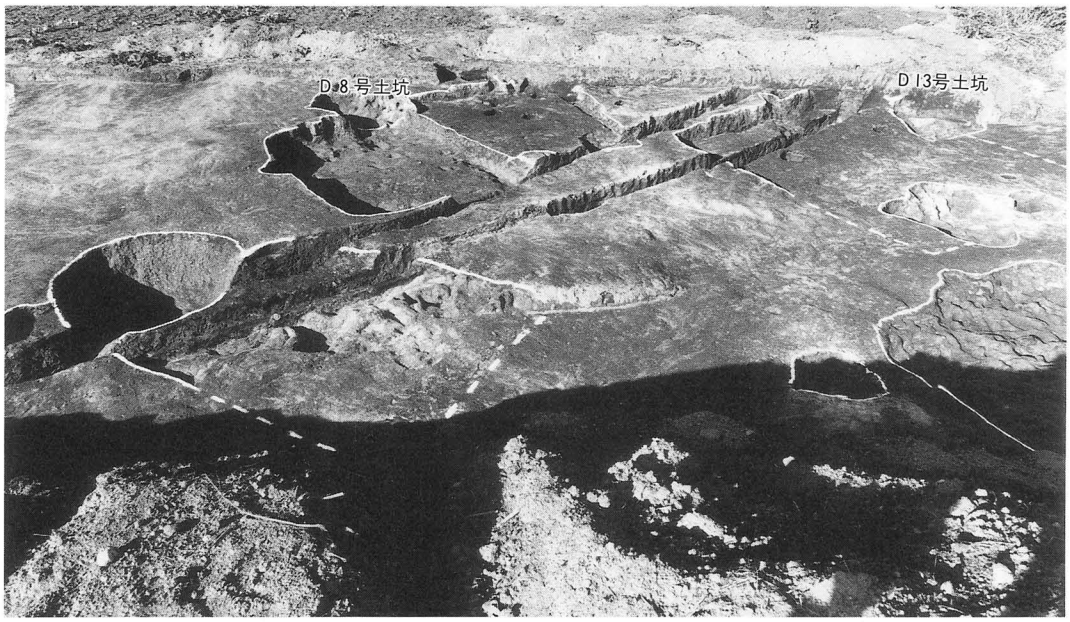
1　D10号土坑



2　D14号土坑

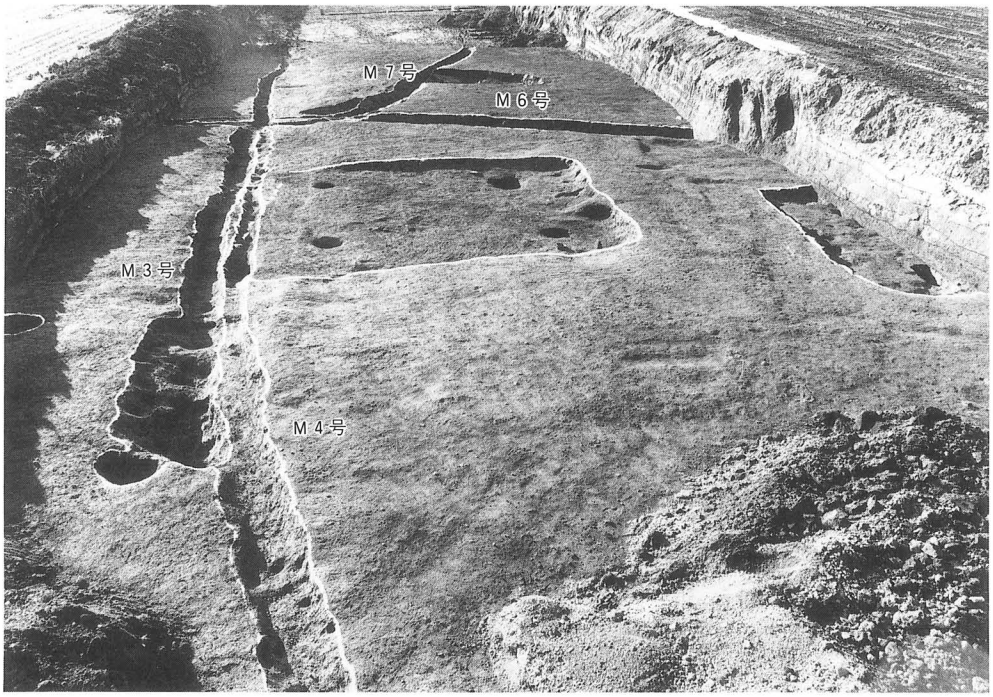


3　D9号土坑(粘土坑)

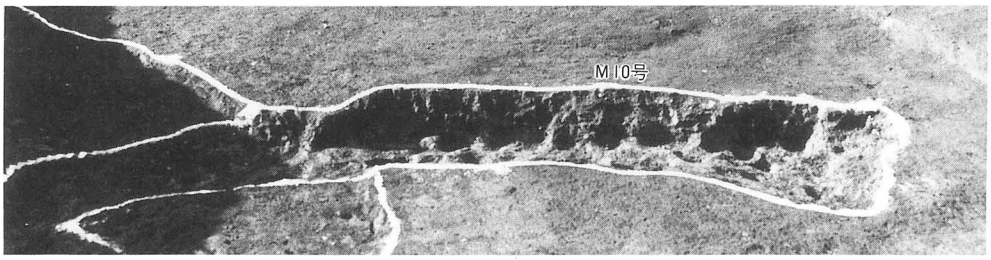


4　赤座垣外遺跡H12・D8・D13号付近近景

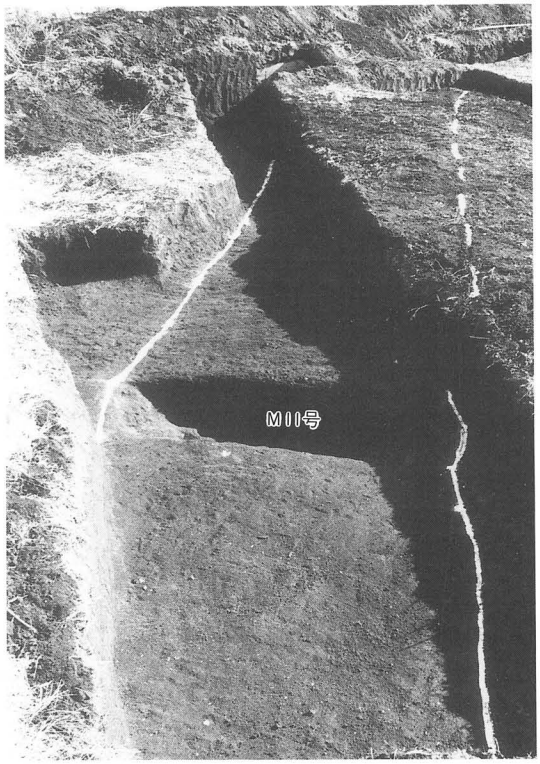
1　M1・2号溝状遺構



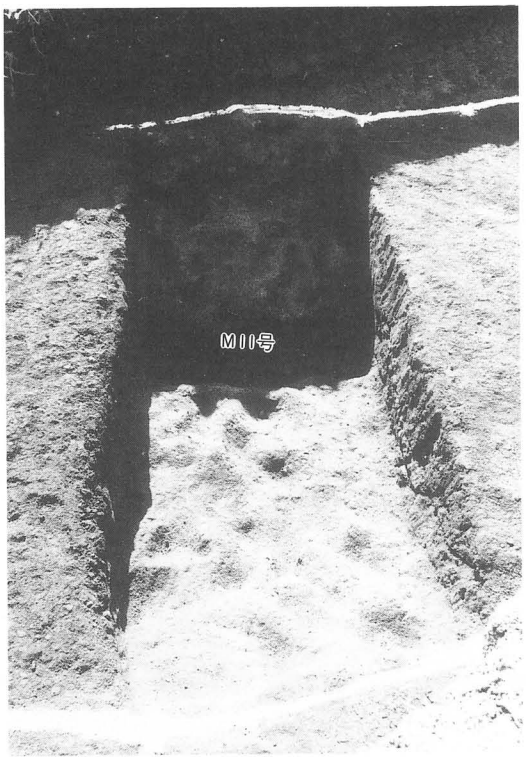
2　M3・4・6・7号溝状遺構



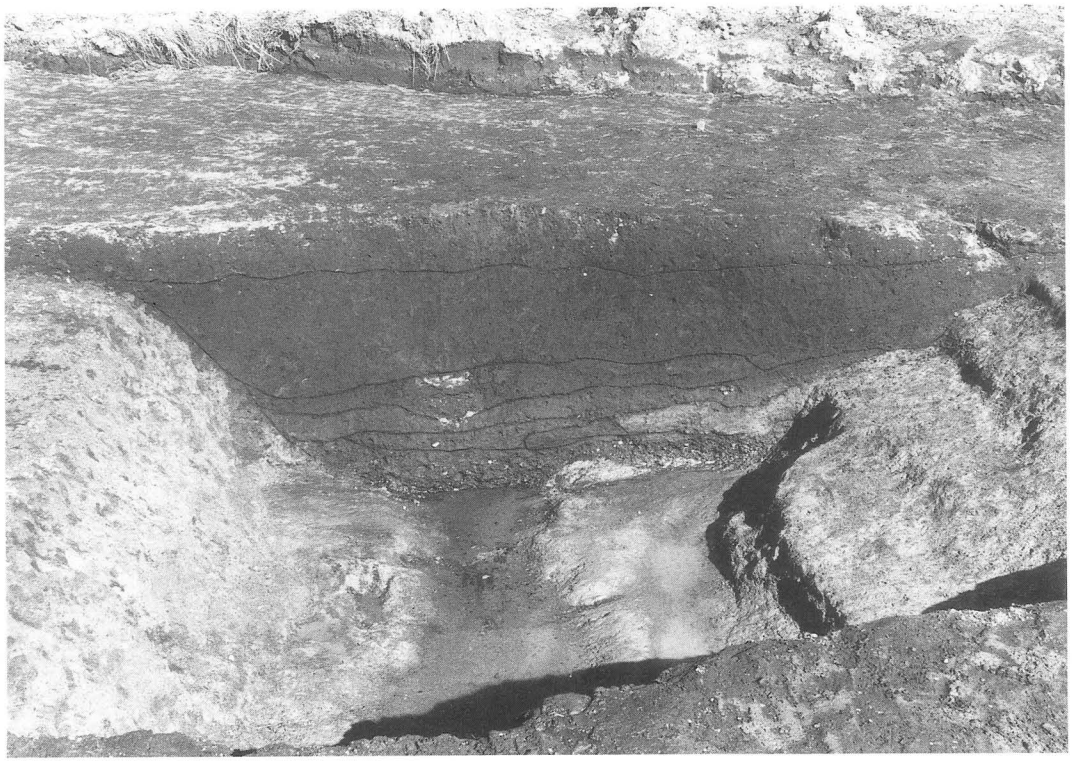
3　M10号溝状遺構



1　M11号溝状遺構

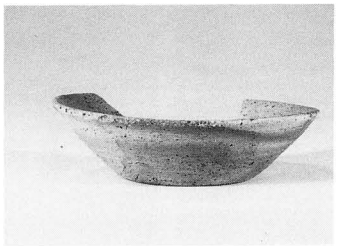


2　M11号溝状遺構

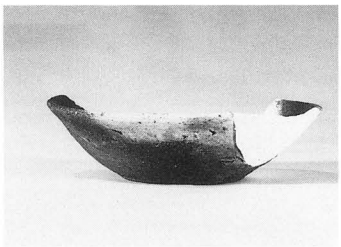


3　M13号溝状遺構

H—1　5—1

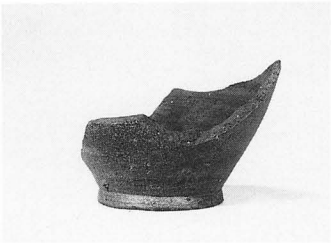


H—1　5—2

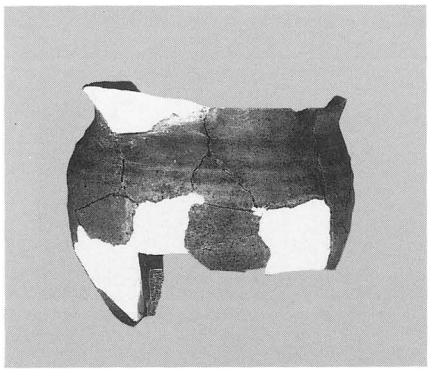


H—1　5—3

H—1　5—9



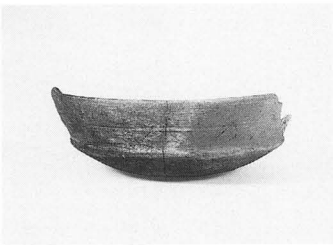
H—1　5—15



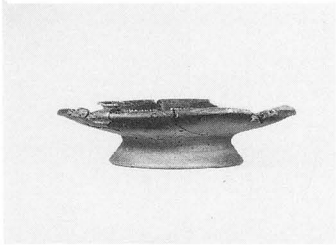
H—3　10—7

H—4　14—3

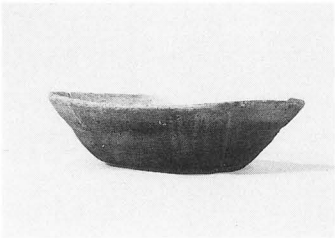
H—5　16—1



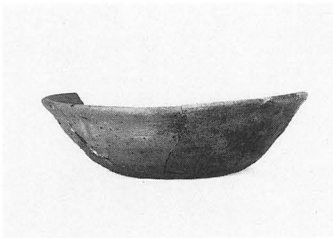
H—5　16—2



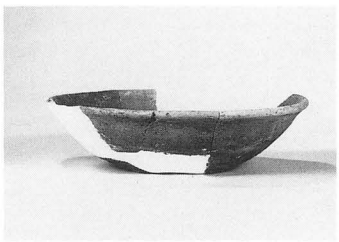
H—5　16—6



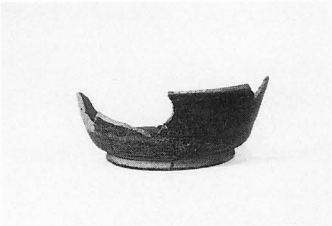
H—7　20—1



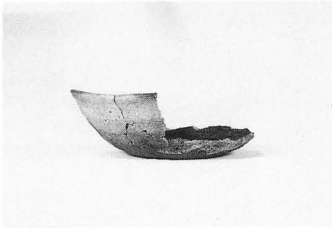
H—7　20—2



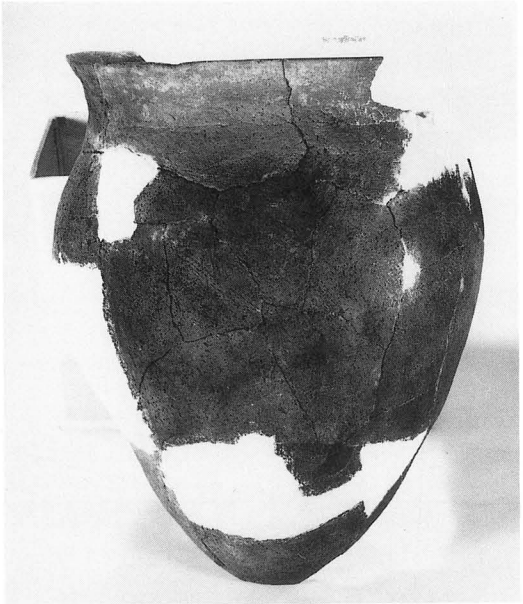
H—7　20—4



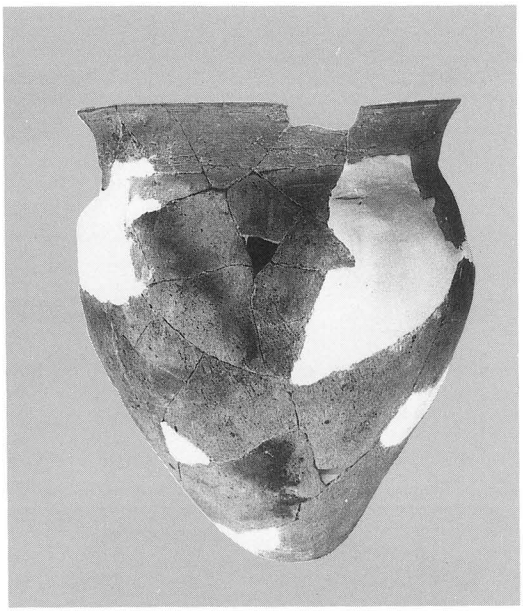
H—7　20—6



H—8　23—1

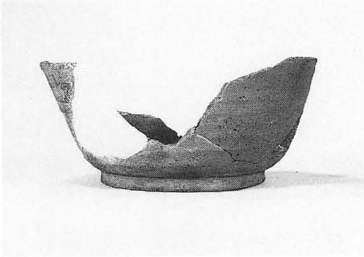


H—10　29—4

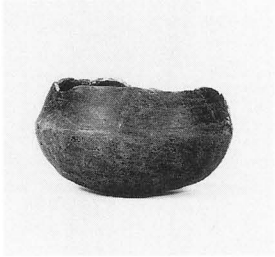


H—10　29—5

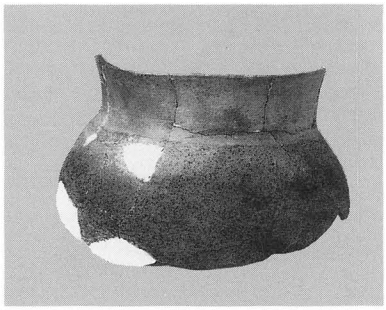
H—10　27—1



H—10　27—2



H—11　33—1



H—12　36—2

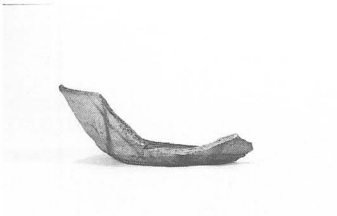
H—13　40—1

H—13　40—2

H—17B　49—1

H—17B　49—2

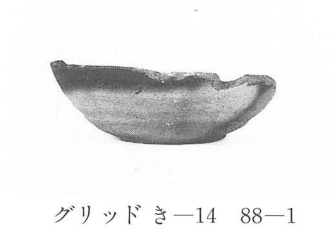
D—1　60—1



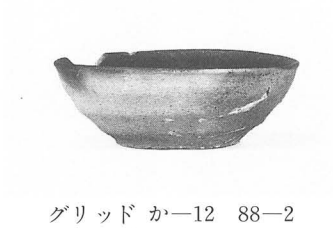
D—6　65—1

D—6　65—3

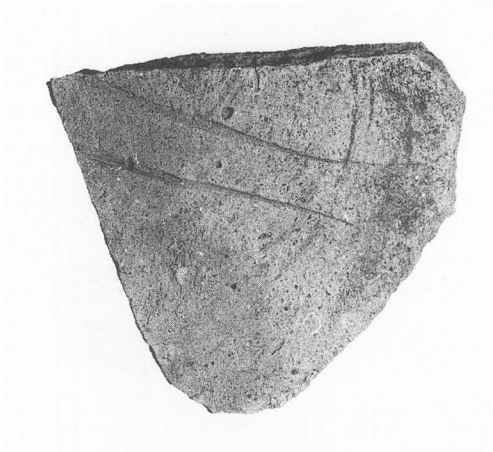
D—7　68—1



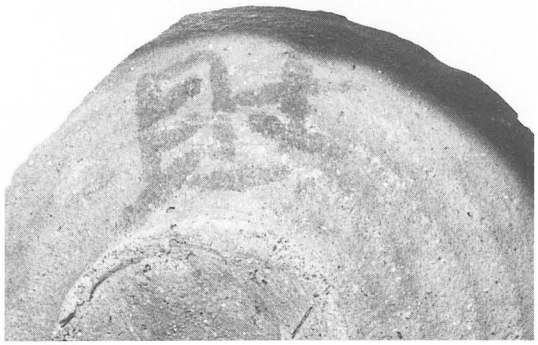
グリッドき—14　88—1



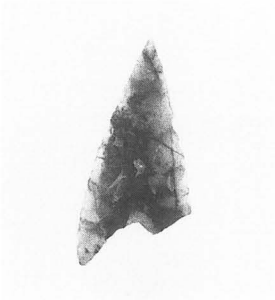
グリッドか—12　88—2



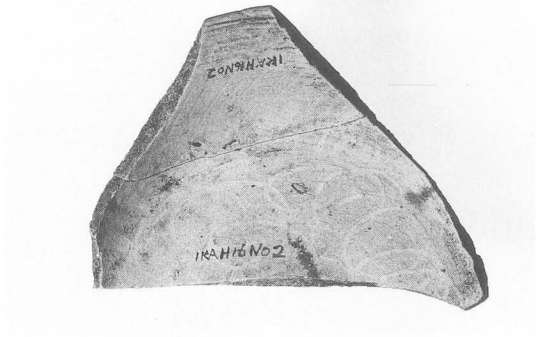
D1トレンチ　88—1



墨書土器　グリッドき—14　88—1



M—11　85—1



幾内系暗文　H—16　45—2

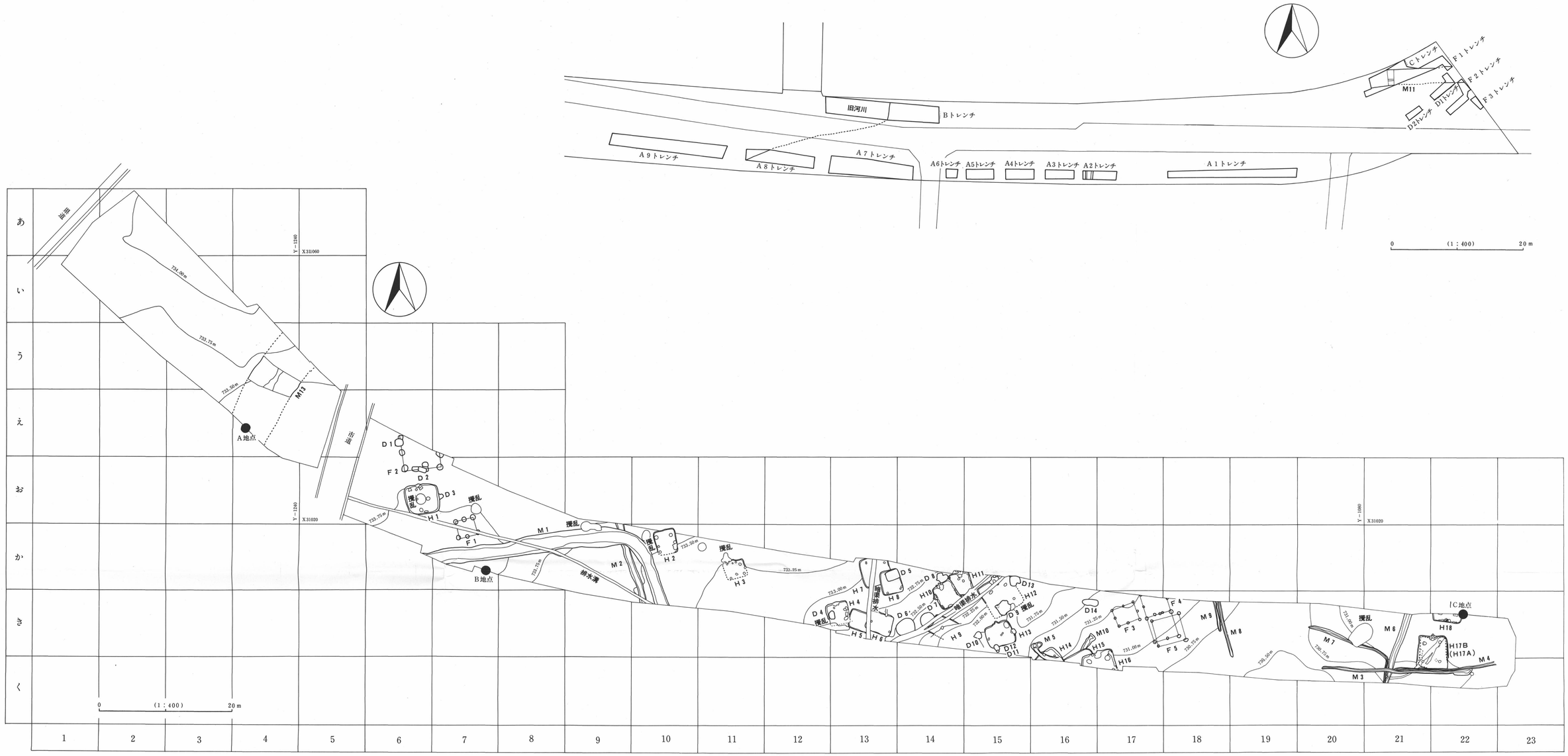
佐久市埋蔵文化財調査報告書第１集　『金井城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第２集　『市内遺跡発掘調査報告書1990』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第３集　『石附窯址群Ⅲ』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第４集　『大ふけ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第５集　『立科Ｆ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第６集　『上曽根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第７集　『三貫畑遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第８集　『瀧の下遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第９集　『国道141号関係遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書第10集　『聖原Ⅱ遺跡』

長野県佐久市

佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集
赤座垣外遺跡発掘調査報告書

1992

編集者　佐久市教育委員会
発行者　佐久市教育委員会
印刷所　株式会社　櫟〈いちい〉



付図　赤座垣外遺跡全体図（1：400）